

茨城県教育財団文化財調査報告第377集

# 赤太郎遺跡

阿見吉原東土地区画整理事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

平成25年3月

茨城県竜ヶ崎工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



あか た ろう  
**赤 太 郎 遺 跡**

阿見吉原東土地区画整理事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

平成25年3月

茨城県竜ヶ崎工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団



## 序

茨城県は、21世紀の社会を展望し、県全域にわたる調和のとれた発展を図るために、県内の交通体系の整備を進めています。また、首都圏中央連絡自動車道の整備に伴い、阿見町吉原地区に隣接する牛久市に、阿見東インターチェンジが設置されました。

阿見吉原東土地区画整理事業は、インターチェンジへの接続道路になる地域幹線道路の整備と共に、インターチェンジ周辺部に商業及び業務系施設や住宅地の形成を図り、当地域及び周辺地域の活性化と秩序ある発展に寄与することを目的として計画されています。しかしながら、この事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である赤太郎遺跡が所在することから、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が茨城県竜ヶ崎工事事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成22年4月から7月までと平成23年9月の5か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、赤太郎遺跡の調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります茨城県竜ヶ崎工事事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成25年3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 鈴木 欣一



## 例　　言

1 本書は、茨城県竜ヶ崎工事事務所の委託により、財團法人茨城県教育財團（現 公益財團法人茨城県教育財團）が平成 22・23 年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町吉原字赤太郎 1989 番地の 1 ほかに所在する赤太郎遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成 22 年 4 月 1 日～7 月 31 日

平成 23 年 9 月 1 日～30 日

整理 平成 24 年 11 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

3 発掘調査は、平成 22 年度は調査課長池田晃一、平成 23 年度は調査課長樋村宣行のもと、以下の者が担当した。

平成 22 年度

首席調査員兼班長 皆川 修

主任調査員 本橋弘巳

調査員 大久保隆史

平成 23 年度

首席調査員兼班長 稲田義弘

首席調査員 寺内久永

調査員 前島直人

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、次席調査員櫻井完介が担当した。

## 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = - 520 m. Y = + 35,800 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j、西から東へ 1, 2, 3, … 0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 P - ピット SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 堆穴住居跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴

遺物 DP - 土製品 G - ガラス製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品

土層 K - 扰乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。



● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品 ■ ガラス製品



炉・火床面

--- 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。計測値の単位は m, cm, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 堆穴住居跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸(径)方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N - 10° - E)。

# 目 次

序

例 言

凡 例

目 次

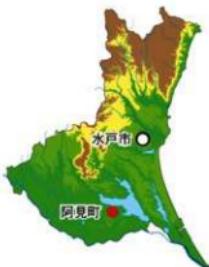
赤太郎遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
陥し穴	11
2 古墳時代の遺構と遺物	12
豎穴住居跡	12
3 その他の遺構と遺物	65
(1) 井戸跡	65
(2) 土坑	65
(3) 溝跡	68
(4) 遺構外出土遺物	69
第4節 まとめ	71
写真図版	PL 1 ~ PL14
抄 錄	
付 図	



# 赤太郎遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

赤太郎遺跡は、阿見町の南部に位置し、桂川左岸の標高 25 m ほどの台地平坦部から縁辺部に立地しています。阿見吉原東土地区画整理事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 22・23 年度に 9,382m<sup>2</sup>について発掘調査を行いました。



## 調査の内容

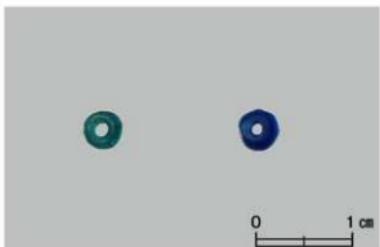
今回の調査区は、遺跡の南部にあたる台地平坦部に位置しています。調査の結果、古墳時代中期（約 1,600 年前）の竪穴住居跡 14 軒のほか、陥し穴、井戸跡、土坑、溝跡などが確認できました。主な出土遺物は、縄文土器、土師器、土製品（土玉・管状土錐）、石器（鎌・剥片）、石製品（勾玉・白玉・有孔円板・有孔方板・剣形品）、金属製品（鐵・轡・刀子）、ガラス製品（白玉）などです。



調査区全景（南上空から）



調査区全景（東上空から）



第3号住居跡から出土したガラス製臼玉



焼失住居から出土した炭化米



第2号住居跡から出土した土師器

## 調査の結果

当遺跡は、出土土器から、5世紀の前葉から中葉にかけての短期間に集落が営まれていたことがわかりました。

確認できた住居跡の多くは、貯蔵穴の周囲や出入口の周囲の床面が高まっているのが特徴です。同時期の住居跡で、床に高まりをもつものは、当遺跡から3km西側に位置する下小池遺跡でも、確認されています。

また、住居跡の多くは、廃絶時に埋め戻されたり焼かれたりしていました。それらの住居跡からは、祭祀に使われたと考えられる石製の臼玉や有孔円板、剣形品やガラス製の臼玉などが出土しています。このほかにも炭化した米や麦、豆も確認されました。古墳時代中期における住居を廃絶した時の祭祀の様子を垣間見ることができました。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

平成5年12月17日、茨城県知事（土木部扱い）及び平成11年1月21日、茨城県土木部長は、茨城県教育委員会教育長に対して、阿見吉原東土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成8年度に現地踏査を、平成10年1月19・20・27～30日に試掘調査を実施し、赤太郎遺跡の所在を確認した。平成11年3月18日、茨城県教育委員会教育長は茨城県土木部長あてに、事業地内に赤太郎遺跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成22年1月27日、茨城県竜ヶ崎工事事務所は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成22年2月18日、茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、赤太郎遺跡について工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成22年2月24日及び平成23年3月14日、茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して阿見吉原東土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成22年2月24日及び平成23年3月18日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、赤太郎遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財團法人茨城県教育財團（平成24年4月から公益財團法人茨城県教育財團）を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年4月1日から7月31日までと平成23年9月1日から9月30日まで発掘調査を実施した。

## 第2節 調 査 経 過

赤太郎遺跡の調査は、平成 22 年 4 月 1 日から 7 月 31 日までの 4 か月間と平成 23 年 9 月 1 日から 9 月 30 日の 1 か月にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成 22 年度

工程	期間	4 月		5 月		6 月		7 月	
		1	2	1	2	1	2	1	2
調査表 遺構	準備 確認								
遺構調査									
遺物洗浄 注写	整理 真整								
補足調査 撤収									

平成 23 年度

工程	期間	9 月	
		1	2
調査表 遺構	準備 確認		
遺構調査			
遺物洗浄 注写	整理 真整		
補足調査 撤収			

## 第2章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

赤太郎遺跡は、稲敷郡阿見町吉原字赤太郎 1989番地の1ほかに所在している。

阿見町は、茨城県の南部に位置し、標高 25 ~ 28 m の洪積台地である稲敷台地と、霞ヶ浦水系及び利根川水系による沖積地からなっている。当遺跡が立地する稲敷台地は、千葉県北部から茨城県南部に広がる常総台地の一部で、霞ヶ浦に流れ込む清明川や小野川支流の桂川、乙戸川などの河川によって開拓されているため、樹枝状に谷津があり込んだ複雑な地形を呈している。地質は、洪積世の古東京湾期に堆積した海成の砂層である成田層を基盤として、その上に斜交層理の顕著な竜ヶ崎層と呼ばれる砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層、褐色の関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている<sup>1)</sup>。

当遺跡は、霞ヶ浦に注ぐ清明川と桂川に開拓された標高 25 m ほどの稲敷台地上に立地している。遺跡は桂川左岸の台地平坦部から縁辺部にかけて所在し、東側と南側に幅の狭い支谷が入り込み、その低位面との比高は約 7 m である。同じ台地の 800 m 南には竜崎遺跡が、支谷を挟んだ約 1 km 南東の台地上には薬師入遺跡が所在している。当遺跡の西側の台地上は住宅地や畠地として、さらに西側の桂川流域の低地は水田として利用されている。

### 第2節 歴史的環境

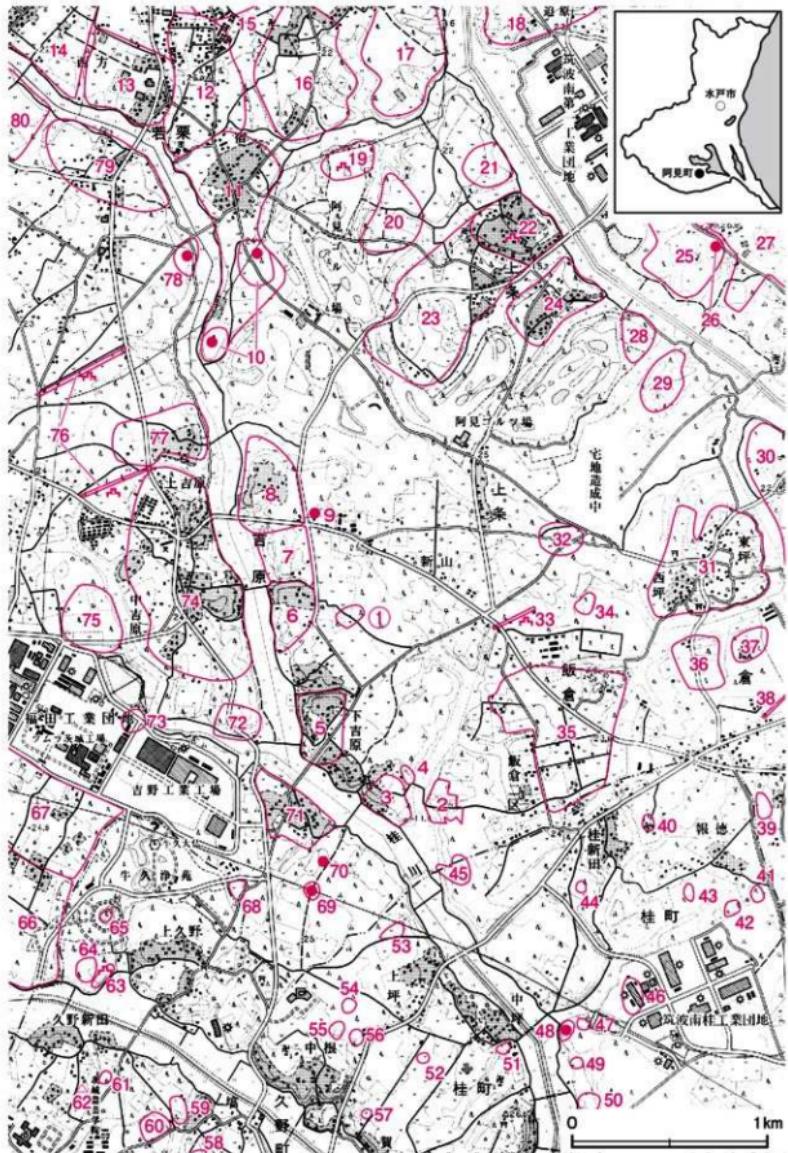
当遺跡が所在する桂川流域の台地上には、多くの遺跡が分布している。ここでは、当遺跡に関連する周辺遺跡を中心に、時代ごとに記述する<sup>2)</sup>。

旧石器時代の遺跡は、桂川流域では薬師入遺跡<sup>3)</sup>〈2〉、清明川流域では星合遺跡<sup>4)</sup>〈29〉などが確認されている。当遺跡の 1 km ほど南東に位置する薬師入遺跡では、2か所の旧石器集中地点から、楔形石器、石核、剥片が出土している。星合遺跡では、3か所の旧石器集中地点からナイフ形石器、スクレイパー、剥片が出土しており、石器製作の場であったことが確認されている。

縄文時代の遺跡は、吉原遺跡〈73〉、大日遺跡<sup>5)</sup>〈72〉、薬師入遺跡、下原遺跡〈11〉、牛久市赤塚遺跡〈46〉などが確認されている。大日遺跡では陥穴 2 基、薬師入遺跡では前期の住居跡 1 軒、陥穴 2 基、炉穴 1 基が確認されている。また、台地の縁辺部に位置する手接遺跡<sup>6)</sup>〈75〉では、前期から後期の土器片が 80 点ほど採集されており、近くに居住の場があった可能性が指摘されている。霞ヶ浦沿岸部や低地部には貝塚が分布しており、縄文海進時に海水の進入がうかがえる。

弥生時代の遺跡は少なく、桂川流域では花房遺跡<sup>7)</sup>〈74〉で住居跡 2 軒、薬師入遺跡で住居跡 19 軒が確認されており、いずれも後期の集落跡である。薬師入遺跡の住居跡からは、弥生土器と土師器が出土している。出土した弥生土器は、口縁部下端に貼瘤を付す茨城県南部の上稲吉式や頸部に巻状文をもつ茨城県西部から栃木県東部にかけての二軒屋式と類似点が認められ、それらの地域との交流が想定される。

古墳時代になると、遺跡数が急増し、桂川流域の台地縁辺部には、左岸に、若栗古墳群〈10〉、北原古墳群〈9〉、牛久市御山古墳群〈48〉、鍾金古墳、右岸に、橋向古墳群、吉原古墳〈70〉、頭塙古墳群〈69〉などが築造される。集落遺跡をみてみると、花房遺跡では中期から後期の住居跡 3 軒から碧玉の剥片が出土し、



第1図 赤太郎遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「土浦」「木原」「牛久」「江戸崎」）

表1 赤太郎遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	赤太郎遺跡	○		○				41	柏峯遺跡	○						
2	葉師入遺跡	○	○	○	○			42	ヲサル下遺跡	○						
3	篠崎遺跡				○			43	米ノ内遺跡	○						
4	篠崎A遺跡				○	○		44	原山遺跡	○						
5	高根遺跡	○		○	○			45	ナギ山遺跡				○			
6	山中遺跡				○			46	赤塚遺跡	○						
7	神田遺跡					○		47	御山台遺跡			○				
8	堂山遺跡					○		48	御山台古墳群			○				
9	北原古墳群				○			49	聖天久保遺跡			○	○			
10	若栗古墳群			○				50	二本松遺跡	○	○					
11	下原遺跡	○	○	○				51	屋敷前遺跡			○	○			
12	地蔵窟遺跡					○		52	台畑遺跡	○	○					
13	中台後遺跡					○		53	長久保道添遺跡	○						
14	三ヶ尻遺跡					○		54	宮久保遺跡	○	○					
15	新山遺跡				○			55	中根後遺跡	○						
16	明神遺跡				○			56	速後遺跡	○	○					
17	北神田遺跡				○			57	台遺跡	○	○	○				
18	向原遺跡			○				58	小申台遺跡	○	○					
19	若栗寄井館跡						○	59	大塚山遺跡	○	○					
20	畦市遺跡					○		60	大塚山古墳群	○	○					
21	内ノ山遺跡					○		61	黒引遺跡	○	○					
22	上条城跡						○	62	久野貝塚				記載なし			
23	上条南遺跡					○		63	久野城跡				○			
24	新荒地遺跡					○		64	延命寺山遺跡	○	○					
25	追原西遺跡	○		○				65	源台遺跡	○	○	○	○			
26	五斗溝古墳				○			66	宮台遺跡				○			
27	高野遺跡	○						67	石塚遺跡				○			
28	米根井向遺跡					○		68	水堀遺跡				○			
29	星合遺跡	○	○	○	○			69	牛頭座古墳群				○			
30	トダメ遺跡					○		70	吉原向古墳				○			
31	中ノ台遺跡	○		○	○			71	腰巻遺跡				○			
32	後原遺跡					○		72	大日遺跡	○	○	○				
33	二重堀遺跡						○	73	吉原遺跡	○	○	○				
34	茅場遺跡	○						74	花房遺跡		○	○				
35	桜立遺跡					○		75	手接遺跡		○	○	○			
36	天神遺跡					○		76	新堀遺跡				○			
37	東向遺跡					○	○	77	根崎遺跡				○			
38	大堀遺跡						○	78	横向古墳群				○			
39	高砂遺跡						○	79	柏根前遺跡				○			
40	山ノ神遺跡	○						80	南根遺跡				○			

周辺に玉類の製作工房が存在する可能性が指摘されている。また、<sup>5) 6) 7)</sup>「木根井向遺跡」(28) の住居跡からは滑石片が多量に出土し、集落内の石製模造品の製作が行われていた可能性が指摘されている。桜立遺跡<sup>9) 10)</sup>(35)では、前期の住居跡から、建築材が焼け落ちた状態で出土し、直角の柄組の技法が用いられていたことが確認されている。薬師入遺跡とナギ山遺跡<sup>11) 12)</sup>(45)では、前期の住居跡40軒、中期の住居跡35軒、後期の住居跡28軒が確認されており、長期間にわたって集落が営まれていたことが確認されており。前期の住居跡からは上総地域に類例が求められる壺類や南関東系の壺形土器、東海系の影響を受けたパレス文様壺などの、多くの外来系土器が出土していることから、他地域からの人の移動も考えられる。星合遺跡では、炉をもつ住居と竈をもつ住居が同時期に存在していたことが確認され、竈の導入期の様相が明らかとなっている。

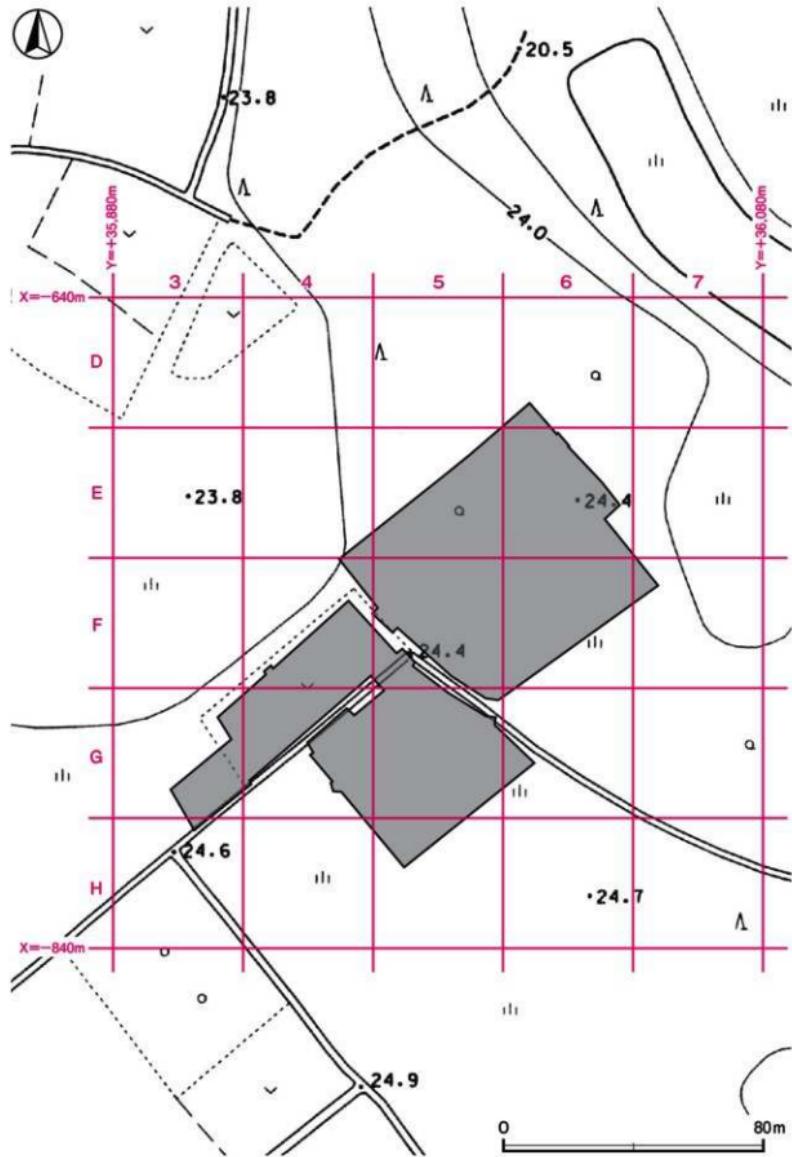
奈良・平安時代になると、当遺跡周辺は信太郡子方郷に編入される。当遺跡から約3km北東に位置する源訪寺跡<sup>13) 14)</sup>は、奈良時代前期と推定される多くの布目瓦が出土しているばかりでなく、基壇状の遺構も現存していることから信太郡の都寺の可能性が指摘されている<sup>15)</sup>。約1km南の篠崎A遺跡<sup>16) 17)</sup>(4)からは、燈明具や水瓶が出土しており、寺院に関連する人たちの集落であった可能性が指摘されている。大日遺跡では4基の骨蔵器が確認されており、当時の葬送儀礼を考える上で重要な資料となっている。

中世になると、町域は信太莊として成立したと考えられている。中世の遺跡としては、島津城跡や下小池城跡<sup>18) 19)</sup>などの城館跡をはじめ、長泰寺院跡、藏福寺院跡などがあげられる。島津城と掛馬館は、筑波の小田氏の出城として築城されたが、時代の流れと共に土岐氏の支配を受けることとなる。下小池城は、戦国期末期に土岐氏によって築城されたと伝えられており、虎口、薬研堀などが確認されている。

\*文中の〈 〉内の番号は、表1及び第1図の該当遺跡番号と同じである。

## 註

- 1) 日本の地質「関東地方」編集委員会『日本の地質3 関東地方』共立出版 1986年10月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県道路地図(地名表編・地図編)』茨城県教育委員会 2001年3月
- 3) a 斎藤悦郎「薬師入遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第239集 2005年3月  
b 柳原英樹・小林悟「薬師入遺跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第296集 2008年3月
- 4) 矢ノ倉正男「寺門千鶴「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 星合遺跡・中ノ台遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第137集 1997年3月
- 5) 柳原英樹・後藤孝行「谷ノ沢遺跡・手接遺跡・花房遺跡・大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第212集 2004年3月
- 6) 註5) と同じ
- 7) 註5) と同じ
- 8) 鹿島直樹「木根井向遺跡 主要地方道竈ヶ崎阿見線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第333集 2010年3月
- 9) 河野辰男「桜立遺跡発掘調査報告書」阿見町教育委員会 1982年12月
- 10) a 石川義信・後藤孝行「ナギ山遺跡I・柏峰B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第233集 2005年3月  
b 岩田功「ナギ山遺跡2 (仮称) 阿見東ICランプB区間整備事業地内埋蔵文化財調査報告」「茨城県教育財团文化財調査報告」第277集 2007年3月
- 11) 阿見町史編さん委員会「阿見町史」阿見町 1983年3月
- 12) 小林健太郎「篠崎A遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」「茨城県教育財团文化財調査報告」第217集 2004年3月
- 13) 河野辰男ほか「下小池城跡保存調査報告書」阿見町教育委員会 1981年11月



第2図 赤太郎遺跡調査区設定図（阿見町都市計画基本図 2,500 分の 1 を使用）

# 第3章 調査の成果

## 第1節 調査の概要

赤太郎遺跡の範囲は南北 120 m、東西 150 mで、調査区は遺跡の南部にあたり、桂川の低地から延びる谷津を望む台地部に位置している。調査面積は 9,382 m<sup>2</sup>で、確認された集落跡は北側や台地縁辺部にあたる西側にも広がっていることが予想される。

調査の結果、堅穴住居跡 14軒（古墳時代）、陥し穴 3基（縄文時代）、井戸跡 1基（時期不明）、土坑 134 基（時期不明）、溝跡 1条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60 × 40 × 20cm)に 45 箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢)、土師器(壺・椀・壇・高杯・甕)、土製品(土玉・管状土錘)、石器(鐵・砥石)、石製品(白玉・勾玉・有孔円板・有孔方板・劍形品)、金属製品(鐵・轡・刀子・煙管)、ガラス製品(白玉)、自然遺物(炭化米・炭化種子)などである。

## 第2節 基本層序

調査区北東部(E 617 区)にテストピットを設定し、基本土層(第3図)の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する耕作土である。粘性・締まりとともに弱く、層厚は 15 ~ 27 cm である。

第2層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は 11 ~ 24 cm である。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は 20 ~ 39 cm である。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は 20 ~ 30 cm である。第 II 黒色帯と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は 24 ~ 29 cm である。

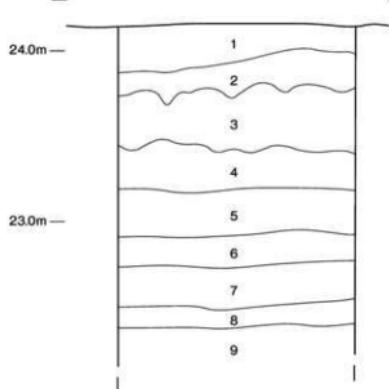
第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとともに強く、層厚は 15 ~ 19 cm である。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。鉄分を中量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は 24 ~ 25 cm である。

第8層は、褐色を呈するハードローム層である。鉄分を多量に含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は 11 ~ 14 cm である。

第9層は、褐色を呈する粘土層である。粘性・締まりとともに強い。下部は未掘のため、層厚は不明である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### 陥し穴

###### 第1号陥し穴 (SK-22) (第4図)

位置 調査区南西部のG 4a4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径188m、短径1.06mの楕円形で、長径方向はN-36°-Wである。深さは104cmで、底面は幅47cmほどである。横断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

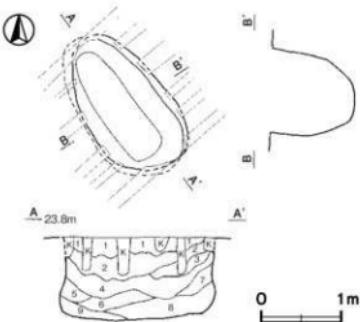
覆土 9層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

##### 土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
3	褐	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	褐	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5	暗	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子微量
6	褐	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
7	褐	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子微量
8	褐	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子微量
9	褐	褐色	ロームブロック中量

所見 遺物が出土していないため明確ではないが、

規模と形状から繩文時代の陥し穴と考えられる。



第4図 第1号陥し穴実測図

###### 第2号陥し穴 (SK-82) (第5図)

位置 調査区中央部のF 6g6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.66m、短径0.56mの楕円形で、長径方向はN-29°-Wである。深さは96cmで、底面は幅10cmほどである。横断面形はV字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

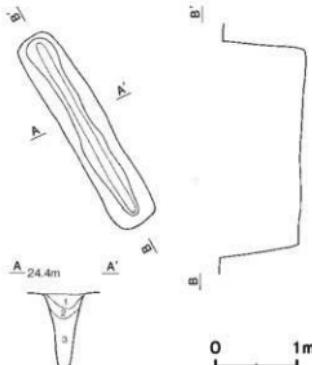
覆土 3層に分層できる。第1・2層は、周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第3層は、ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

##### 土層解説

1	黒	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子少量
3	褐	褐色	ロームブロック少量

所見 遺物が出土していないため明確ではないが、

規模と形状から繩文時代の陥し穴と考えられる。



第5図 第2号陥し穴実測図

### 第3号陥し穴 (SK-151) (第6図)

**位置** 調査区北東部のE 6j0 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

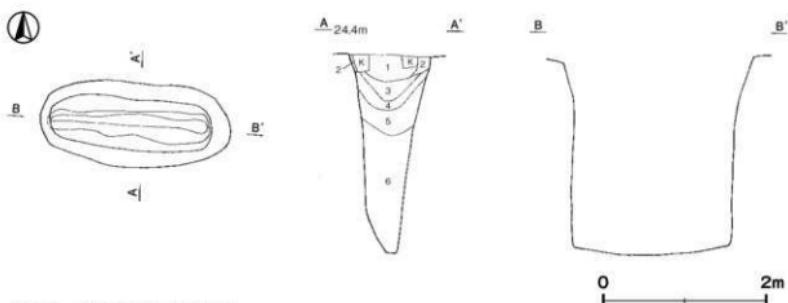
**規模と形状** 長径 2.34 m、短径 1.05 m の楕円形で、長径方向は N - 85° - W である。深さは 233 cm で、底面は幅 16 cm ほどである。横断面形は V 字状で、壁は外傾して立ち上がっている。

**覆土** 6 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	4 灰褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子少量	5 灰褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
3 無褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	6 灰褐色 ローム粒子中量・炭化粒子微量

**所見** 遺物が出土していないため明確ではないが、規模と形状から縄文時代の陥し穴と考えられる。



第6図 第3号陥し穴実測図

表2 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		覆 土	断 面	主な出土遺物	備 考 重複開拓(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)				
1	G4a4	N - 36° - W	楕円形	1.88 × 1.06	104	自然	U字		
2	F6g6	N - 29° - W	楕円形	2.66 × 0.56	96	自然・人為	V字		
3	E6j0	N - 85° - W	楕円形	2.34 × 1.05	233	自然	V字		

## 2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 14 軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### 竪穴住居跡

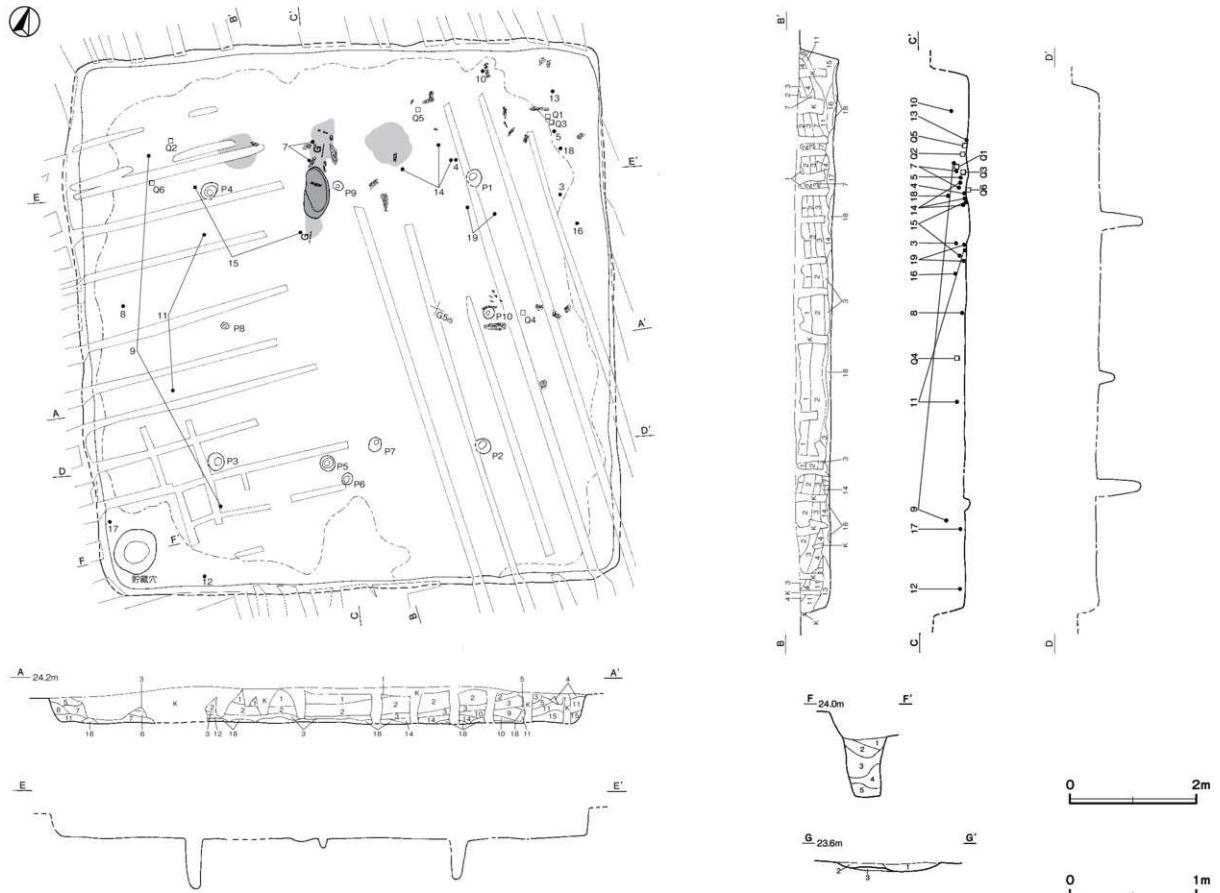
#### 第1号住居跡 (第7 ~ 9図)

**位置** 調査区南部のG 5i4 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 長軸 8.66 m、短軸 8.50 m の方形で、主軸方向は N - 25° - W である。壁高は 36 ~ 60 cm で、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北部の床面で炭化材や焼土塊を確認した。

**炉** 北部に付設されている。長径 82 cm、短径 40 cm の楕円形で、深さ 7 cm の地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第3層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。



第7図 第1号住居跡実測図



#### 炉土層解説

- 1 黒 色 燃土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量  
2 黒 赤褐色 燃土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

**ピット** 10か所。P 1～P 4は深さ66～81cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5～P 7は深さ10～30cmで、南壁際に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8～P 10は深さ8cm～23cmで、性格不明である。

**貯蔵穴** 南西コーナー部に位置している。径76cmほどの円形で、深さは91cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量      | 4 暗褐色 ローム粒子中量   |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、燃土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量                |                 |

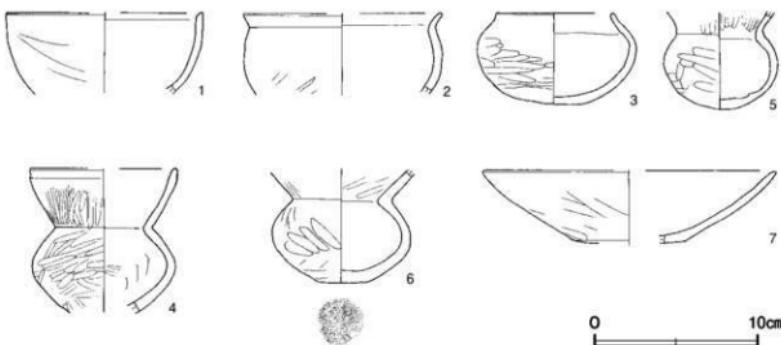
**覆土** 18層に分層できる。第1～3層はレンズ状の堆積状況から自然堆積である。第4～18層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

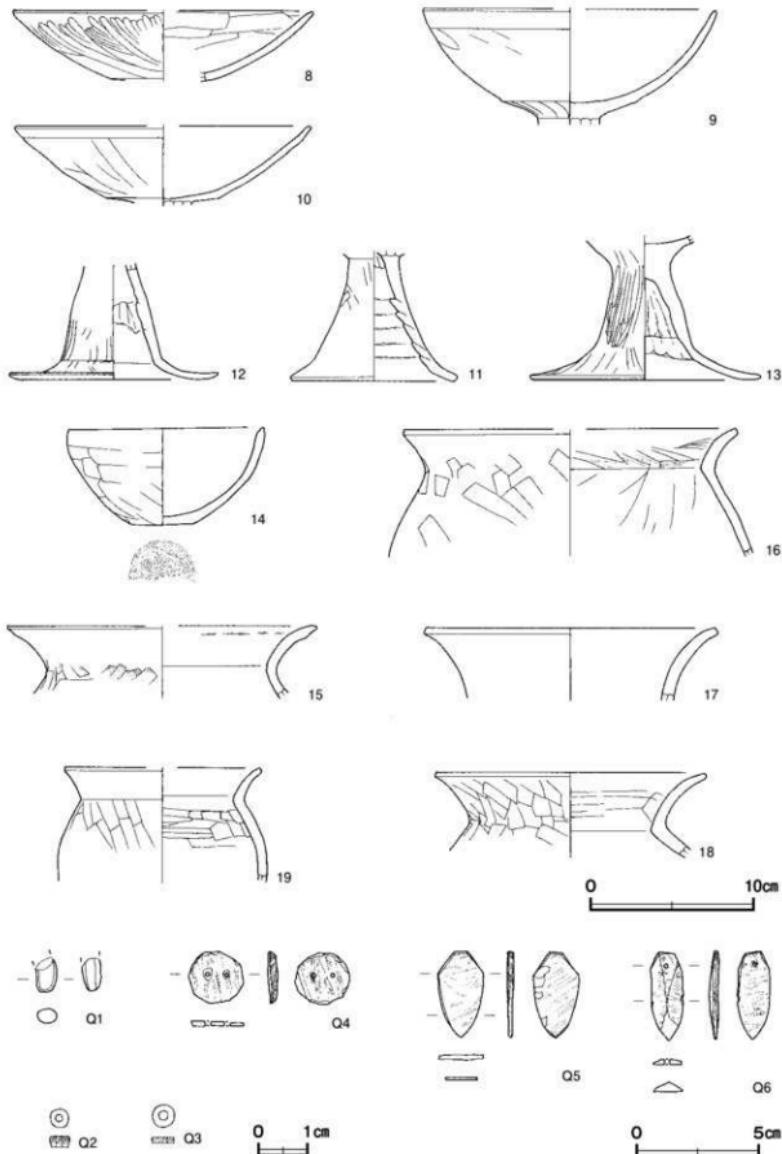
- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・燃土粒子・炭化粒子微量    | 10 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量       |
| 2 暗褐色 燃土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量  | 11 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量     |
| 3 極暗褐色 ローム粒子少量、燃土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量     |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量、燃土粒子微量     | 13 暗褐色 ロームブロック・燃土粒子・炭化粒子微量  |
| 5 暗褐色 ローム粒子中量              | 14 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量       |
| 6 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量       | 15 暗褐色 炭化粒子微量、ロームブロック微量     |
| 7 暗褐色 ロームブロック微量            | 16 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物微量        |
| 8 暗褐色 ロームブロック少量            | 17 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、燃土粒子微量 |
| 9 極暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量    | 18 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量       |

**遺物出土状況** 土師器片2,182点（楕196、壺95、高坏224、鉢1、壺1,665、小形壺1）、石製品6点（勾玉1、白玉2、有孔円板1、剝形品2）が北部から西部の覆土中層から床面にかけて出土している。4・13・19・Q5は北東部、8・Q6は西部の床面から、5・14・Q3・Q4は北東部、7・15は北西部、11・Q2は西部、12・17は南西部の覆土下層から。3・10・16・18・Q1は北東部、9は西部の覆土中層から、1・2・6は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。北部の床面から覆土下層にかけて炭化材や焼土塊が点在していることから焼失住居と考えられる。



第8図 第1号住居跡出土遺物実測図（1）



第9図 第1号住居跡出土遺物実測図（2）

第1号住居跡出土遺物観察表（第8・9図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	輪	[120]	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側ヘラナデ 内	覆土中	10%
2	土師器	輪	[122]	5.0	-	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側ヘラ削り後ヘラナデ	覆土中	10%
3	土師器	輪	7.1	5.6	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側横位のヘラナデ	覆土中層	90% PL7
4	土師器	埋	[8.8]	8.9	-	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外斜傾位のヘラ焼き 体部外側横位のヘラナデ	床面	35%
5	土師器	埋	-	6.0	-	長石・石英	青白	普通	口縁部外・内面ヘラ焼き 体部外側横位のヘラ	覆土下層	60%
6	土師器	埋	-	7.0	27	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外斜傾位のヘラ焼き 体部外側斜位	覆土中	80%
7	土師器	高环	[178]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 外面斜位のヘラナデ	覆土下層	20%
8	土師器	高环	[186]	4.2	-	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外・内面ヘラナデ 壁部口縁内面横位のヘラナデ	床面	20%
9	土師器	高环	[178]	7.1	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側斜位のヘラ	覆土中層	30%
10	土師器	高环	[180]	4.8	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側横位のヘラ	覆土中層	30%
11	土師器	高环	-	7.8	[101]	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面輪積痕	覆土下層	15%
12	土師器	高环	-	7.0	[128]	長石・石英	橙	普通	口縁部外斜傾位のヘラナデ 内面輪積痕	覆土下層	30%
13	土師器	高环	-	8.9	131	長石・石英	明青	普通	脚部外側傾位のヘラナデ 脚部内面輪積痕	床面	60%
14	土師器	鉢	11.8	6.0	4.0	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側横位のヘラナデ	覆土下層	55%
15	土師器	鉢	[190]	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側横位のヘラナデ	覆土下層	5%
16	土師器	鉢	[204]	7.9	-	長石・石英・赤色粒子	青白	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側横位のヘラナデ	覆土中層	5%
17	土師器	鉢	17.6	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%
18	土師器	鉢	16.4	5.2	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面ヘラナデ	覆土中層	10%
19	土師器	小形壺	[120]	7.1	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	勾玉	(1.40)	0.85	0.74	(123)	瑪瑙	全面研磨調整 上半欠損	覆土中層	PL12
Q 4	有孔円盤	207	217	0.35	2.04	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔2か所 孔径0.13~0.14cm	覆土下層	PL12
Q 5	圓形品	341	183	0.27	2.69	滑石	両面平滑 全面研磨調整 未穿孔	床面	PL13
Q 6	圓形品	352	131	0.34	2.26	滑石	全面研磨調整 孔径0.18cm	床面	PL13

## 第2号住居跡（第10~14図）

位置 調査区南部のG 5c9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

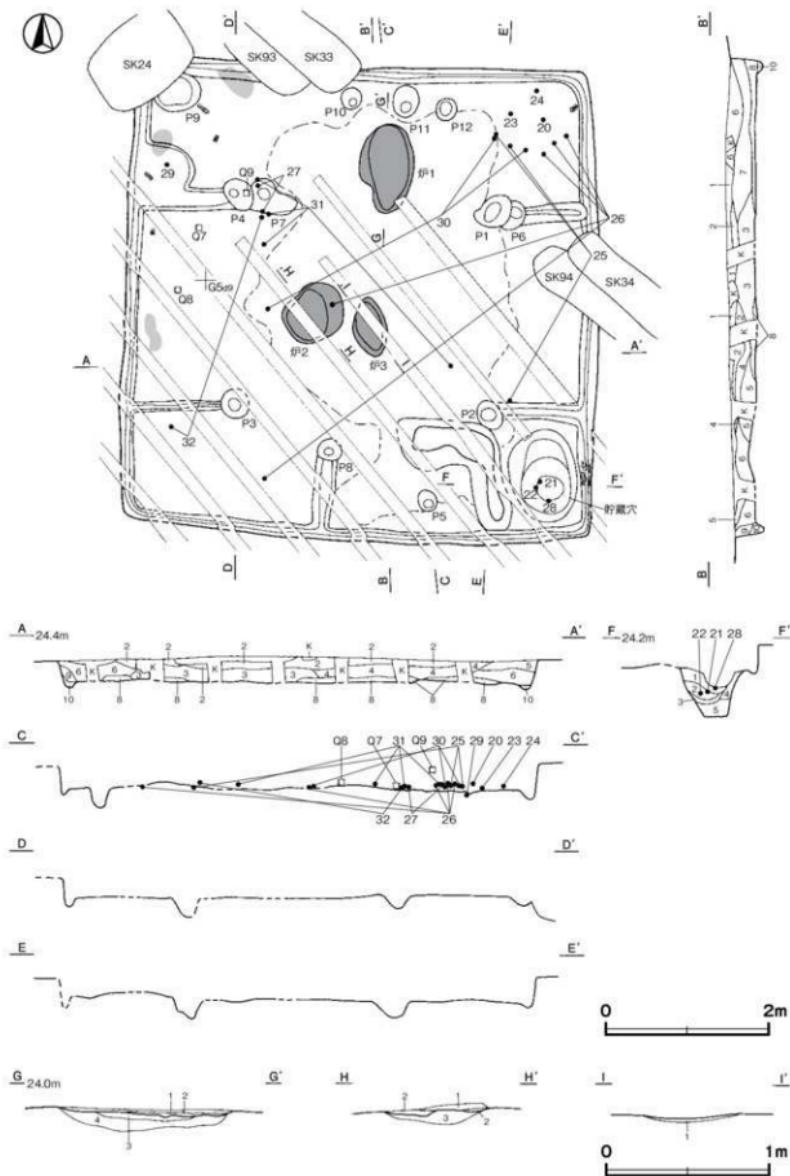
重複関係 第24・33・34・93・94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺5.85mほどの方形で、主軸方向はN-2°-Eである。壁高は25~32cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。壁溝からP 1~P 4・P 8にかけて幅10~26cm、長さ80~124cmで断面形が逆台形状の間仕切り溝5条が存在している。また、貯藏穴の西側に幅40~60cm、高さ6cmのL字状の高まりが存在している。西部の床面で焼土塊や炭化材を確認した。

炉 3か所。炉1は北寄りに位置している。長径110cm、短径70cmの楕円形で、深さ4cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第3・4層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉2は中央部に位置している。長径80cm、短径60cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第3層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉3は中央部の炉2



第10図 第2号住居跡実測図

の東側に位置している。長径 74cm、短径 44cm の楕円形で、深さ 3cm の地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第 1 層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。炉 1 ~ 炉 3 の新旧関係は不明である。

#### 炉 1 土層解説

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量          | 3 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量  |
| 2 赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量 |

#### 炉 2 土層解説

- |                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 3 暗赤褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量      |                           |

#### 炉 3 土層解説

- |                 |
|-----------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量 |
|-----------------|

**ピット** 12か所。P 1 ~ P 4 は深さ 17 ~ 26cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 24cm で、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6, P 7 は深さ 29cm, 21cm で、P 1 及び P 4 と重複していることから P 6 から P 1 へ、P 7 から P 4 への柱の立て替えの可能性がある。P 8 ~ P 12 は深さ 9 ~ 26cm で性格不明である。

**貯蔵穴** 東南コーナー部に位置している。長径 116cm、短径 86cm の楕円形で、深さは 62cm である。底面は平坦で、北側壁は段を有し、南側壁は外傾して立ち上がっている。

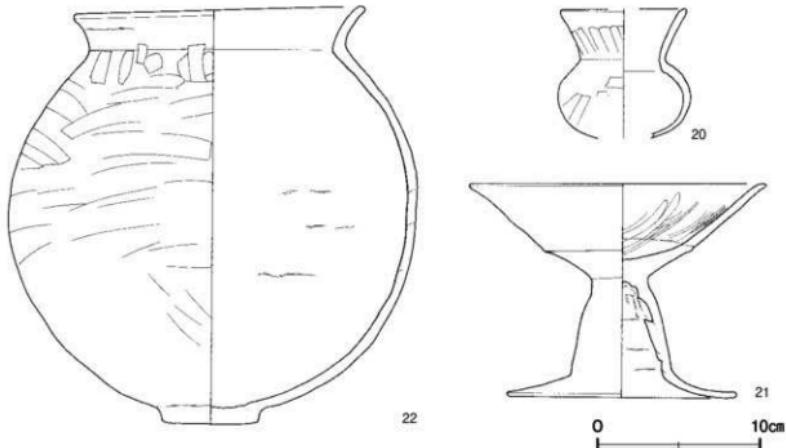
#### 貯蔵穴土層解説

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量  |                            |

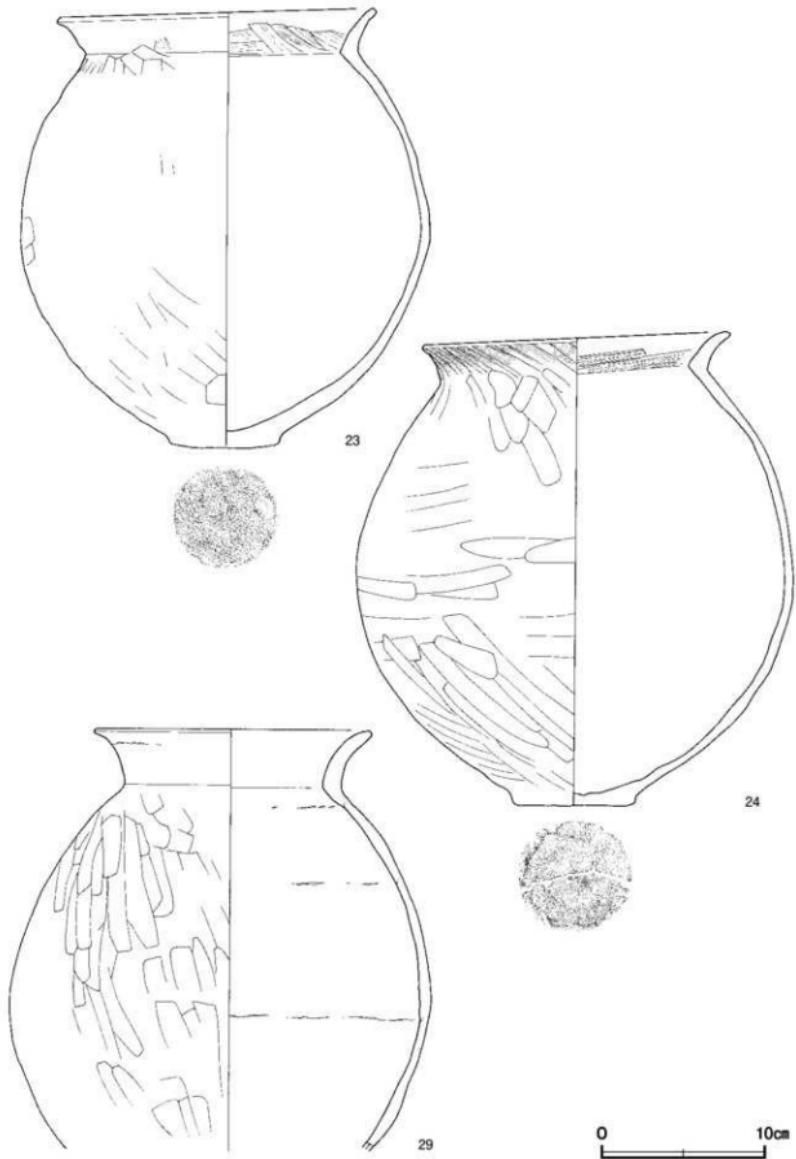
**覆土** 10 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

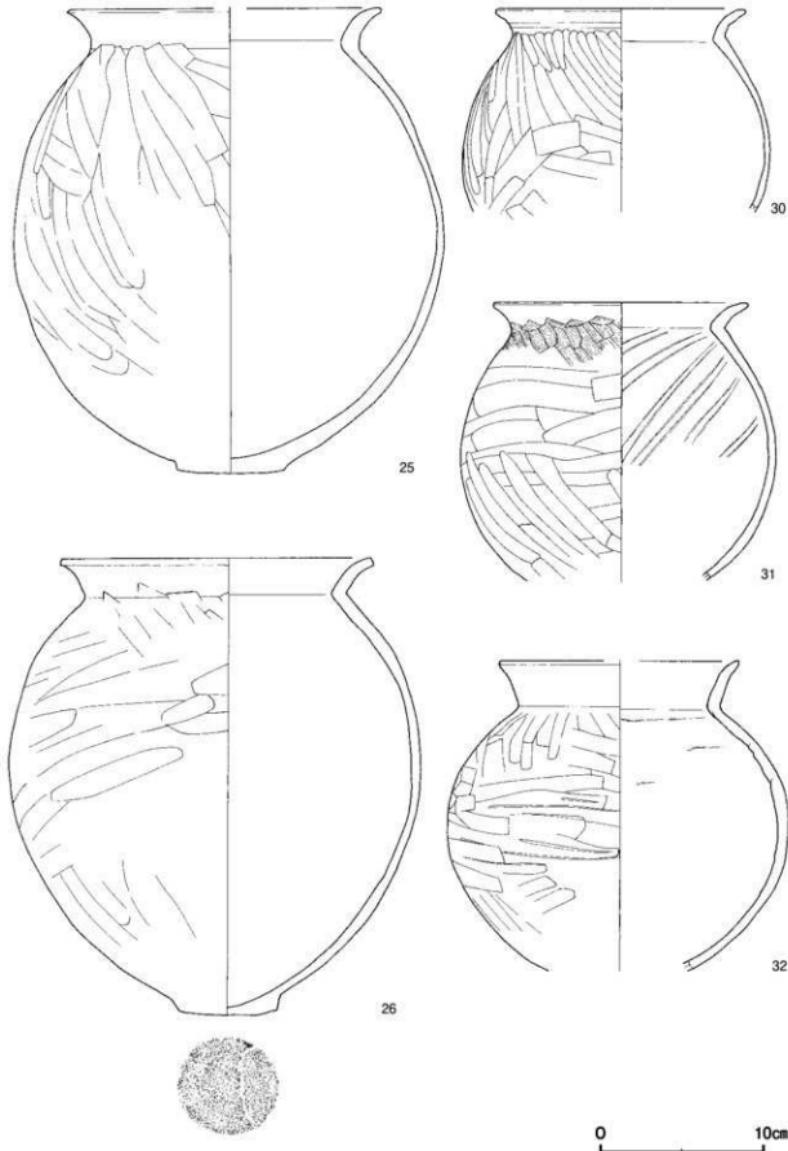
- |                              |                              |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量           | 6 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量         |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量    | 7 暗褐色 ローム粒子少量、炭化物・焼土粒子微量     |
| 3 極暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量                | 9 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 5 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量         | 10 褐色 ローム粒子中量                |



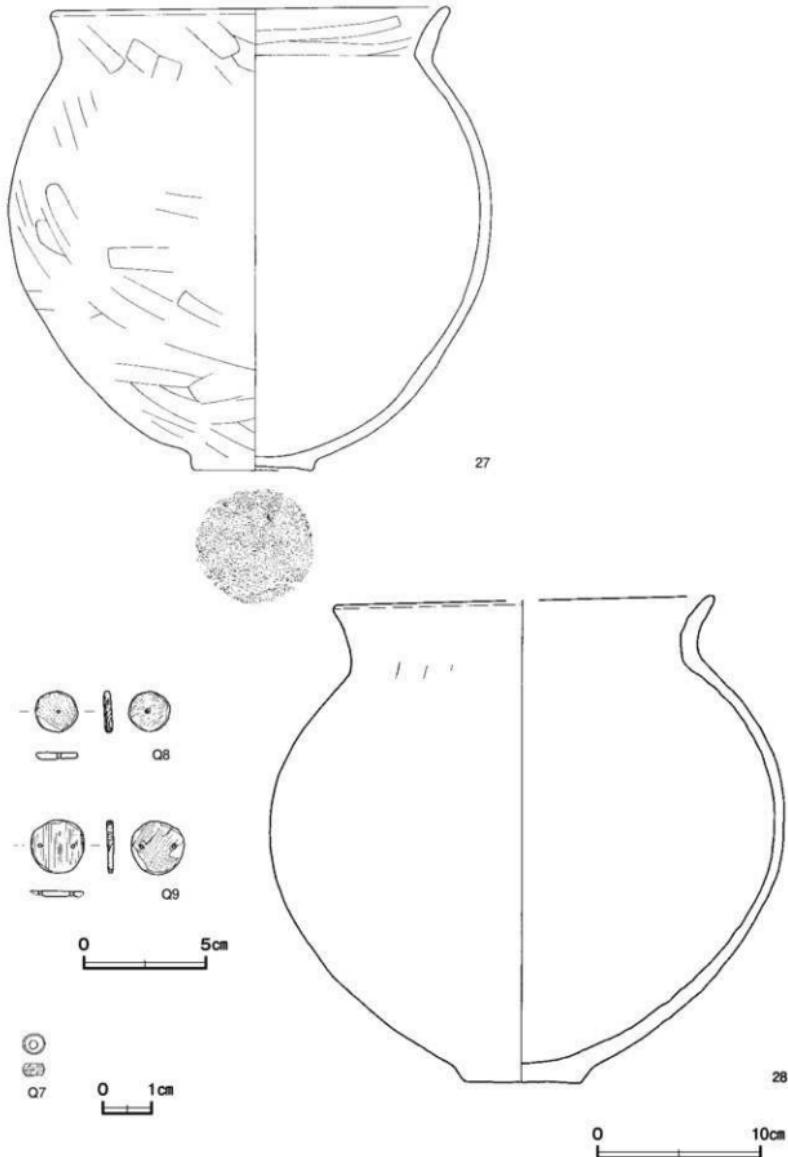
第 11 図 第 2 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第12図 第2号住居跡出土遺物実測図（2）



第13図 第2号住居跡出土遺物実測図(3)



第14図 第2号住居跡出土遺物実測図(4)

**遺物出土状況** 土師器片 999 点（楕 20、壺 34、高坏 38、壺 904、小形壺 3）、須恵器片 2 点（罐 2）、土製品 1 点（土玉）、石製品 3 点（臼白 1、有孔円板 2）。粘土塊 3 点が、全体の覆土中層から床面にかけて出土している。21・22・28は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。23は北東部、29・Q7・Q8は北西部の床面から、20・24～26・30は北東部、27・31・32は北西部の覆土下層から、Q9は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。西部の床面から覆土下層にかけて炭化材や焼土塊が点在していることから焼失住居と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表（第 11～14 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	土師器	壺	[7.4]	(8.0)	—	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面斜位	覆土下層	40%
21	土師器	高坏	17.9	13.3	13.8	長石・石英・軽隕石・赤色粒子	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 环部内面へラ晒き 背部内面輪縞模	貯蔵穴 蓋土中層	90% PL9
22	土師器	壺	17.6	25.6	5.8	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面輪縞模	貯蔵穴 蓋土中層	90% PL10
23	土師器	壺	19.2	27.3	6.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	黄棕	普通	口縁部外斜位ナデ・内面へラナデ 体部外面斜位のヘラナデ	床面	100% PL10
24	土師器	壺	18.6	29.2	7.2	長石・石英・雲母	にぶい棕	普通	口縁部外・内面へラナデ 体部外面横位のヘラナデ	覆土下層	80%
25	土師器	壺	[19.2]	28.6	6.7	長石・石英・赤色粒子	にぶい棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	覆土下層	70% PL10
26	土師器	壺	19.0	28.1	6.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	覆土下層	65%
27	土師器	壺	23.9	28.5	7.3	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜位のヘラナデ	覆土下層	80% PL10
28	土師器	壺	[22.9]	29.9	7.1	長石・石英・赤色粒子	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面窓減調整不明	貯蔵穴 蓋土中層	80% PL10
29	土師器	壺	16.8	(25.8)	—	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	床面	60%
30	土師器	小形壺	14.9	(12.5)	—	長石・石英	棕	良好	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	覆土下層	30%
31	土師器	小形壺	15.2	(17.2)	—	長石・石英	棕	良好	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜位のヘラナデ	覆土下層	70%
32	土師器	小形壺	[14.6]	(19.1)	—	長石・石英	にぶい棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へラナデ 内面斜位調整不規則	覆土下層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	質	特徴	出土位置	備考
Q7	臼白	0.42	0.26	0.14	0.08	滑石	両面平滑	全面研磨調整 中央部穿孔	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	質	特徴	出土位置	備考
Q8	有孔円板	167	166	0.31	185	滑石	両面平滑	全面研磨調整 孔径 0.12cm	床面	PL12
Q9	有孔円板	216	218	0.24	(216)	滑石	両面平滑	全面研磨調整 孔径 0.2cm 孔径 0.17cm	覆土中層	PL12

第3号住居跡（第 15～20 図）

**位置** 調査区中央部の F 5 i2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 一辺が 7.95 m ほどの方形で、主軸方向は N - 42° - W である。壁高は 60 ～ 92cm で、外傾して立ち上がっている。中央部から北部にかけて擾乱を受けている。

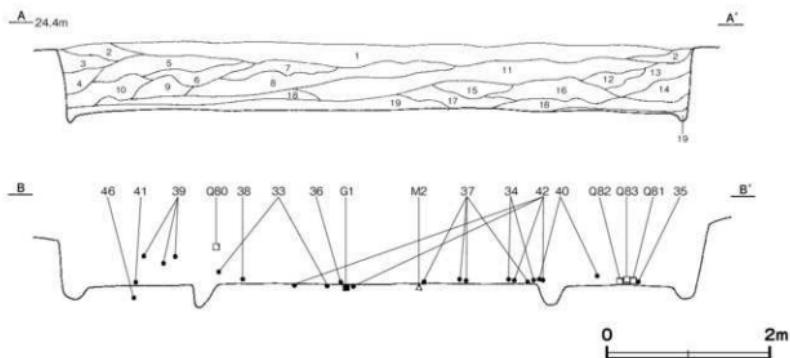
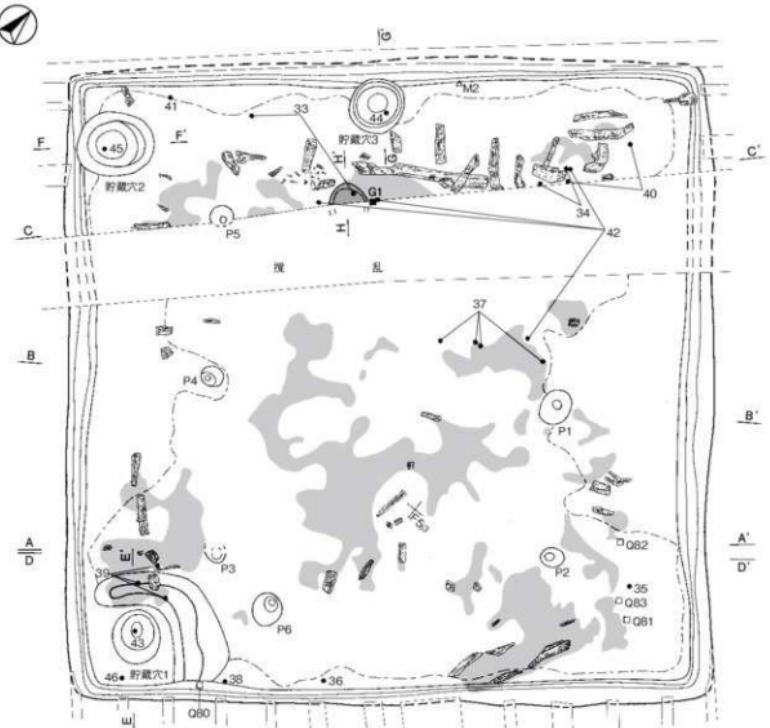
**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。南コーナー部の貯蔵穴 1 の周間に幅 40 ～ 70cm、高さ 3 cm の L 字状の高まりが存在している。床面全域から焼土塊や炭化材を確認した。

**炉** 北部に付設されている。東半分が擾乱を受けているため、規模は東西径 48cm、南北径 28cm しか確認できなかった。形状は円形または楕円形と推定され、深さ 3 cm の地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第 2 層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

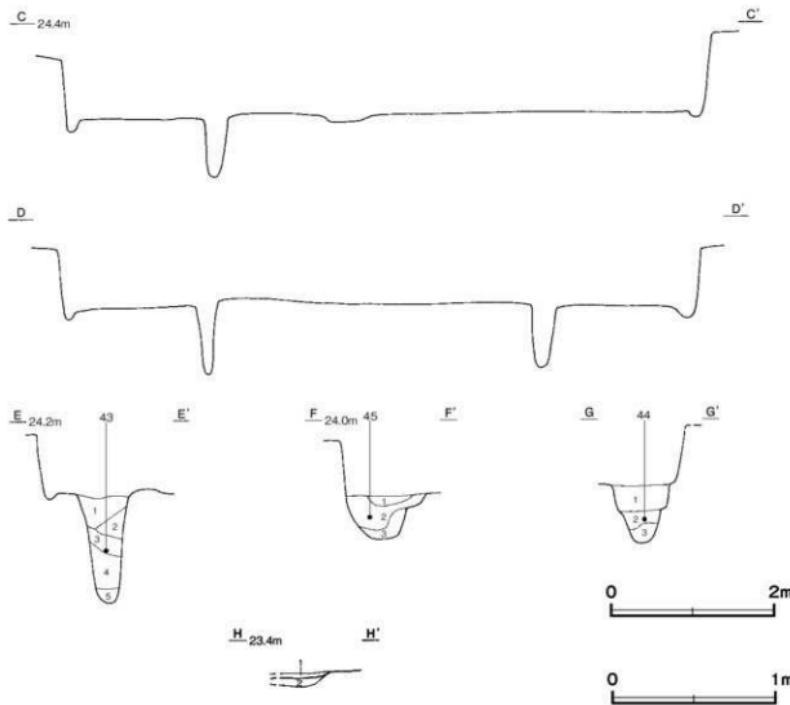
#### 炉土層解説

1 壁赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子中量

2 壁赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量



第15図 第3号住居跡実測図（1）



第16図 第3号住居跡実測図（2）

**ピット** 6か所。P 1～P 5は深さ26～86cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 6は深さ28cmで、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 3か所。貯蔵穴1は南コーナー部に位置している。長径66cm、短径58cmの楕円形で、深さは135cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は西コーナー部に位置している。長径96cm、短径78cmの楕円形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴3は北西壁の中央部に位置している。径66cmほどの円形で、深さは69cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴1土層解説

1	極	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	4	暗	褐色	ロームブロック中量、粘土粒子少量
2	極	暗褐色	ロームブロック少量	5	に	褐色	粘土粒子多量、ロームブロック微量
3	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土ブロック少量				

#### 貯蔵穴2土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	3	褐	色	ローム粒子中量
2	褐	色	ロームブロック・炭化物微量				

#### 貯蔵穴3土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量、炭化物・焼土粒子微量	3	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量				

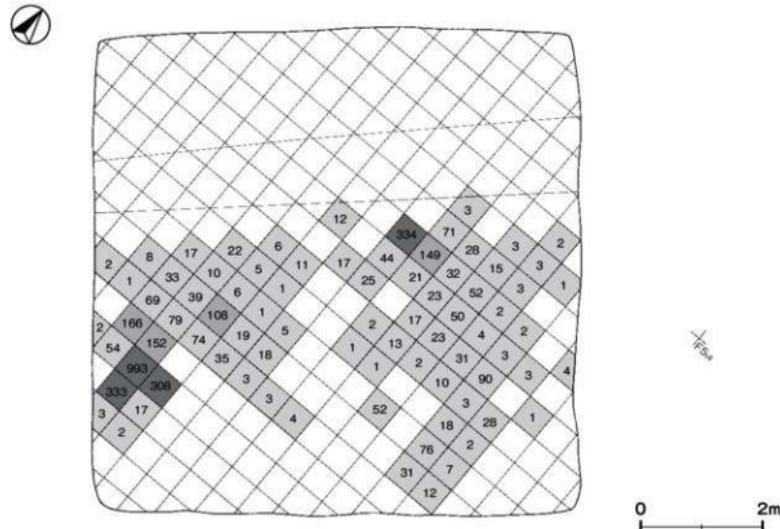
**覆土** 19層に分層できる。第1・2層は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第3～19層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

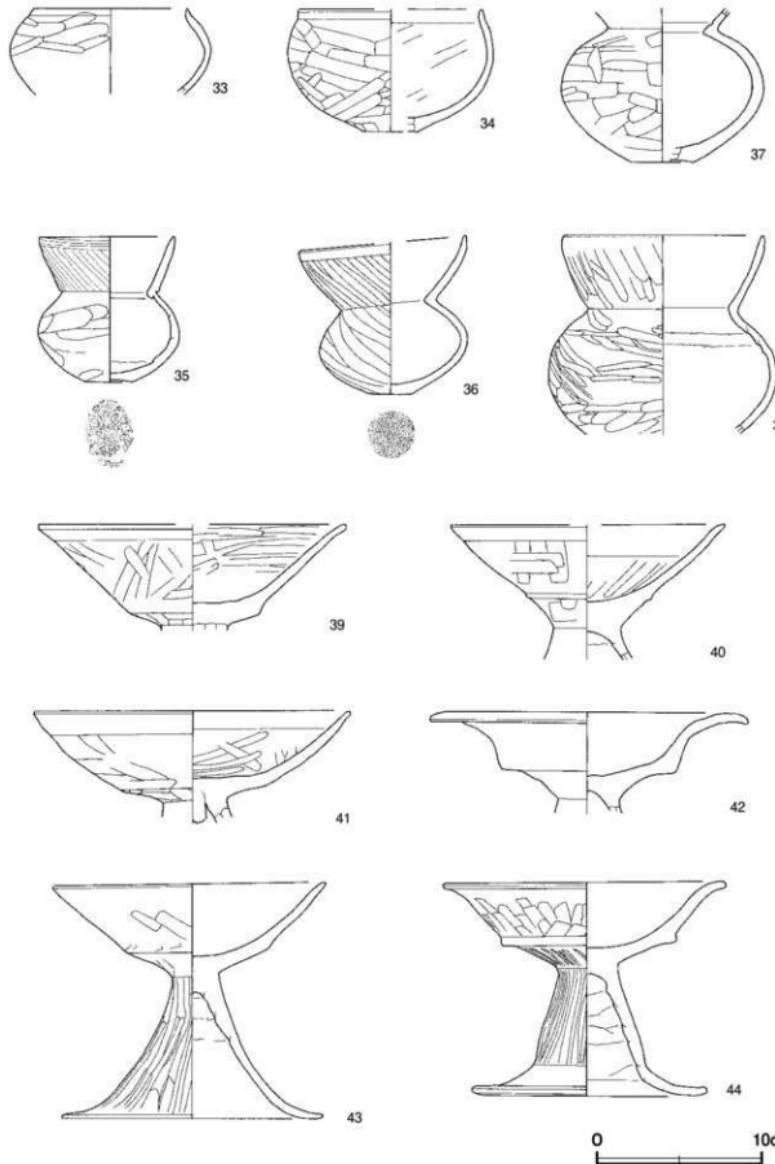
1 黒 色	ローム粒子微量	11 細 細 色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 黒 細 色	ロームブロック微量	12 細 細 色	ローム粒子中量、炭化物微量
3 細 色	ローム粒子少量	13 細 色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
4 細 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14 細 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 細 色	ローム粒子中量	15 細 細 色	ロームブロック微量、炭化粒子極微量
6 細 色	ロームブロック少量	16 細 細 色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化物微量
7 細 色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	17 細 細 褐 色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物微量
8 細 褐 色	ロームブロック微量、炭化物・燒土粒子微量	18 細 細 褐 色	ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子少量
9 細 褐 色	ロームブロック少量	19 細 細 褐 色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
10 細 褐 色	ロームブロック少量、燒土粒子微量		

**遺物出土状況** 土師器品 657点(楕31, 増81, 高坏107, 麦438), 石製品75点(白玉70, 有孔円板1, 刀形品4), 鉄製品1点(鎌), ガラス製品2点(白玉), 炭化種子4,339点(米4,333, 麦1, 豆5)が、全体の覆土上層から床面にかけて出土している。44は貯蔵穴3, 45は貯蔵穴2の覆土中層からそれぞれ横位で, 43は貯蔵穴1の覆土中層から正位で出土している。42・M2は北部, 33・41・G1は西部, 36・46は南部の床面から, 34・40は北部, 38は南部, 35・Q81～Q83は東部, 37は中央部の覆土下層から。Q80は南部の覆土上層から, G2は覆土中からそれぞれ出土している。また、南部や東部の覆土下層から床面にかけての覆土や焼土塊から炭化した米や麦・豆が出土している。

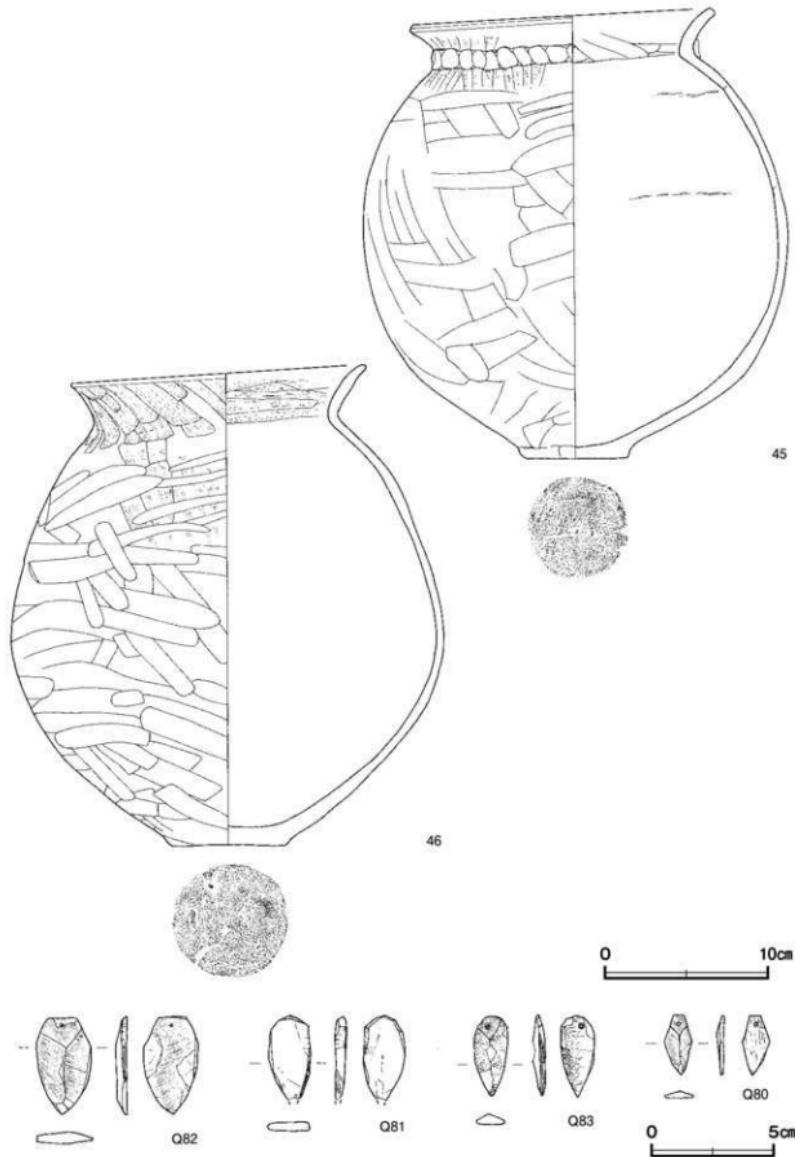
**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。床面に炭化材が点在し、広範囲に焼土塊が広がっていることから焼失住居と考えられる。



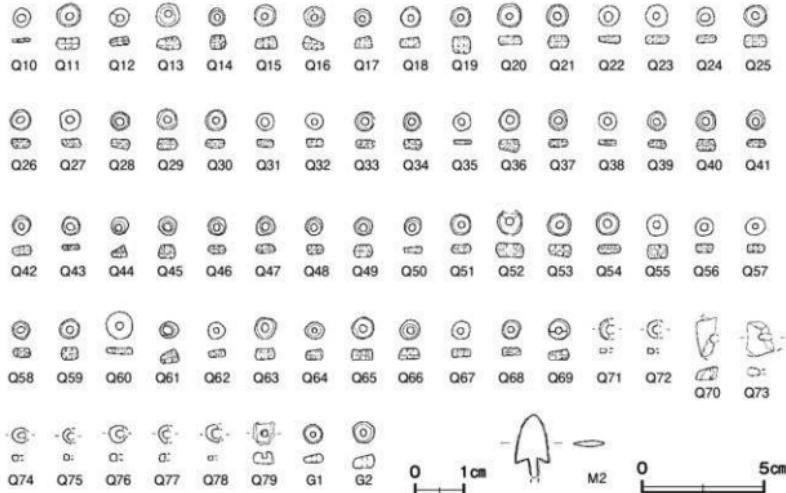
第17図 第3号住居跡炭化種子出土分布図



第18図 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第19図 第3号住居跡出土遺物実測図（2）



第20図 第3号住居跡出土遺物実測図（3）

第3号住居跡出土遺物観察表（第18～20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
33	土器器	碗	9.2	(5.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口部外側面横斜のヘラナデ 内面底端不整	床面	30%
34	土器器	碗	[11.0]	7.5	(3.3)	長石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部外側面・内面横ナデ 体部外側斜位のヘラナデ	覆土下層	30%
35	土器器	壺	8.2	8.9	3.4	長石・石英・細縞	橙	普通	口部外側面横斜、斜位のヘラナデ 横斜	覆土下層	60%
36	土器器	壺	[10.1]	9.7	2.8	長石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部・体部外側斜位のヘラナデ 内面ナデ	床面	90% PL8
37	土器器	壺	-	(9.4)	3.7	長石・石英	橙	普通	体部外側面横斜のヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	40%
38	土器器	壺	12.0	(12.1)	-	長石・石英・赤色粘子	橙	普通	口部外側面横斜のヘラナデ 内面横ナデ 体部外側面横斜	覆土下層	85% PL8
39	土器器	高杯	[18.6]	(6.5)	-	長石・石英・黒色粘子	良好	普通	口部外側面横ナデ 壁部外・内面ヘラナデ	覆土中層	30%
40	土器器	高杯	[16.4]	(8.3)	-	長石・石英	橙	普通	口部外側面・内面横ナデ 壁部外・内面ヘラナデ	覆土下層	30%
41	土器器	高杯	19.1	(6.8)	-	長石・石英・黒母	にぶい橙	良好	口部外側面・内面横ナデ 壁部外・内面ヘラナデ	床面	40%
42	土器器	高杯	19.3	(6.2)	-	長石・石英・赤色粘子	にぶい橙	普通	口部外・内面横ナデ	床面	50%
43	土器器	高杯	16.4	14.5	15.8	長石・石英	普通	口部外側面・内面横ナデ 环部・脚部外側へラナデ 脚部内面横斜痕不整	剪薪穴1 覆土中層	90% PL9	
44	土器器	高杯	17.2	13.1	[14.3]	長石・石英・黒色粘子	橙	普通	口部外側面・内面横ナデ 环部・脚部外側へラナデ 脚部内面横斜痕不整	剪薪穴3 覆土中層	80% PL9
45	土器器	甕	18.4	27.7	6.5	長石・石英・黒母・細縞	橙	普通	口部外側面横斜のヘラナデ 脚部・陳布貼付痕	剪薪穴2 覆土中層	100% PL11
46	土器器	甕	18.0	29.7	7.0	長石・石英・黒母・赤色粘子	にぶい橙	普通	口部外側面横斜のヘラナデ 体部外側斜位のヘラナデ	床面	90% PL10

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 10	白玉	0.38	0.06	0.15	0.11	滑石	両面平滑 全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 床面
Q 11	白玉	0.48	0.25	0.13	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 床面
Q 12	白玉	0.38	0.18	0.15	0.01	滑石	両面平滑 全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 床面
Q 13	白玉	0.48	0.28	0.15	0.07	滑石	両面平滑 全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 床面
Q 14	白玉	0.35	0.28	0.15	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 床面
Q 15	白玉	0.42	0.27	0.14	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 床面

番号	器種	径	厚さ	孔徑	重量	材質	特徴		出土位置	備考
							前面	背面		
Q 16	臼玉	0.41	0.28	0.13	0.06	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 17	臼玉	0.36	0.28	0.13	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 18	臼玉	0.40	0.22	0.15	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 19	臼玉	0.40	0.35	0.15	0.08	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 20	臼玉	0.48	0.19	0.13	0.06	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 21	臼玉	0.43	0.25	0.13	0.08	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 22	臼玉	0.40	0.09 ~ 0.14	0.16	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 23	臼玉	0.44	0.13	0.12	0.01	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 24	臼玉	0.38	0.11	0.16	0.02	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 25	臼玉	0.43	0.22	0.15	0.06	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 26	臼玉	0.41	0.16	0.15	0.04	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 27	臼玉	0.41	0.12 ~ 0.16	0.15	0.04	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 28	臼玉	0.38	0.15 ~ 0.20	0.16	0.01	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 29	臼玉	0.42	0.20	0.16	0.06	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 30	臼玉	0.40	0.14	0.15	0.02	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 31	臼玉	0.35	0.10 ~ 0.17	0.16	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 32	臼玉	0.35	0.11	0.11	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 33	臼玉	0.38	0.18	0.15	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔 欠損品	覆土下層 ~床面
Q 34	臼玉	0.34	0.17	0.15	0.04	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 35	臼玉	0.35	0.07 ~ 0.10	0.15	0.02	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 36	臼玉	0.42	0.19 ~ 0.24	0.16	0.06	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 37	臼玉	0.39	0.13	0.16	0.02	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 38	臼玉	0.35	0.07 ~ 0.15	0.15	0.02	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 39	臼玉	0.38	0.10 ~ 0.14	0.15	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 40	臼玉	0.39	0.21	0.16	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 41	臼玉	0.39	0.17	0.16	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 42	臼玉	0.39	0.19	0.16	0.04	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 43	臼玉	0.38	0.10	0.16	0.02	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 44	臼玉	0.36	0.26	0.16	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 45	臼玉	0.37	0.27	0.16	0.06	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 46	臼玉	0.27	0.19	0.16	0.04	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 47	臼玉	0.37	0.18	0.15	0.01	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 48	臼玉	0.35	0.18	0.15	0.01	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 49	臼玉	0.38	0.25	0.16	0.07	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 50	臼玉	0.37	0.15	0.15	0.04	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 51	臼玉	0.41	0.15	0.11	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 52	臼玉	0.52	0.24	0.13	0.10	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔 欠損品	覆土下層 ~床面
Q 53	臼玉	0.43	0.17 ~ 0.27	0.13	0.08	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 54	臼玉	0.44	0.19	0.15	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 55	臼玉	0.41	0.29	0.13	0.09	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 56	臼玉	0.35	0.16	0.15	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 57	臼玉	0.38	0.14	0.10	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 58	臼玉	0.35	0.12 ~ 0.17	0.16	0.03	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 59	臼玉	0.37	0.21	0.15	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 60	臼玉	0.55	0.09 ~ 0.12	0.12	0.07	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 61	臼玉	0.38	0.29	0.19	0.09	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面
Q 62	臼玉	0.36	0.18	0.12	0.05	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔	覆土下層 ~床面

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 63	白玉	0.44	0.22	0.14	0.09	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 64	白玉	0.36	0.22	0.12	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 65	白玉	0.43	0.22	0.15	0.08	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 66	白玉	0.40	0.20	0.17	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 67	白玉	0.39	0.12	0.15	0.04	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 68	白玉	0.39	0.12	0.16	0.04	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 69	白玉	0.42	0.21	0.16	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土下層 -床面	
Q 70	白玉 未製品	(0.81)	0.26	0.16	(0.12)	滑石	両面平滑 一部研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 71	白玉	(0.40)	(0.09)	(0.18)	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 72	白玉	(0.38)	(0.08)	(0.18)	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 73	白玉 未製品	(0.70)	(0.19)	(0.15)	(0.11)	滑石	両面平滑 一部研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 74	白玉	(0.31)	(0.15)	0.15	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 75	白玉	(0.20)	(0.11)	(0.18)	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 76	白玉	0.35	0.13	0.17	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 77	白玉	(0.36)	0.10	(0.16)	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 78	白玉	(0.40)	0.08	(2.00)	(0.01)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土下層 -床面	
Q 79	白玉 未製品	(0.44)	0.22	0.15	(0.06)	滑石	両面平滑 一部研磨調整 中央部穿孔 (未貫通) 欠損品	覆土下層 -床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 80	側形品	238	114	0.27	0.81	滑石	全面研磨調整 孔径 0.17cm	覆土上層	PL13
Q 81	側形品	(3.42)	171	0.45	(4.22)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 未穿孔	覆土下層	PL13
Q 82	側形品	398	226	0.45	5.30	滑石	全面研磨調整 孔径 0.11cm	覆土下層	PL13
Q 83	側形品	322	135	0.52	(2.66)	滑石	全面研磨調整 孔径 0.16cm	覆土下層	PL13

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	鐵	(3.8)	21	0.3	(3.57)	鉄	鐵身部三角形	床面	PL14

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
G 1	白玉	0.41 -0.42	0.20	0.15	0.05	ガラス	青緑	床面	
G 2	白玉	0.43	0.30	0.10	0.08	ガラス	青	覆土中	

#### 第4号住居跡（第21～23図）

**位置** 調査区南部のG 4 b8 区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

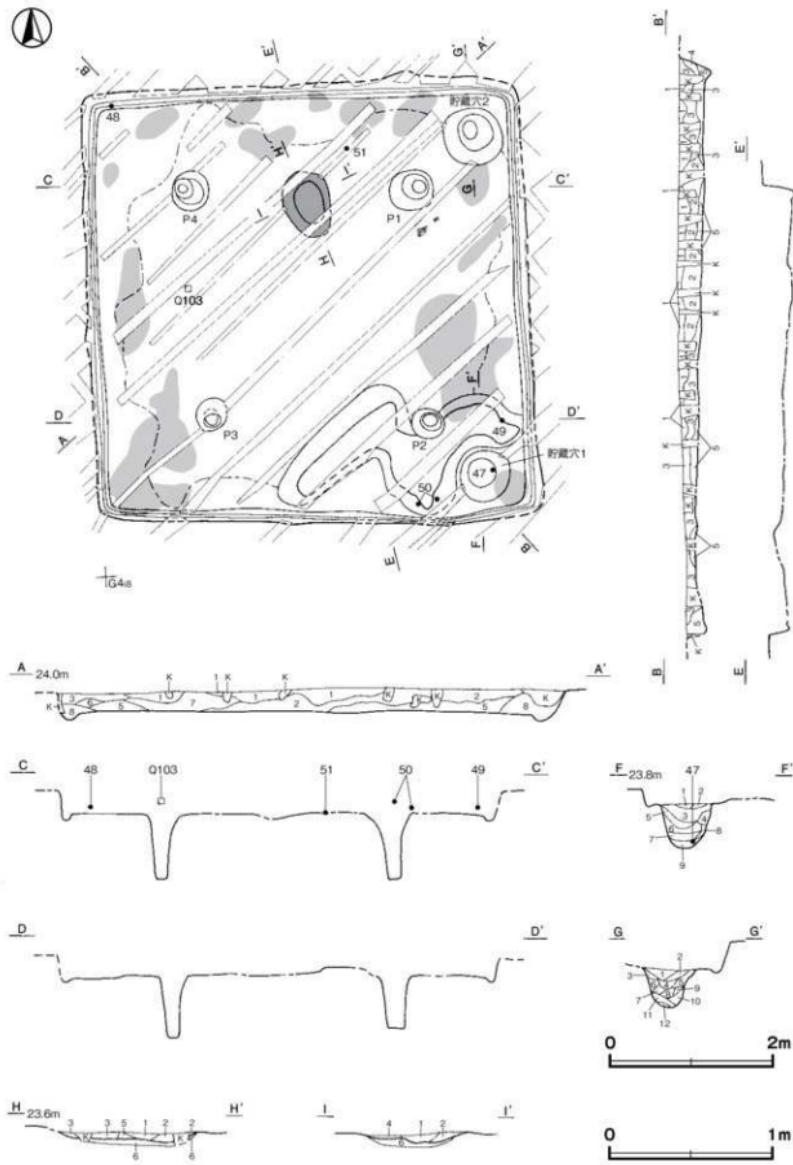
**規模と形状** 一辺5.4 mほどの方形で、主軸方向はN - 2° - Eである。壁高は30～36cmで、外傾して立ち上がりっている。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貯蔵穴1の北側から西側にかけてとP 2の西側に幅50～100cm、高さ7cmのN字状の高まりが存在している。南壁を除いた壁際の床面で焼土塊を確認した。

**炉** 北部に付設されている。長径82cm、短径64cmの楕円形で、深さ6cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第6層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4	暗褐色	炭化粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量	5	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量	6	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量



第21図 第4号住居跡実測図

**ピット** 4か所。P 1～P 4は深さ64～82cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は南東コーナー部に位置している。長径62cm、短径60cmの円形で、深さは54cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は北東コーナー部に位置している。長径74cm、短径72cmの円形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴1土層解説

1	褐	色	ローム粒子少量	6	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量、燒土粒子極微量	
2	暗	褐	色	燒土粒子多量、ローム粒子中量、炭化粒子微量	7	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量、燒土粒子極微量
3	暗	褐	色	ローム粒子中量	8	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子極微量	9	暗	褐	色	粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子少量	10	暗	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子極微量

#### 貯蔵穴2土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量	7	暗	褐	色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	
2	暗	褐	色	ローム粒子中量	8	暗	褐	色	燒土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
3	暗	褐	色	燒土粒子・炭化粒子少量、ロームブロック微量	9	暗	褐	色	燒土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
4	暗	褐	色	炭化粒子少量、燒土粒子微量	10	暗	褐	色	ロームブロック微量、燒土粒子・炭化粒子極微量
5	暗	褐	色	燒土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子少量	11	暗	褐	色	ロームブロック微量、燒土粒子極微量
6	暗	褐	色	ロームブロック少量	12	暗	褐	色	ロームブロック微量、炭化粒子微量

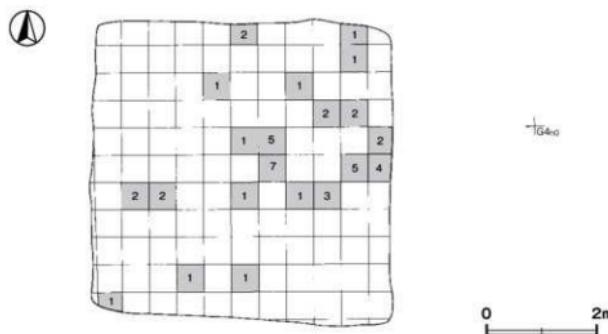
**覆土** 8層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

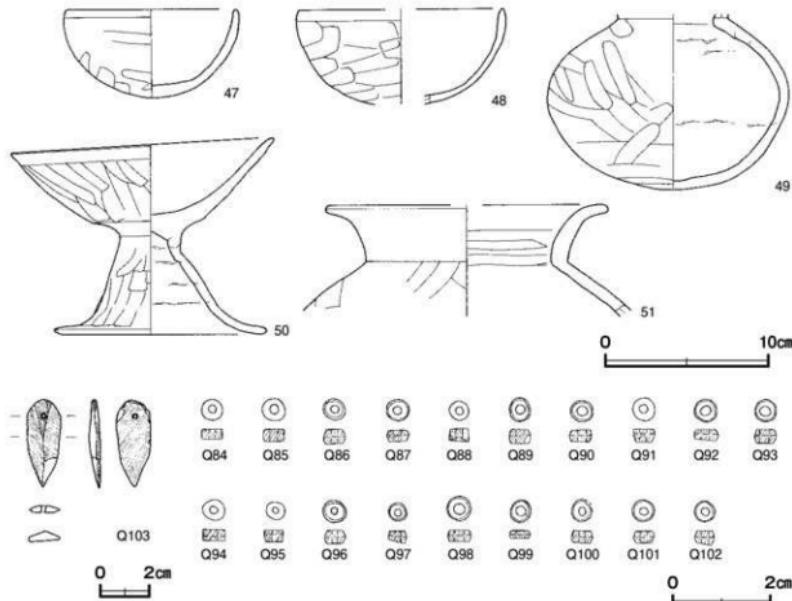
#### 土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化物・燒土粒子微量	5	極	暗	褐	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量
2	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土ブロック微量	6	極	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック・燒土ブロック少量	7	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	燒土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量	8	暗	褐	色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物微量	

**遺物出土状況** 土師器片297点(碗26、壺2、高坏88、甕176)、小形甕5)、石製品20点(臼玉19、剣形品1)、炭化種子46点(米35、麦5、豆6)が、北部から東部の覆土中層から床面にかけて出土している。47は貯蔵穴1の覆土下層、51は北部の床面から、48は北西コーナー部、49・50は南東コーナー部の覆土下層から、Q 103は西部の覆土中層から、Q 84～Q 102は北部・東部・南部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、北東部から南西部にかけての覆土下層から床面にかけて米や麦、豆が炭化した状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。壁際の覆土下層から床面にかけて焼土塊が広がっていることから焼失住居と考えられる。





第23図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	厚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
47	土器部	碗	10.3	5.4	—	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外周ヘラナデ、体部内面輪柱ナデ	竪穴式1号土下層	98% PL7
48	土器部	碗	[126]	(5.8)	—	長石・石英・赤色粒子	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外周横柱のヘラナデ	覆土下層	40%
49	土器部	坪	—	(10.8)	—	長石・石英	にぶい棕	普通	体部外周斜位のヘラナデ、内面ナデ、輪柱痕	覆土下層	70%
50	土器部	高环	16.0	12.1	12.0	長石・石英	明赤褐	普通	环部口縁外・内面横ナデ、环部・脚部外周斜位のヘラナデ、脚部内面輪柱痕	覆土下層	90% PL9
51	土器部	奥	[166]	(6.5)	—	長石・石英・雲母	赤褐	普通	口縫部外・内面横ナデ、体部外周斜位のヘラナデ	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔隙	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 84	臼玉	0.41	0.20	0.15	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 85	臼玉	0.41	0.24	0.15	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 86	臼玉	0.42	0.29	0.15	0.09	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 87	臼玉	0.40	0.24	0.15	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 88	臼玉	0.39	0.21 ~ 0.25	0.15	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 89	臼玉	0.43	0.29	0.16	0.10	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 90	臼玉	0.43	0.28	0.15	0.09	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 91	臼玉	0.42	0.26	0.15	0.08	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 92	臼玉	0.42	0.16 ~ 0.21	0.18	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 93	臼玉	0.41	0.27	0.18	0.07	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 94	臼玉	0.41	0.21	0.15	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 95	臼玉	0.39	0.23	0.14	0.06	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 96	白玉	0.43	0.27	0.15	0.10	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 97	白玉	0.38	0.19~0.26	0.15	0.05	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 98	白玉	0.49	0.22	0.19	0.09	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q 99	白玉	0.42	0.13	0.17	0.04	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q100	白玉	0.41	0.23~0.26	0.15	(0.07)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔 欠損品	覆土中	
Q101	白玉	0.42	0.23	0.14	0.07	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	
Q102	白玉	0.40	0.26~0.29	0.15	0.07	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q103	劍形品	360	1.44	0.44	2.68	滑石	全面研磨調整 孔径 0.16cm	覆土中層	PL13

### 第5号住居跡（第24～26図）

位置 調査区南西部のG 4e6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸6.00m、短軸4.37mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は28~42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北・西壁下には堀溝が巡っている。貯蔵穴の西側に幅40cm、高さ5cmのL字状の高まりが存在している。北西部の床面から焼土塊を確認した。

炉 2か所。炉1は中央部の北寄りに付設されている。長径110cm、短径56cmの楕円形で、深さ3cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第2~5層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変している。炉2は北西寄りに付設されている。長径64cm、短径52cmの楕円形で、深さ3cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第3・4層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変している。

#### 炉1・2土層解説

- |        |                        |       |                      |
|--------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子微量         | 4 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子極微量 |
| 2 暗赤褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子極微量   | 5 褐色  | ロームブロック中量            |
| 3 暗赤褐色 | 燒土粒子多量、ローム粒子微量、炭化粒子極微量 |       |                      |

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径68cm、短径58cmの楕円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

- |       |           |       |                 |
|-------|-----------|-------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子微量         |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量   | 5 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量    |
| 3 暗褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子極微量 |

覆土 11層に分層できる。第1・2層は周囲から流入した堆積状況を示したことから自然堆積である。

第3~11層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

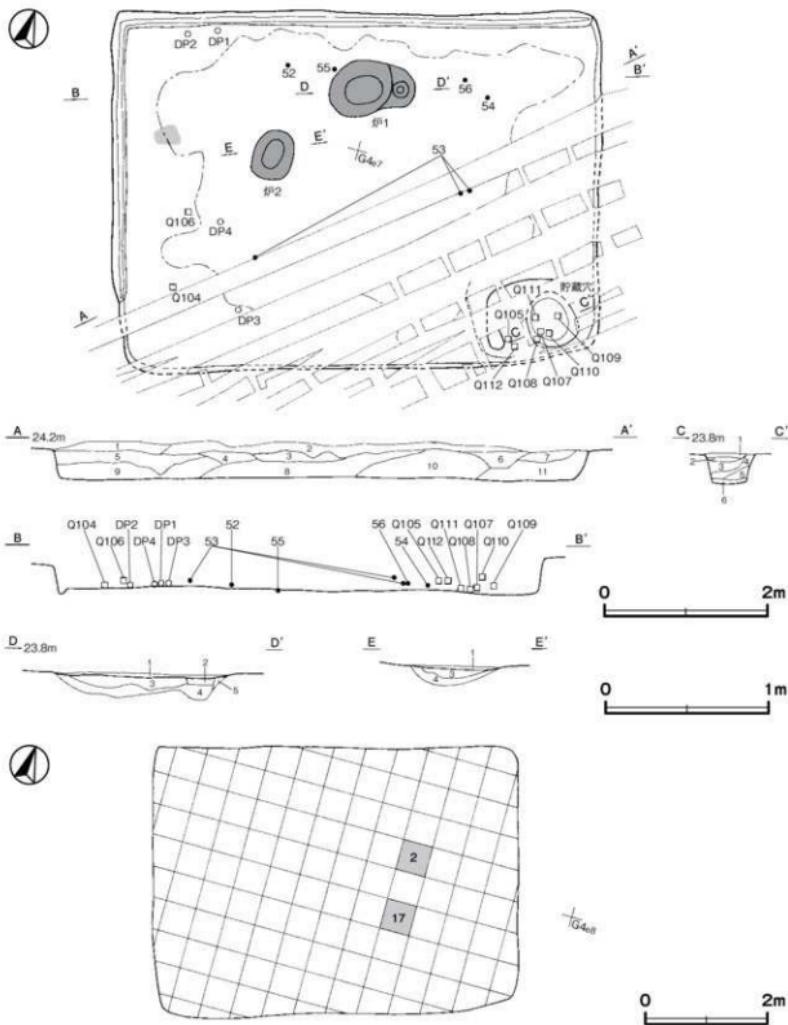
#### 土層解説

- |       |                     |        |                         |
|-------|---------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量      | 7 暗褐色  | ロームブロック微量、炭化粒子微量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量   | 8 暗褐色  | ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量      | 9 暗褐色  | ロームブロック微量、炭化物微量         |
| 4 暗褐色 | 炭化物・ローム粒子微量         | 10 暗褐色 | ロームブロック微量、炭化粒子極微量       |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量          |
| 6 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土ブロック微量    |        |                         |

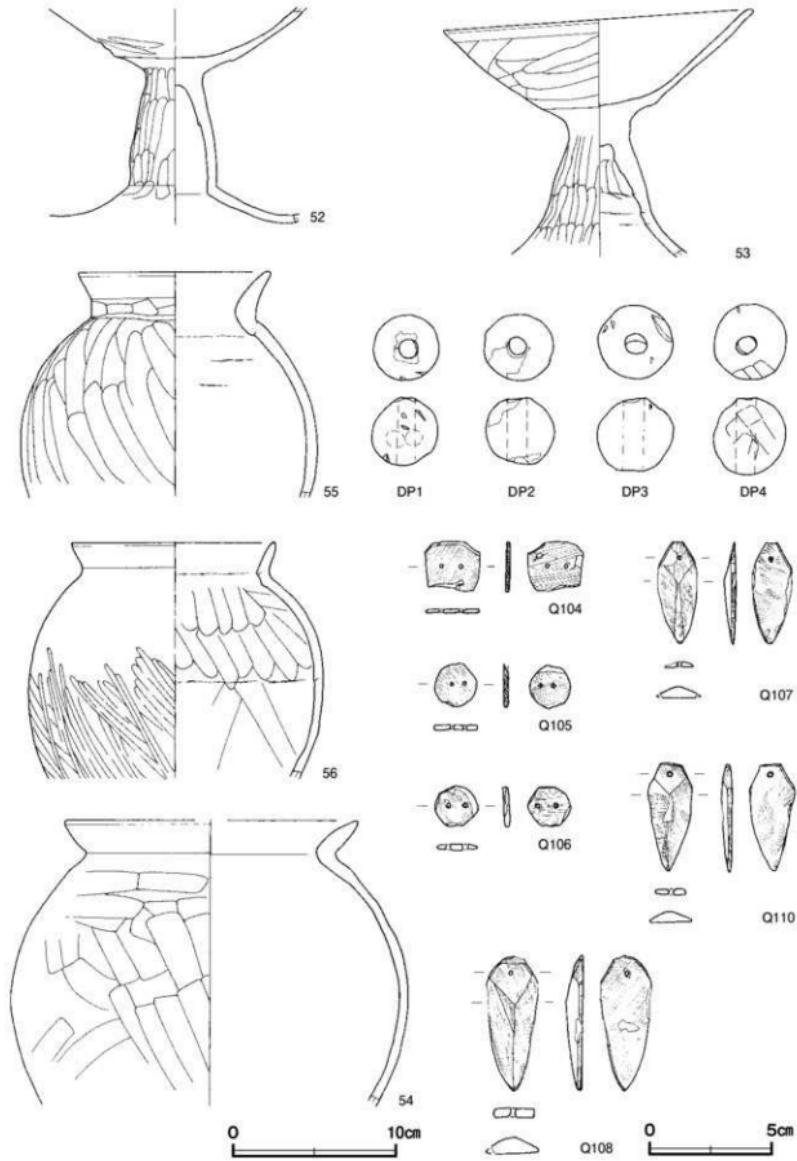
遺物出土状況 土師器片716点（珪4、高環61、鉢6、甌643、小形甌2）、土製品4点（土玉）、石器1点（砥石）、石製品9点（有孔円板2、有孔方板1、剣形品6）、滑石片11点 [20.33g]、炭化粒子19点（米）が、全体の覆土中層から床面にかけて出土している。55・DP1・DP2は北西部、DP4は南西部、Q108・Q111は南東部の床面から、53・54・56は北東部、52は北西部、DP3・Q104は南西部、Q105・Q107・Q109・Q

110・Q 112は南東部の覆土下層から、Q 106は南西部の覆土中からそれぞれ出土している。また、中央部の覆土下層から床面にかけて米が炭化した状態で出土している。

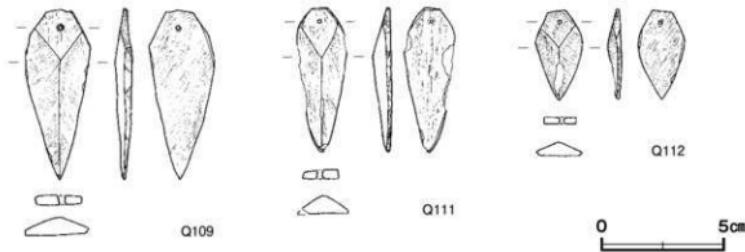
**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。北部の床面に焼土塊が確認されたことから焼失住居と考えられる。



第24図 第5号住居跡実測図・炭化種子出土分布図



第25図 第5号住居跡出土遺物実測図（1）



第26図 第5号住居跡出土遺物実測図（2）

第5号住居跡出土遺物観察表（第25・26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
52	土器部	高環	-	(133)	-	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	环部・脚部外側ヘナナダ 环部内面横ナダ	覆土下層	80%
53	土器部	高環	19.0	(152)	-	長石・石英・赤 色粒子	に赤い帶	普通	环部口縁外・内面横ナダ 环部・脚部外側ヘナナダ 脚部内面ヘナナダ 輪積直	覆土下層 PL9	80%
54	土器部	甕	[180]	(175)	-	長石・石英・雲母	に赤い帶	普通	脚部外側・内面横ナダ 体部外側斜位のヘナナダ	覆土下層	30%
55	土器部	小形甕	11.6	(139)	-	長石・石英	に赤い帶	普通	口縁足外・内面横ナダ 体部外側斜位のヘナナダ	床面	40%
56	土器部	小形甕	12.5	(145)	-	長石・石英	に赤い帶	普通	口縁足外・内面横ナダ 体部外・内面斜位のヘ ナナダ 内面輪積直	覆土下層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP 1	玉	2.72	2.81	0.80 ~ 0.90	19.00	長石・石英	ナダ 一方向からの穿孔	床面	PL12
DP 2	玉	2.84	2.77	0.80	(18.20)	長石・石英	ナダ 一方向からの穿孔	床面	
DP 3	玉	3.07	2.98	0.82	26.21	長石・石英	ナダ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL12
DP 4	玉	3.06	3.13	0.86	27.14	長石・石英	ナダ 一方向からの穿孔	床面	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 104	有孔方板	2.02	2.28	0.19	1.99	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔2か所 孔径0.14cm	覆土下層	PL12
Q 105	有孔円板	1.73	1.74	0.24	(1.26)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔2か所 孔径0.15cm	覆土下層	PL12
Q 106	有孔円板	1.63	1.78	0.30	1.31	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔2か所 孔径0.15cm	覆土中	PL12
Q 107	側彫品	4.14	1.61	0.49	(3.90)	滑石	全面研磨調整 孔径0.14cm	覆土下層	PL13
Q 108	側彫品	5.45	2.10	0.71	(9.36)	滑石	全面研磨調整 孔径0.14cm	床面	PL13
Q 109	側彫品	6.88	2.70	0.74	15.94	滑石	全面研磨調整 孔径0.14cm	覆土下層	PL13
Q 110	側彫品	4.42	1.79	0.46	(4.46)	滑石	全面研磨調整 孔径0.15cm	覆土下層	PL13
Q 111	側彫品	5.89	2.01	0.72	(9.20)	滑石	全面研磨調整 孔径0.13cm	床面	PL13
Q 112	側彫品	3.68	1.93	0.53	(3.80)	滑石	全面研磨調整 孔径0.14cm	覆土下層	PL13

第6号住居跡（第27図）

位置 調査区南西部のG 4 e0 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺 4.75 m ほどの方形で、北西・南東軸方向は N - 37° - W である。壁高は 10 ~ 16cm で、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦で、硬化面は認められない。

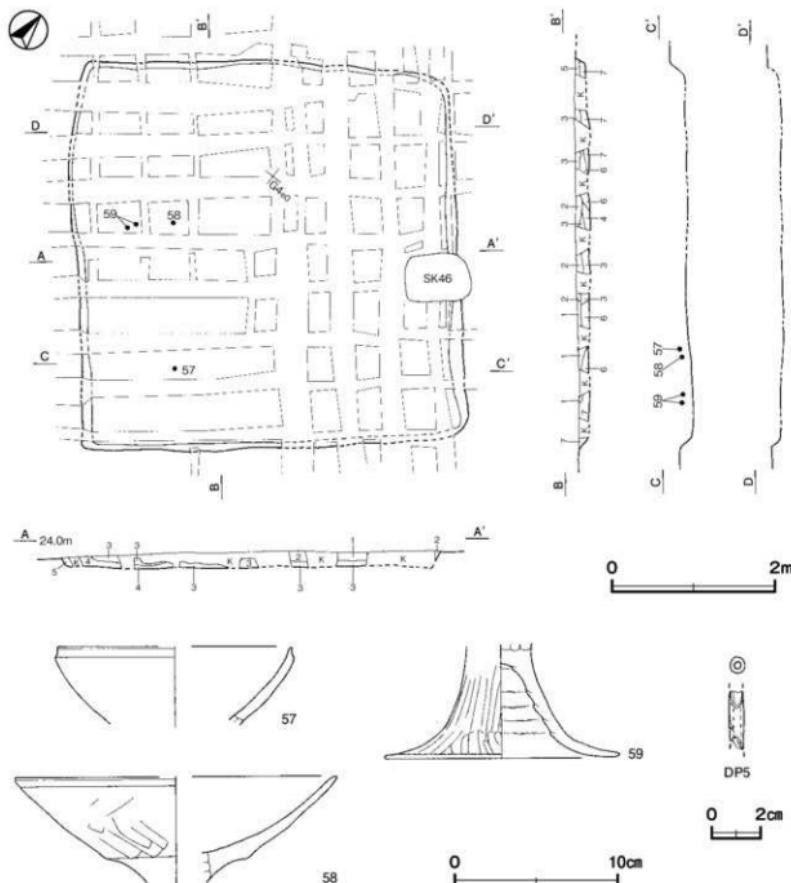
**覆土** 7層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒 色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒 暗 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
2 黒 暗 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	6 暗 暗 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 黒 暗 色 ローム粒子多量、炭化粒子微量	7 暗 暗 色 ローム粒子多量
4 黒 暗 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	

**遺物出土状況** 土師器片 491 点 (壺 13, 高杯 123, 壺 355), 土製品 1 点 (管状土錐) が南西部の覆土中層から下層にかけて出土している。58・59 は南西部の覆土下層から, 57 は南部の覆土中層から, DP5 は覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。



第 27 図 第 6 号住居跡・出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第27図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
57	土器	壺	[14.4]	(4.9)	-	長石・石英・赤 粘土子	にぶい程	普通	口縁部外・内面擦ナダ	覆土中層	10%
58	土器	壺	[19.6]	(6.6)	-	長石・石英	明赤褐	普通	环部口縁外面横ナダ 背面ヘラナダ 内面摩減	覆土下層	30%
59	土器	壺	-	(7.0)	[14.4]	長石・石英	にぶい程	普通	脚部外面ヘラナダ 内面輪積板	覆土下層	40%
DP 5	管状土錐	(2.42)	0.59	0.28	[0.60]	石英	ナダ	一方向からの穿孔 両端欠損		覆土中	

## 第7号住居跡（第28～33図）

位置 調査区東部のF 6 c6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 6.54 m、短軸 6.40 m の方形で、主軸方向は N - 41° - W である。壁高は 31 ～ 37 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から北西壁際にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。また、南コーナー部の貯蔵穴 2 と P 5 を開むように幅 30 ～ 50 cm、高さ 5 cm の T 字状の高まりが存在している。

炉 北部に付設されている。長径 64 cm、短径 52 cm の楕円形で、深さ 9 cm の地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第 5 層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

## 炉土層解説

- |   |      |                       |   |     |                  |
|---|------|-----------------------|---|-----|------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 燒土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 | 赤褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子微量   |
| 2 | 暗褐色  | 燒土ブロック・炭化物・燒土粒子微量     | 5 | 赤褐色 | 燒土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 3 | 赤褐色  | 燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |   |     |                  |

ピット 6か所。P 1 ～ P 4 は深さ 58 ～ 74 cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5 は深さ 42 cm で、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 21 cm で、性格不明である。

貯蔵穴 2 か所。貯蔵穴 1 は東コーナー部に位置している。長径 74 cm、短径 68 cm の円形で、深さは 53 cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴 2 は南コーナー部に位置している。長径 98 cm、短径 94 cm の円形で、深さは 89 cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

## 貯蔵穴 1 土層解説

- |   |     |                  |   |    |                     |
|---|-----|------------------|---|----|---------------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック中量           |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量        | 4 | 褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子中量 |

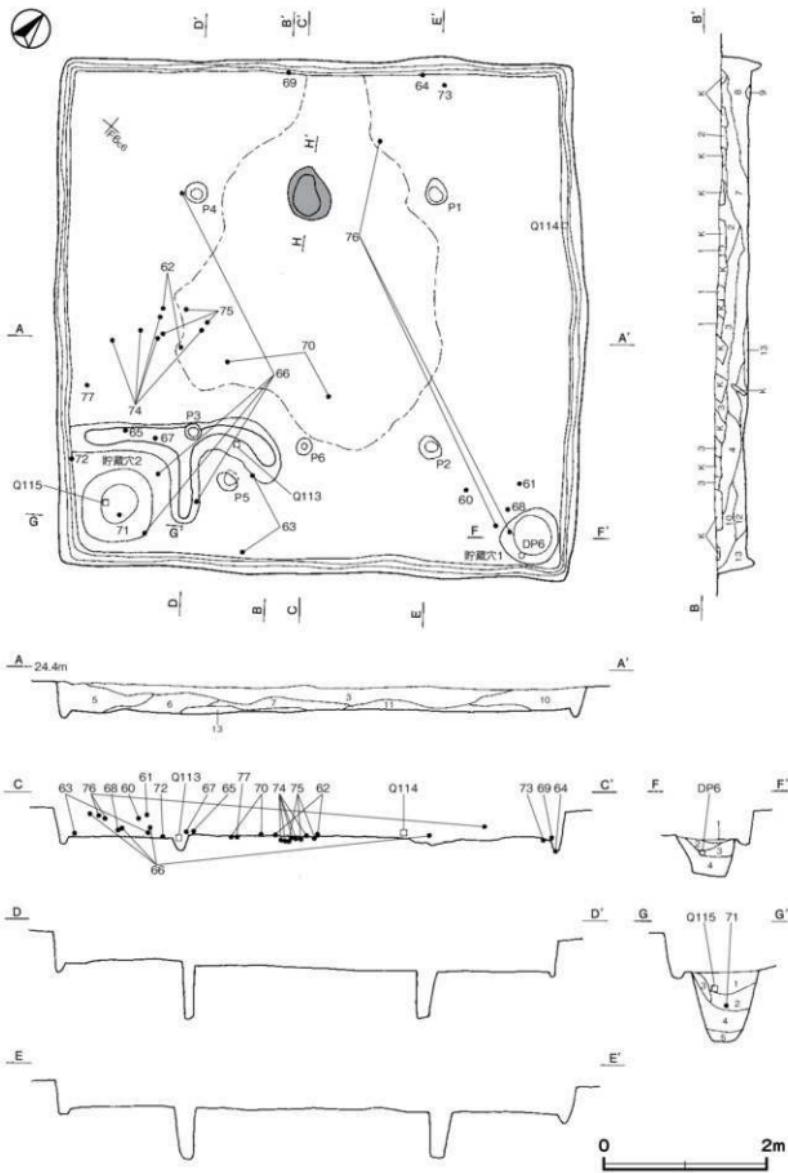
## 貯蔵穴 2 土層解説

- |   |     |                |   |      |                  |
|---|-----|----------------|---|------|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量        | 4 | 極暗褐色 | ロームブロック少量、燒土粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量      | 5 | 極暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量     |
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子少量 |   |      |                  |

覆土 13 層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

## 土層解説

- |   |      |                  |    |       |                       |
|---|------|------------------|----|-------|-----------------------|
| 1 | 暗褐色  | ローム粒子少量          | 8  | 褐色    | ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 9  | にぶい褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量          |
| 3 | 暗褐色  | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 | 褐色    | ローム粒子中量、炭化粒子微量        |
| 4 | 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 11 | 褐色    | ローム粒子少量               |
| 5 | 褐色   | ロームブロック中量        | 12 | 暗褐色   | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量   |
| 6 | 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量   | 13 | 極暗褐色  | ローム粒子少量               |
| 7 | 暗褐色  | ロームブロック微量        |    |       |                       |



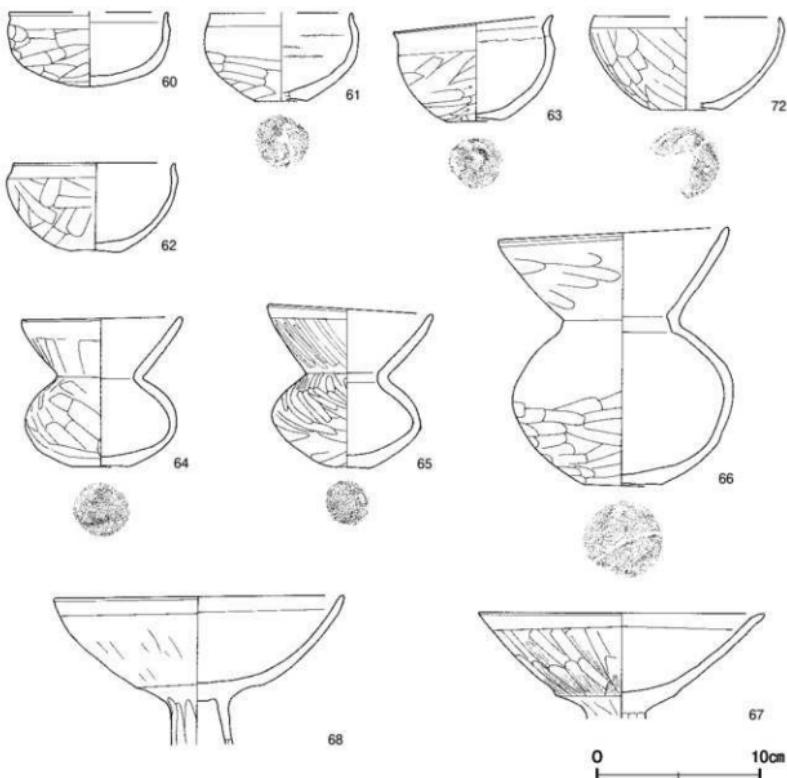
第28図 第7号住居跡実測図（1）



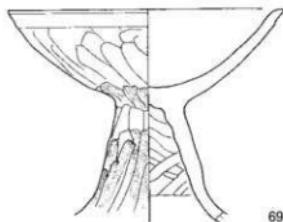
第29図 第7号住居跡実測図（2）

**遺物出土状況** 土師器片 585 点（楕 5、壺 101、高坏 116、鉢 1、甕 362）、土製品 1 点（土玉）、石製品 3 点（白玉 1、有孔円板 2）、滑石片 20 点 [44.88g] が、南部の床面から多く出土している。DP 6 は貯藏穴 1、Q 115 は貯藏穴 2 の覆土上層、71 は貯藏穴 2 の覆土中層から出土している。64・73 は北部、62・70・72・74・75・77・Q 113 は南部の床面から、69・Q 114 は北部、63・65・67 は南部、68 は東部の覆土下層から、60・61・76 は東部の覆土上層から、66 は南部の覆土上層から下層にかけてそれぞれ出土している。

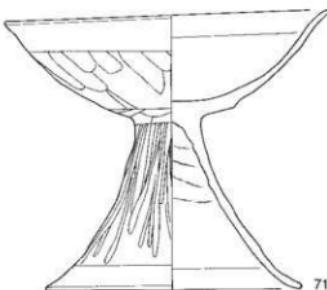
**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。



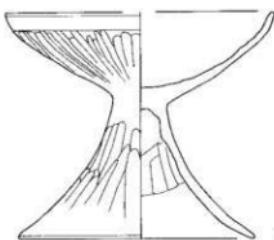
第30図 第7号住居跡出土遺物実測図（1）



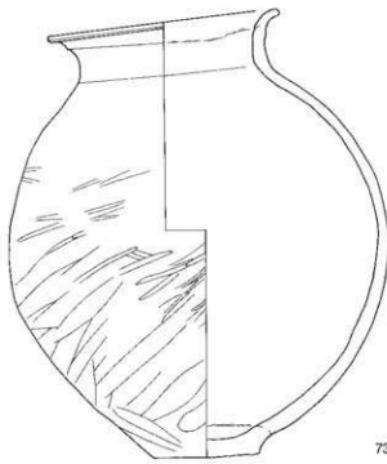
69



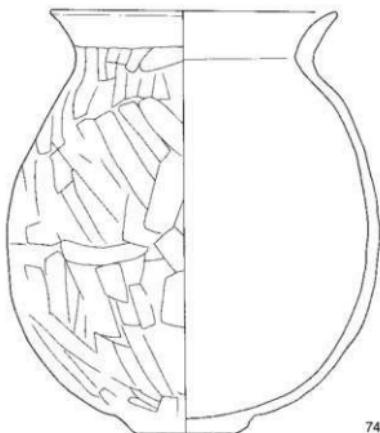
71



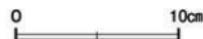
70



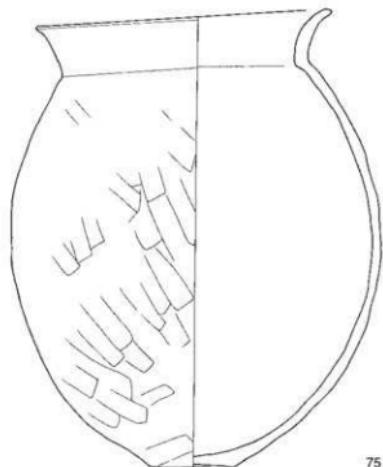
73



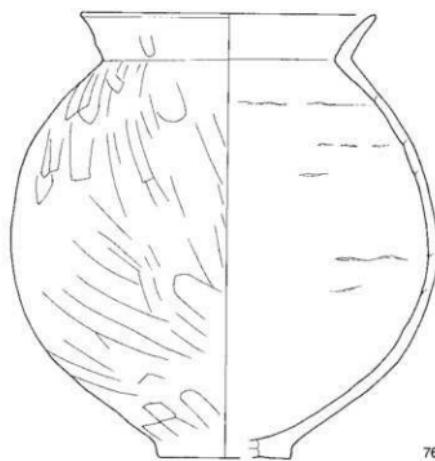
74



第31図 第7号住居跡出土遺物実測図(2)



75

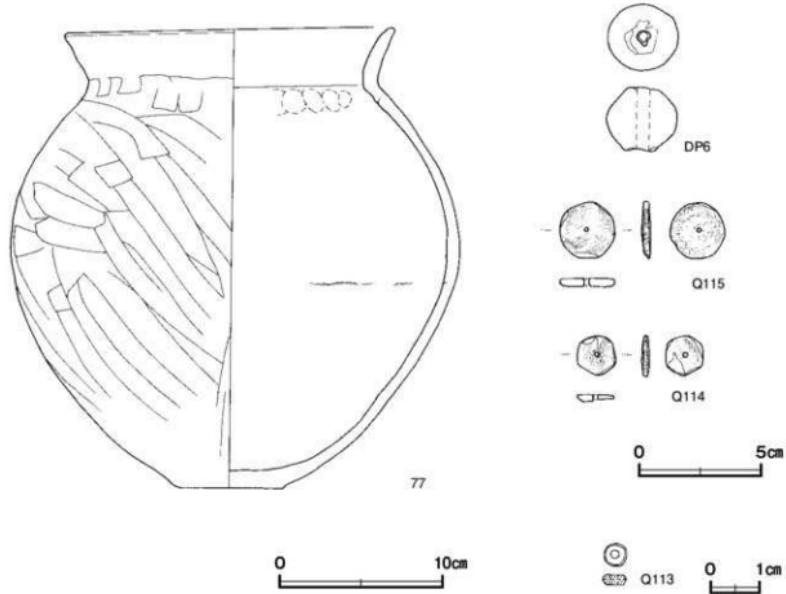


76



0 10cm

第32図 第7号住居跡出土遺物実測図（3）



第33図 第7号住居跡出土遺物実測図(4)

第7号住居跡出土遺物観察表(第30~33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
60	土師器	輪	[9.6]	4.6	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	覆土上層	70% PL7
61	土師器	輪	[8.7]	5.4	3.1	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位ヘラナデ 内面底減量不明 横模倣	覆土上層	50%
62	土師器	輪	9.7	5.5	3.0	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	床面	80% PL7
63	土師器	輪	9.6	6.5	3.2	長石・石英・雲母 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ 横模倣	覆土下層	80%
64	土師器	壺	9.8	9.2	3.3	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	床面	100% PL8
65	土師器	壺	10.0	10.0	2.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ナデ	覆土下層	95% PL8
66	土師器	壺	13.8	16.0	4.7	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ	覆土上層 一下層	80%
67	土師器	高环	17.4	[6.4]	-	長石・石英・雲母	にい・赤褐	普通	環状口縁外・内面横ナデ 环状外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	50%
68	土師器	高环	17.6	[9.3]	-	長石・石英・雲母	橙	普通	環状口縁外・内面横ナデ 环状外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	60%
69	土師器	高环	16.9	(13.1)	-	長石・石英・雲母	にい・橙	普通	環状口縁外・内面横ナデ 环状外面ヘラナデ 内面ナデ	覆土下層	70%
70	土師器	高环	[16.8]	[13.9]	[14.2]	長石・石英・雲母	黄橙	普通	環状口縁外・内面横ナデ 环状・脚部外面斜位 内面ナデ	床面	70%
71	土師器	高环	19.5	17.2	15.2	長石・石英・繊維	橙	普通	環状口縁外・内面横ナデ 环状・脚部外面ヘラナデ 内面ナデ	野穂穴2 覆土中層	90% PL9
72	土師器	鉢	[11.3]	5.7	4.3	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	床面	30%
73	土師器	鉢	14.1	27.5	6.6	長石・石英・雲母 赤色粒子	にい・黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	床面	95% PL11
74	土師器	鉢	17.4	25.7	6.1	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	床面	70%
75	土師器	鉢	17.8	28.1	5.1	長石・石英	にい・赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	床面	90% PL11
76	土師器	鉢	17.8	27.3	8.2	長石・石英・雲母	にい・橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜位のヘラナデ 内面ナデ	覆土上層	70% PL11
77	土師器	鉢	19.9	28.5	6.6	長石・石英・雲母 赤色粒子	にい・橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面ナデ	床面	90%

番号	器種	径	厚さ	孔深	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 6	土玉	290	2.54	0.50	19.77	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	貯藏穴1 青土上層	PL12
番号	器種	径	厚さ	孔深	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 113	白玉	0.43	0.18 ~ 0.21	0.15	0.07	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	床面	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 114 有孔円板	1.62 ~ 1.72	1.70	0.30	1.38		滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径0.18cm	覆土下層	PL12
Q 115 有孔円板	2.31 ~ 2.35	2.30	0.31	3.07		滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径0.14cm	貯藏穴2 青土上層	PL12

### 第8号住居跡(第34図)

**位置** 調査区中央部のF 5 d2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第167号土坑に掘り込まれている。第166号土坑とも重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模と形状** 一辶9.50mの方形で、主軸方向はN - 64° - Wである。壁高は6~26cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。また、P 5の北側および南側に東壁から直線状に延びる幅20~40cm、高さ5cmの高まりが4条存在している。南コーナー部の床面で焼土塊を確認した。

**ピット** 7か所。P 1~P 4は深さ80~102cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ24cmで、東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7は深さ12cm・22cmで、壁柱穴の可能性もあるが明確ではない。

**貯蔵穴** 東壁際の南部に位置している。径80cmほどの円形で、深さは58cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴上層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子中量

**覆土** 13層に分層できる。第1・2層は周間から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

第3~13層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

1	暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック極微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
3	暗褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック微量	11	暗褐色	ローム粒子多量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子極微量	12	暗褐色	ロームブロック中量
6	暗褐色	ローム粒子中量	13	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子極微量
7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量			

**遺物出土状況** 土師器片387点(碗1、壺9、高杯18、甕359)、石製品1点(白玉)が、南西部の覆土下層から床面にかけて出土している。79は西部の床面から、78・81は南部の覆土下層から、80・Q 116は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。南コーナー部の覆土下層から床面にかけて焼土塊が広がっていることから焼失住居と考えられる。



第34図 第8号住居跡・出土遺物実測図



第8号住居跡出土遺物観察表（第34図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	粘土	色調	焼成	手法の特徴ほか		出土位置	備考
									口縁部外・内面横ナデ	体部外側横位のヘラ削 内面壁面調整不規		
78	土器器	碗	11.8	5.9	3.5	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外側横位のヘラ削 内面壁面調整不規	覆土下層	90% PL7
79	土器器	壺	8.5	8.9	4.3	長石・石英・雲母 針状結晶物	棕	良好	口縁部外・内面横ナデ	口縁部内面下端斜位の ヘラナデ	床面	80% PL8
80	土器器	高杯	-	(10.8)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	脚部外表面縦位のヘラナデ	内面輪横痕	覆土中	30%
81	土器器	甕	[17.0]	[10.0]	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面斜位のヘ ラナデ	覆土下層	10%

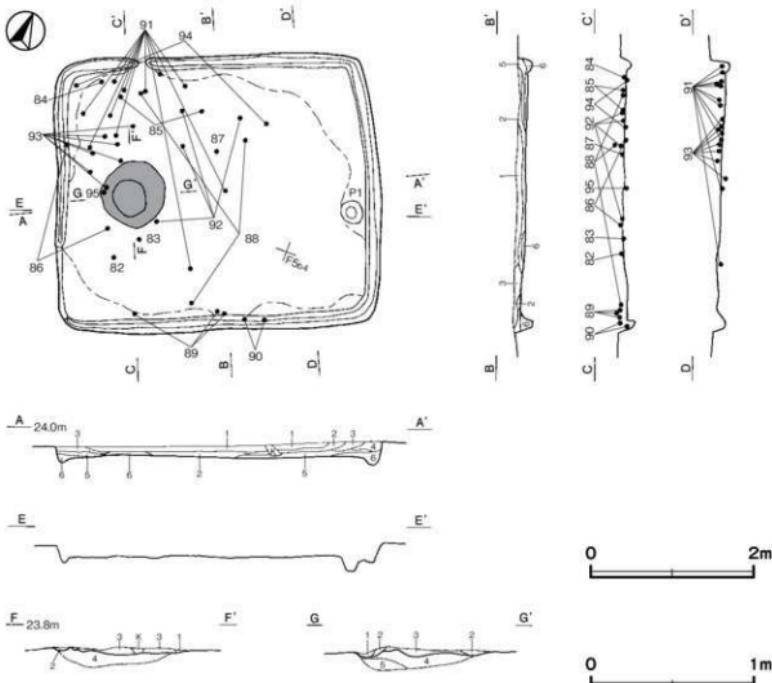
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
							全面	研磨調整			
Q 116	臼玉	0.42	0.18	0.18	(0.04)	滑石	両面平滑	全面研磨調整	中央部穿孔 欠損品	覆土中	

第9号住居跡（第35～38図）

位置 調査区中央部のF 5a3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.93m、短軸3.38mの長方形で、主軸方向はN-67°-Eである。壁高は10～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には堅溝が巡っている。



第35図 第9号住居跡実測図

**炉** 西部に付設されている。径 82cm ほどの円形で、深さ 4cm の地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第4・5層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

**炉土層解説**

- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 細褐 色 ローム粒子多量、焼土粒子微量    | 4 赤 色 ロームブロック・焼土ブロック少量      |
| 2 細 褐 色 ローム粒子多量、焼土粒子少量   | 5 にい赤褐色 ロームブロック・焼土粒子少量      |
| 3 細 褐 色 焼土ブロック多量、ローム粒子少量 | 6 黒褐色 烧土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |

**ピット** P 1 は深さ 18cm で、北東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

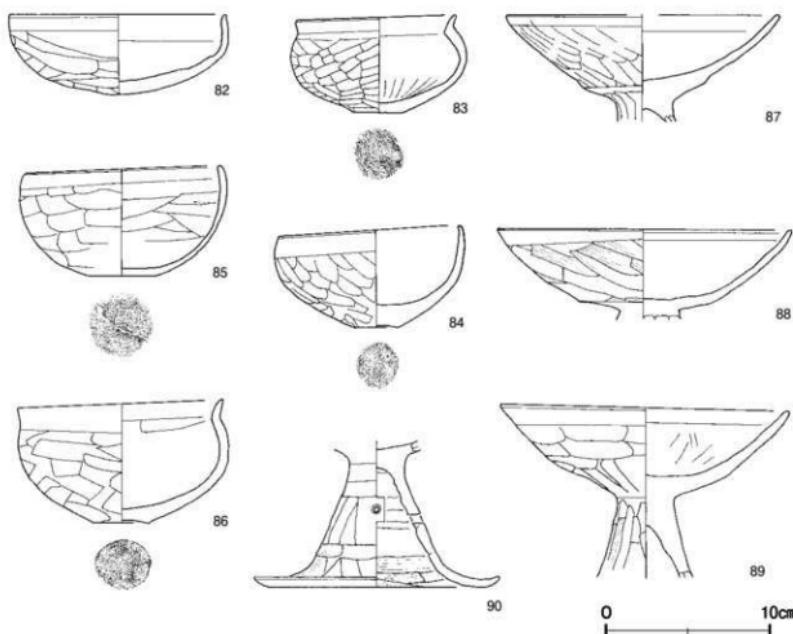
**覆土** 6 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

**土層解説**

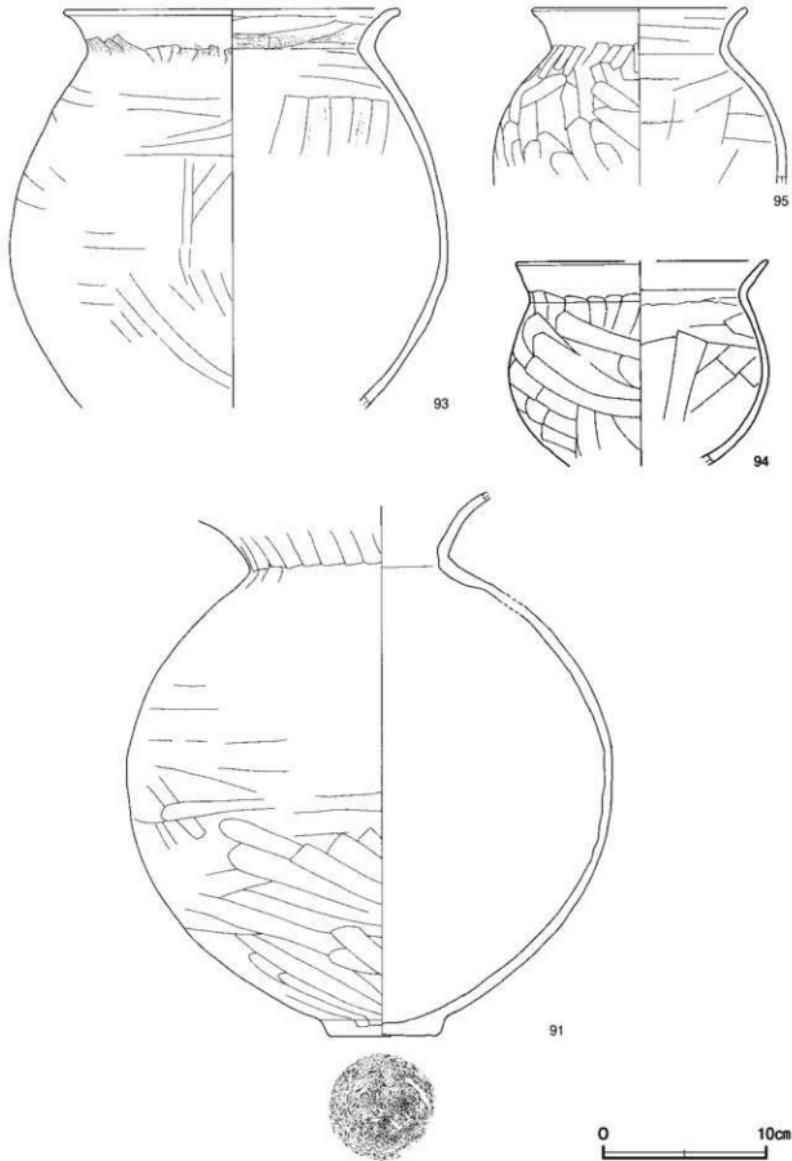
- |                         |                             |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 黒 色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量       |
| 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子、炭化粒子微量 | 5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量  |
| 3 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 6 黑褐色 烧土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片 357 点（坏 3、碗 9、壺 7、高坏 44、甕 292、小形甕 2）が、中央部から西部の覆土上層から床面にかけて出土している。84・85・87・92・94 は北西部、83・86・95 は南西部の床面から、88・91・93 は北西部、82 は南西部、90 は南部の覆土下層から、89 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

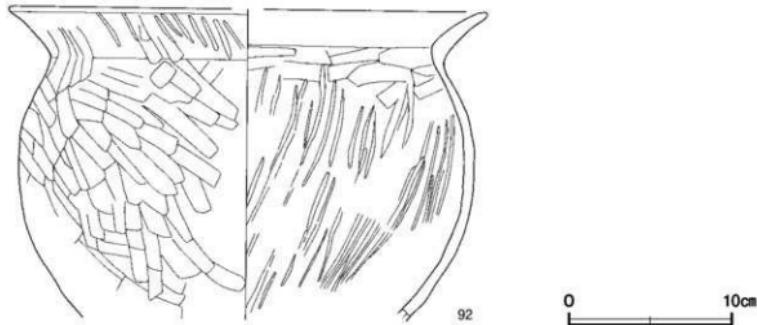
**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。



第 36 図 第 9 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第37図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)



第38図 第9号住居跡出土遺物実測図（3）

第9号住居跡出土遺物観察表（第36～38図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
82	土器部	坪	13.1	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側斜位のヘラナデ	覆土下層	70%
83	土器部	桶	9.6	6.0	3.1	長石・石英・細纖維	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	95% PL7
84	土器部	桶	11.0	6.2	2.6	長石・石英・青状鉱物	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側斜位のヘラナデ	床面	70%
85	土器部	桶	11.8	6.8	3.9	長石・石英・黒色粒子	にぶい・棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面横位のヘラナデ	床面	80% PL7
86	土器部	桶	12.4	7.5	3.4	長石・石英・黃色粒子	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜位のヘラナデ	床面	80% PL7
87	土器部	高坪	[16.6]	(6.5)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 壁部外・内面ヘラナデ 壁部内面成層型不明	床面	40%
88	土器部	高坪	17.8	[5.6]	-	長石・石英・雲母	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 壁部外側斜位のヘラナデ	覆土下層	50%
89	土器部	高坪	17.6	(10.6)	-	長石・石英・赤色粒子	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 壁部外・内面ヘラナデ	覆土下層	60%
90	土器部	高坪	-	(8.9)	[15.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい棕	普通	胎部外・内面ヘラナデ 2 桁 極端底	覆土下層	40%
91	土器部	甕	-	(33.4)	6.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐色	普通	口縁部・体部外側斜位のヘラナデ	覆土下層	60% PL11
92	土器部	甕	[29.2]	(19.1)	-	長石・石英・雲母	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	30%
93	土器部	甕	20.5	(24.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	60%
94	土器部	小形甕	[15.4]	(12.6)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜位のヘラナデ	床面	60%
95	土器部	小形甕	13.0	(10.9)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 口縁部内面・体部外・内面ヘラナデ	床面	40%

### 第10号住居跡（第39～42図）

位置 調査区北部のE 612区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

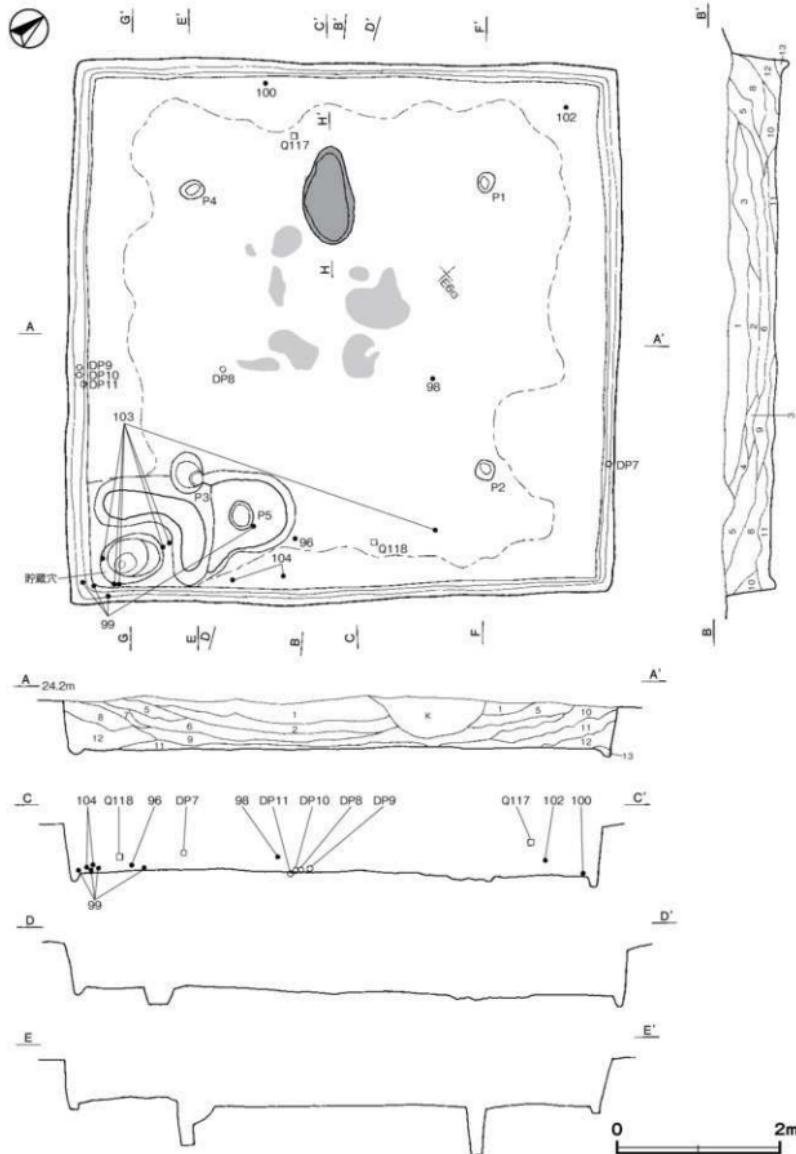
規模と形状 長軸6.78 m、短軸6.61 mの方形で、主軸方向はN-46°-Wである。壁高は54～62cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。また、南コーナー部に位置する貯蔵穴の周間に幅50～60cm、高さ9cmのL字状の高まりがあり、その北東側に続いてP5の周間に長径130cm、短径100cm、高さ5cmの半楕円形の高まりが存在している。中央部の床面で焼土塊を確認した。

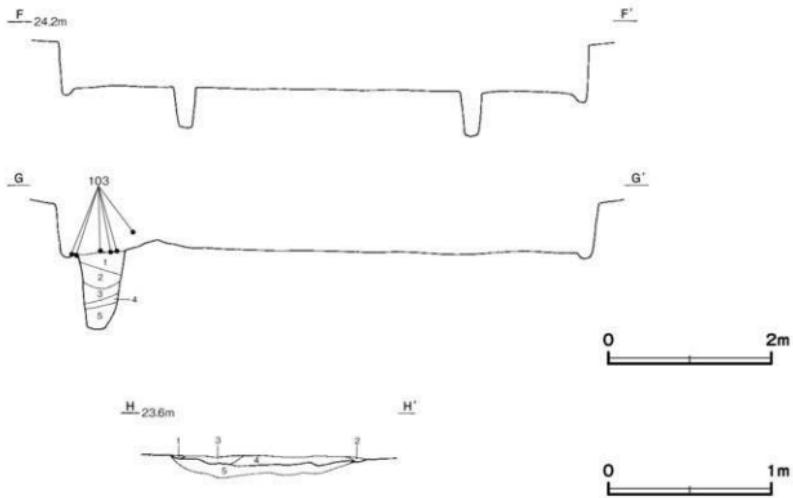
炉 北西部に付設されている。長径120cm、短径64cmの楕円形で、深さ7cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第5層を埋め戻して構築しており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	4	暗褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子多量	5	赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
3	褐色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量			



第39図 第10号住居跡実測図（1）



第40図 第10号住居跡実測図（2）

**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ50～57cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ27cmで、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 南コーナー部に位置している。長径78cm、短径60cmの楕円形で、深さは108cmである。底面は平坦で、北東側壁は段を有し、南西側壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量	5	暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子微量			

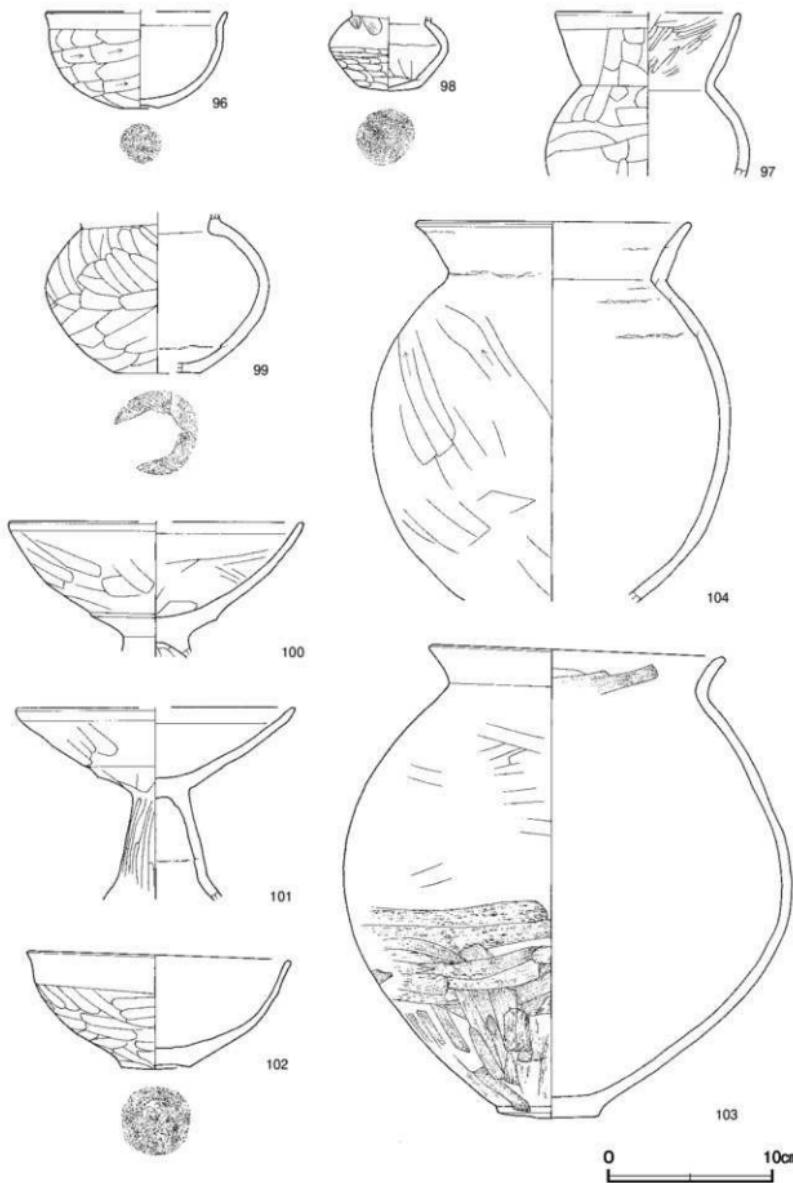
**覆土** 13層に分層できる。第1～7層は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第8～13層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

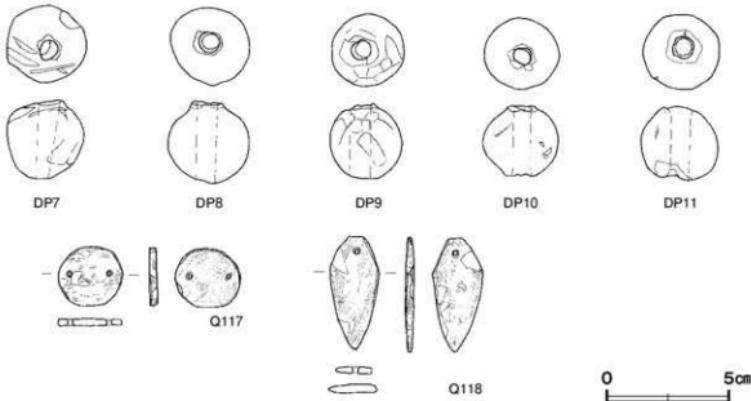
1	黒色	ローム粒子・焼土粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・灰化粒子微量
2	黒色	焼土粒子少量、ローム粒子・灰化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・灰化粒子微量
3	黒色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・灰化物微量
4	黒色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	11	暗褐色	ロームブロック中量、灰化物微量
5	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・灰化物微量
6	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	13	暗褐色	ロームブロック中量
7	無暗褐色	ローム粒子少量			

**遺物出土状況** 土師器片778点（碗19、壺98、高杯98、鉢1、甕562）、土製品5点（土玉）、石製品2点（有孔円板、劍形品）が、南部の覆土上層から床面にかけて出土している。100は西部、99・DP 8・DP10・DP11は南部の床面から、102は北部、98・DP 7・Q 118は東部、96・103・104・DP 9は南部の覆土下層から、Q 117は西部の覆土上層から、97・101は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。中央部の覆土下層から床面にかけて焼土塊が広がっていることから焼失住居と考えられる。



第 41 図 第 10 号住居跡出土遺物実測図（1）



第42図 第10号住居跡出土遺物実測図(2)

第10号住居跡出土遺物観察表(第41・42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
96	土器部	碗	[109]	59	22	長石・石英・青母 等・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁部のハラ削り	覆土下層	70%
97	土器部	壺	[112]	(100)	-	長石・石英・青母	橙	普通	口縁部外・内面・体部外縁ヘラナデ	覆土中	40%
98	土器部	壺	-	(44)	35	長石・石英・青母 等・黒色粒子・針状鉱物	明赤褐	良好	体部外縁部位のハラナデ 内面ナデ 楔積灰	覆土下層	50%
99	土器部	壺	-	(98)	50	長石・石英・黒 色粒子	にぶい黄褐	良好	体部外縁部位のハラナデ 内面摩減調整不明 楔積灰	床面	50%
100	土器部	高杯	[178]	(83)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	外縁口縁外・内面横ナデ 环部外・内面斜位の ハラナデ	床面	60%
101	土器部	高杯	[168]	(119)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外縁口縁外・内面横ナデ 环部外縁部位のハラ ナデ 内面摩減調整不明 體部外縁部位のハラ ナデ 内面横積灰	覆土中	50%
102	土器部	鉢	158	72	4.3	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁ヘラ削り 内 面摩減調整不明	覆土下層	80% PL7
103	土器部	甕	176	290	6.1	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外縁ナデ・内面ヘラナデ 体部外縁ヘ ラナデ	覆土下層	80% PL11
104	土器部	甕	165	(232)	-	長石・石英・青 色粒子	明赤褐	良好	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁部位のハラ削り	覆土下層	50%

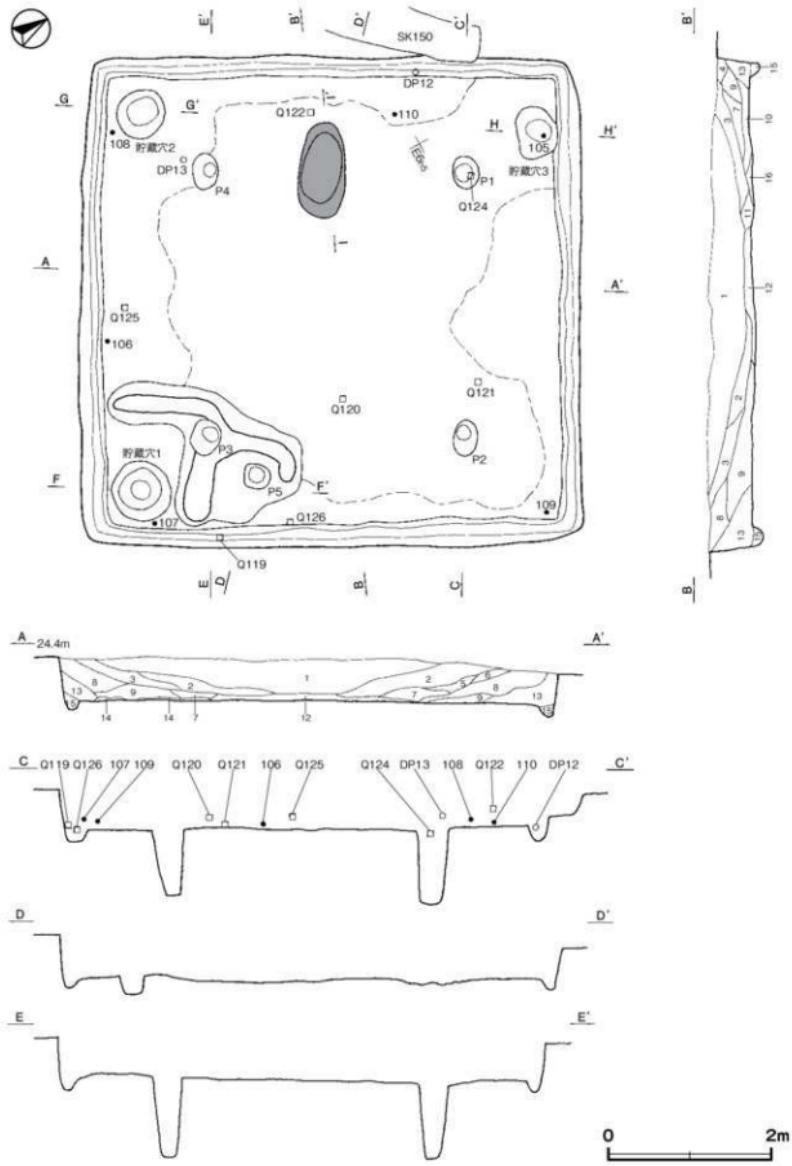
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP7	玉	3.24	3.25	0.76	2901	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL12
DP8	玉	3.32	3.32	0.28	2982	長石・石英・赤 色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL12
DP9	玉	3.00	3.02	0.84	24.58	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL12
DP10	玉	2.90 3.10	2.95	0.74	23.31	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL12
DP11	玉	3.10 3.20	3.01	0.84	24.99	長石・石英・赤 色粒子	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 117	有孔円板	2.44	2.65	0.32	4.19	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔2か所 孔径0.12cm	覆土上層	PL12
Q 118	側形品	4.69	2.05	0.40	5.46	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径0.15cm	覆土下層	PL13

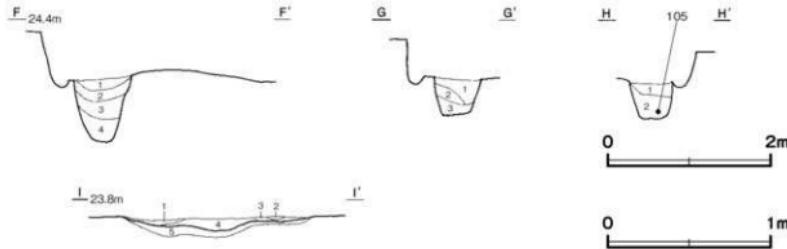
第11号住居跡(第43～46図)

位置 調査区北部のE 6 h5区、標高24 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第150号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。



第43図 第11号住居跡実測図(1)



第44図 第11号住居跡実測図（2）

**規模と形状** 長軸6.12m、短軸6.02mの方形で、主軸方向はN-61°-Wである。壁高は45~53cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。また、南コーナー部に位置する貯蔵穴1とP5の周囲に幅50~130cm、高さ5cmのT字状の高まりが存在している。

**炉** 西部に付設されている。長径120cm、短径58cmの楕円形で、深さ7cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第5層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

#### 炉土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	4	暗褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子微量	5	暗赤褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量			

**ピット** 5か所。P1~P4は深さ82~100cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ22cmで、南東壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 3か所。貯蔵穴1は南コーナー部に位置している。径72cmほどの円形で、深さは80cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は西コーナー部に位置している。径60cmほどの円形で、深さは46cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴3は北コーナー部に位置している。長径66cm、短径50cmの楕円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

#### 貯蔵穴1土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量	4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・粘土粒子微量

#### 貯蔵穴2土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	3	褐色	ローム粒子中量
2	暗褐色	ロームブロック少量			

#### 貯蔵穴3土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
---	-----	-----------------------	---	-----	----------------

**覆土** 16層に分層できる。第1~3層は周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。第4~16層は不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

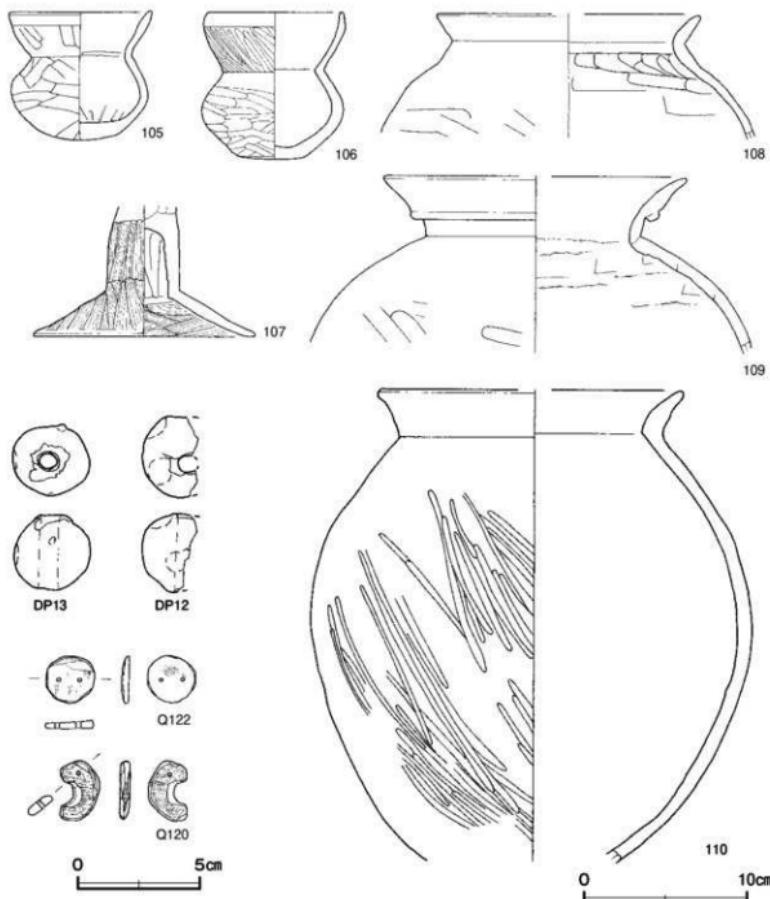
1	黒褐色	ローム粒子少量	7	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子極微量
2	黒褐色	ロームブロック少量	8	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ローム粒子中量	9	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	10	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量	11	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子極微量
6	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子極微量	12	暗褐色	ローム粒子多量

13 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子極微量  
14 褐色 ロームブロック多量

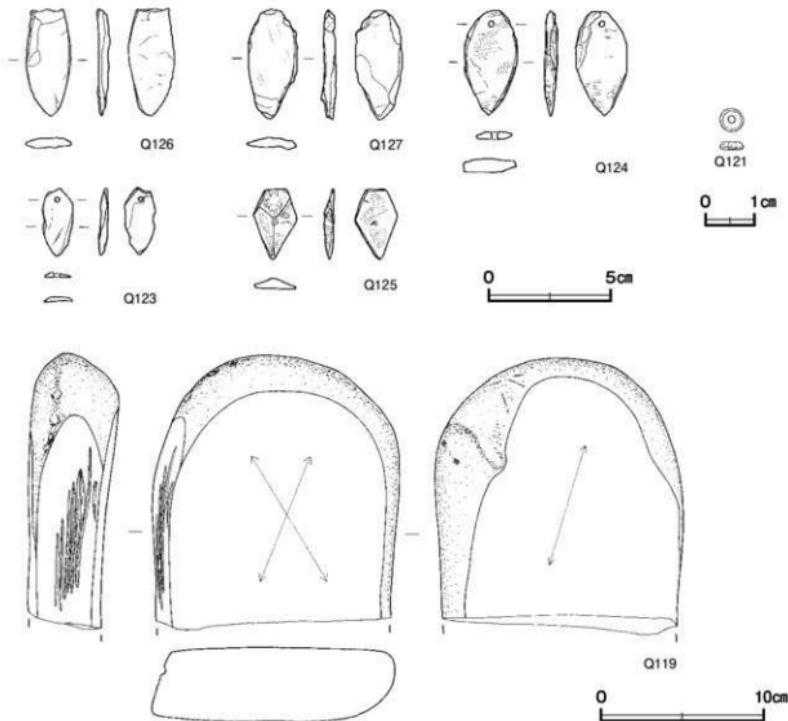
15 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量  
16 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子、炭化粒子少量

**遺物出土状況** 土師器片 559 点（楕 8、壺 56、高坏 107、甕 388）、土製品 2 点（土玉）、石器 1 点（砥石）。石製品 8 点（勾玉 1、白玉 1、有孔円板 1、劍形品 5）、滑石片 13 点 [15.60g] が全体の覆土中層から床面にかけて出土している。105 は貯藏穴 3 の覆土下層から、Q 124 は P 1 の覆土上層から、Q 126 は南部、Q 121 は東部の床面から、110・DP12 は北部、108・DP13 は西部、106・107・Q 119・Q 125 は南部、109・Q 120 は東部の覆土下層から、Q 122 は西部の覆土中層から、Q 123・Q 127 は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 時期は、出土土器から 5 世紀前葉と考えられる。



第 45 図 第 11 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第46図 第11号住跡出土遺物実測図(2)

第11号住跡出土遺物観察表(第45・46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
105	土師器	壺	88	79	-	長石・石英・赤色粘土	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜位へのラテラルナデ	剪土3層下層	100% PL8
106	土師器	壺	82	90	42	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外表面斜位のヘラ磨き 体部外横位へのラテラル磨き 内面ナデ	覆土下層	80% PL8
107	土師器	高杯	-	(80)	136	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面ヘラナデ	覆土下層	50%
108	土師器	甕	[160]	[76]	-	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	10%
109	土師器	甕	[184]	[109]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	40%
110	土師器	甕	[184]	(290)	-	長石・石英・磁輝	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外斜位のヘラナデ	覆土下層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP12	土玉	3.32	3.00	0.80	(19.75)	長石・石英・赤色粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	
DP13	土玉	3.00 ~ 3.20	3.11	0.80	27.07	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL12

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 121	白玉	0.49	0.19	0.17	0.08	滑石	両面平滑 全周研磨調整 中央部穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 119	砥石	(17.0)	15.3	5.6	(2.085)	砂岩	両面3面他1面は被削面	覆土下層	PL14
Q 120	勾玉	2.45	16.0	0.47	3.00	滑石	全面研磨調整 孔径0.15cm	覆土下層	PL12
Q 122	有孔円板	19.3	2.00	0.34	2.48	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔2か所 孔径0.11cm	覆土中層	PL12
Q 123	削形品	2.80	1.30	0.36	1.66	滑石	両面平滑 孔径0.21cm	覆土中	PL13
Q 124	削形品	4.30	2.20	0.60	9.10	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径0.19cm	P <sup>1</sup> 覆土上層	PL13
Q 125	削形品	2.90	1.77	0.44	2.98	滑石	全面研磨調整 未穿孔	覆土下層	PL13
Q 126	削形品 a	4.41	1.91	0.60	5.46	滑石	両面平滑 全面研磨調整 未穿孔	床面	PL13
Q 127	削形品 b	4.48	1.98	0.63	7.71	滑石	両面平滑 全面研磨調整 未穿孔	覆土中	PL13

### 第12号住居跡（第47図）

**位置** 調査区北東部のF 6a8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

**確認状況** 床面まで削平されているため、炉床と硬化した床の一部が露出した状態で確認した。

**規模と形状** 東西軸3.29m、南北軸2.22mしか確認できなかつた。平面形は不明である。

**床** 平坦で、炉の周囲が踏み固められている。

**炉** 確認できた床面の西部に位置している。長径88cm、短径64cmの楕円形で、深さ6cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第3層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

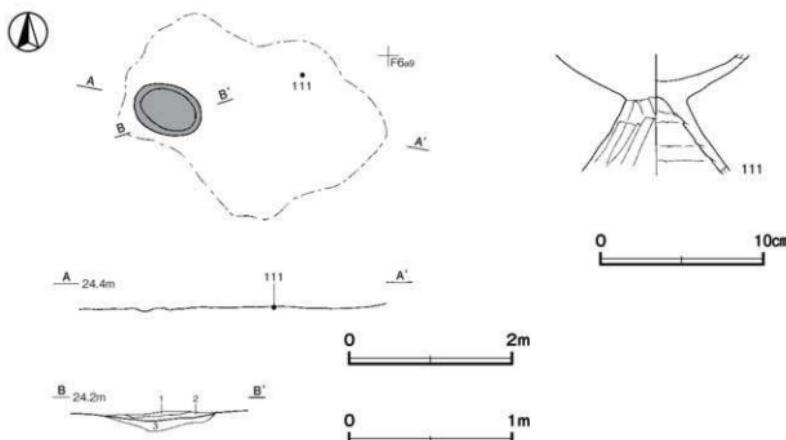
#### 炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

3 赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

**遺物出土状況** 土師器片34点（堆5、高环18、甕11）が炉周辺の床面から出土している。111は炉東側の床面から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第47図 第12号住居跡・出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第47図）

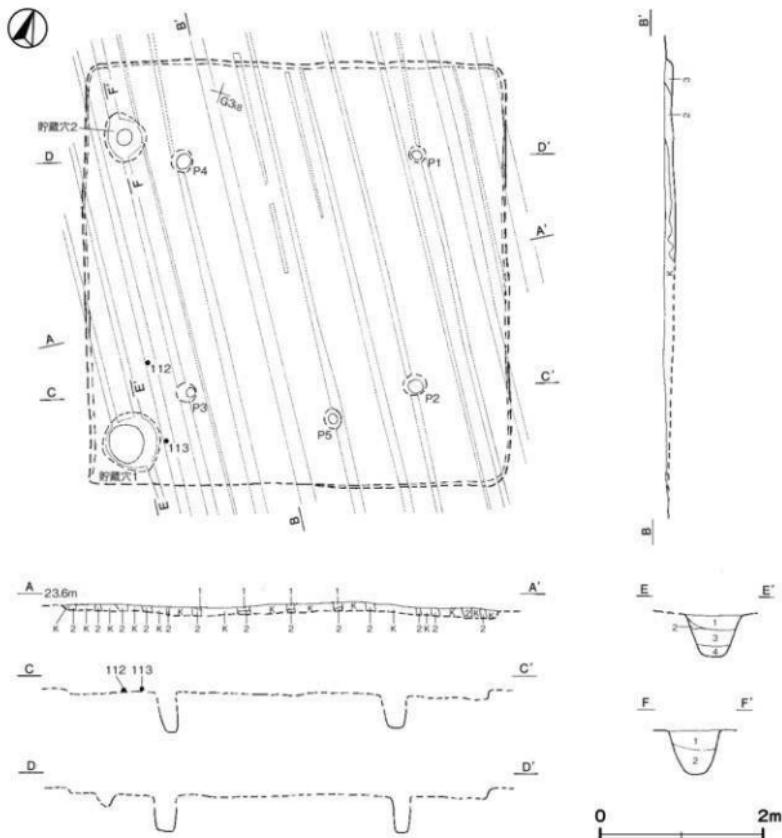
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	土器類	高環	-	(7.4)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	脚部外面ヘラナデ 内面磨滅調整不明 輪積痕	床面	30%

第17号住居跡（第48・49図）

位置 調査区南西部のG 3 i8 区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 全体に耕作による擾乱を受けているが、遺存している壁の立ち上がりから、一辺5.2mほどの方形で、主軸方向はN - 20° - Wと推定した。壁高は13cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、顕著な硬化面は認められない。



第48図 第17号住居跡実測図

**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ40～51cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ20cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

**貯蔵穴** 2か所。貯蔵穴1は南西コーナー部に位置している。径70cmほどの円形である。深さは55cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴2は北西コーナー部に位置している。径60cmほどの円形である。深さは57cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

**貯蔵穴1 土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量

**貯蔵穴2 土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量	2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
------------------------	----------------------

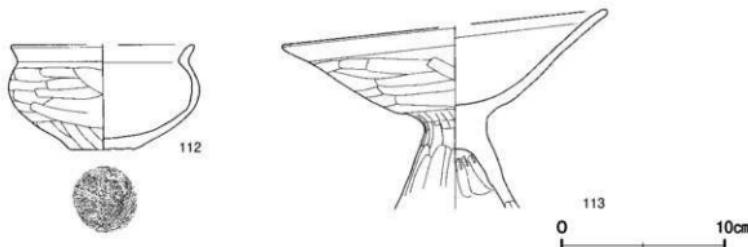
**覆土** 3層に分層できる。搅乱を受けている部分が多いため、堆積状況は不明である。

**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	

**遺物出土状況** 土師器片154点(楕15、壺16、高杯38、鉢1、甕84)が出土している。112・113は南部の覆土下層から出土している。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第49図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表(第49図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	楕	[112]	6.4	4.0	長石・石英・黄母	明赤褐	普通	口縁外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 内面削減調整不規	覆土下層	70% PL7
113	土師器	高杯	19.7	(128)	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ 体部外側削減調整不規	覆土下層	40%

第18号住居跡(第50図)

**位置** 調査区北部のE 6b5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

**規模と形状** 調査区域沿いから住居跡の一部を確認した。南西部が大きく削平されているが、床面の広がりから、住居跡の南西コーナー部と判断した。規模は北西・南東軸は3.32m、南西・北東軸は0.42mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と考えられ、主軸方向はN-83°-Wである。壁高は24cmで、外傾して立ち上がっている。

**床** 平坦で、顕著な硬化面は認められない。

**炉** 南西部に付設されている。耕作によって削平されており、長径は74cm、短径は推定で60cmの梢円形であり、深さ11cmの地床炉である。炉床は皿状に掘りくぼめ、第2・3層を埋土して構築されており、炉床面は火を受けて赤変色化している。

#### 炉土層解説

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| 1 細赤褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量   | 3 黄褐色 ローム粒子中量 |
| 2 細赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |               |

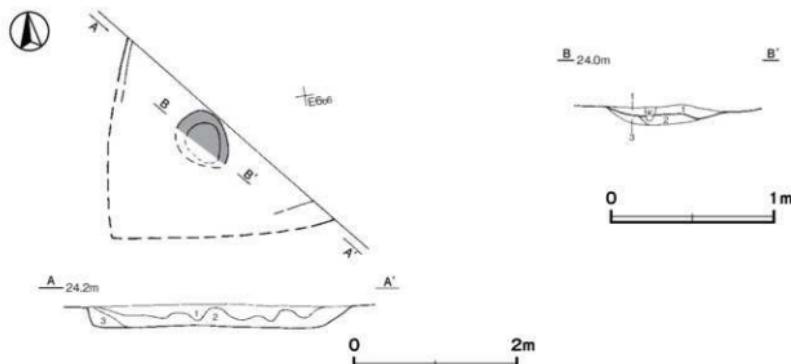
**覆土** 3層に分層できる。不規則な堆積状況であることから埋め戻されている。

#### 土層解説

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量 | 3 喧褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |                        |

**遺物出土状況** 土器片5点（高杯1、壺4）が覆土中から出土している。いずれも細片のため図示できない。

**所見** 時期は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。



第50図 第18号住居跡実測図

表3 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模		壁高 (m)	床面	壁溝	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径(m)	(m)				柱穴	玄入口	ピット	壁溝				
1	G54	方形	N-25°-W	8.66×8.50	36~60	地山	-	4	3	3	1	1	自然	土器器、石製品	5世紀中葉	
2	G59	方形	N-2°-E	5.86×5.83	25~32	地山	全周	4	1	5	3	1	人為	土器器、石器器、土製品	5世紀中葉	本跡→SK24-33-34-93-94
3	F52	[方形]	N-42°-W	7.95×[7.95]	60~92	地山	全周	5	1	-	1	3	自然	土器器、石器器、竹製品	5世紀中葉	
4	G48	方形	N-2°-E	5.42×5.40	30~36	地山	全周	4	-	1	1	2	人為	土器器、石製品、炭化種子	5世紀中葉	
5	G46	長方形	N-15°-W	6.00×4.37	28~42	地山	一部	-	-	-	2	1	自然	土器器、土製品、石器器	5世紀中葉	
6	G40	方形	N-37°-W	4.76×4.74	10~16	地山	-	-	-	-	-	1	人為	土器器、土製品	5世紀中葉	本跡→SK46
7	F66	方形	N-41°-W	6.54×6.40	31~37	地山	全周	4	1	1	1	2	人為	土器器、土製品、石製品	5世紀中葉	
8	F562	方形	N-64°-W	9.56×9.46	6~26	地山	全周	4	1	2	-	1	自然	土器器、石製品	5世紀中葉	本跡→SK167 SK166 深部不明
9	F563	長方形	N-67°-E	3.93×3.38	10~20	地山	全周	-	1	-	1	-	自然	土器器	5世紀中葉	
10	E62	方形	N-46°-W	6.78×6.61	54~62	地山	全周	4	1	-	1	1	自然	土器器、土製品、石製品	5世紀中葉	
11	E65	方形	N-61°-W	6.12×6.09	45~53	地山	全周	4	1	-	1	3	自然	土器器、土製品、石器器、石製品	5世紀中葉	SK150 新旧不明
12	F68	不明	-	[3.29×2.22]	-	地山	-	-	-	-	1	-	-	土器器	5世紀中葉	
17	G38	[方形]	N-20°-W	[5.22×5.18]	13	地山	-	4	1	-	-	2	不明	土器器	5世紀中葉	
18	E65	[方形]	N-83°-W	3.32×(0.42)	24	地山	-	-	-	-	1	-	人為	土器器	5世紀中葉	

### 3 その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから時期を決定できない遺構として、井戸跡1基、土坑134基、溝跡1条が存在する。以下、これらの遺構のうち特徴的なものについては文章で記述し、それ以外の遺構については一覧表を掲載する。

#### (1) 井戸跡

第1号井戸跡（第51図）

**位置** 調査区西部のF4i3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

**重複関係** 第84号土坑に掘り込まれている。

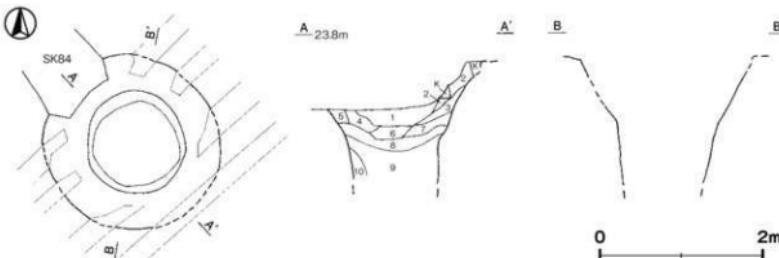
**規模と形状** 確認面は長径220m、短径210mの円形である。確認面から0.8mまで漏斗状に掘り込み、下部は径1.1mほどの円筒状に掘り下げている。深さ1.6mほどで湧水し、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

**覆土** 10層に分層できる。不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

##### 土層解説

	暗	褐	色	ローム粒子少量		6	暗	褐	色	ローム粒子少量	炭化粒子微量
1	暗	褐	色	ローム粒子多量		7	暗	褐	色	ローム粒子多量	炭化粒子微量
2	褐	褐	色	ロームブロック中量		8	褐	褐	色	ロームブロック多量	
3	暗	褐	色	ロームブロック少量		9	褐	褐	色	ローム粒子多量	炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック中量		10	褐	褐	色	ロームブロック多量	炭化粒子微量

**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明である。



第51図 第1号井戸跡実測図

#### (2) 土坑

今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑134基を確認した。以下、これらの土坑について一覧表を掲載する。

表4 その他の土坑一覧表

番号	位置	長辺方向	平面形	規 模		底 面	横 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長辺×短辺(m)	深さ(cm)					
1	F4i7	N-45°-W	【長方形】	(1.42) × 0.57	26	平坦	直立	人為	土師器	
2	F4g7	N-41°-W	長方形	4.08 × 0.64	36	平坦	直立 外傾	人為	土師器	
3	F4h8	N-40°-W	【長方形】	(2.46) × 0.76	30	平坦	外傾	自然		SK88 → 本跡 → SK86

番号	位 置	長辺方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 道 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
4	F419	N - 37° - W	椭円形	0.78 × 0.50	46	皿状	直立 外傾	人為		
5	F419	N - 40° - W	[長方形]	[1.76] × 0.58	22	平坦	外傾	人為	土師器	SK87 → 本跡
6	F410	N - 49° - E	椭円形	0.90 × 0.72	14	皿状	傾斜	人為		
7	F419	N - 40° - W	[長方形]	[5.61] × 0.62	28	平坦	外傾	人為	土師器、鉄製品	
8	G4c1	N - 55° - E	椭円形	0.90 × 0.60	36	平坦	外傾 傾斜	人為	土師器	本跡 → SK30
9	F410	N - 40° - W	[長方形]	[1.62] × 0.60	38	平坦	直立	人為	鉄製品	
10	F419	N - 43° - W	長方形	1.78 × 0.68	57	平坦	直立 外傾	人為	土師器	
11	F419	N - 45° - W	[方形・ 長方形]	0.62 × [0.58]	36	平坦	外傾	人為	土師器	
12	G4a6	N - 42° - E	不整格円形	1.80 × 1.08	72	平坦	外傾 傾斜	自然	石器	本跡 → SK89
13	G4b6	N - 55° - E	長方形	1.10 × 0.70	36	平坦	外傾 傾斜	人為	土師器	
14	G4b5	N - 52° - E	不整格円形	0.88 × 0.41	25	皿状	外傾 傾斜	人為		
15	G4a5	N - 33° - W	[椭丸長方形]	[1.35] × 0.59	52	平坦	外傾	人為		
16	F4j5	N - 4° - E	椭円形	0.70 × 0.61	14	皿状	傾斜	自然		
17	F4j5	-	不整円形	[0.35] × 0.33	25	皿状	外傾 傾斜	人為		
18	G4a5	N - 53° - E	[椭円形]	1.13 × [0.80]	41	平坦	外傾	人為		
19	G4a4	N - 45° - W	不定形	0.73 × 0.71	35	平坦	外傾	人為		
20	F4j4	N - 39° - W	長方形	1.45 × 0.63	43	平坦	外傾 傾斜	人為		
21	G4a4	N - 40° - W	椭丸長方形	3.27 × 0.67	15	平坦	外傾	人為		
23	F4j3	N - 34° - W	[椭円形]	(0.90) × 0.82	32	平坦	外傾	人為		SK85 新田不明
24	G5c8	N - 46° - E	椭丸長方形	1.38 × 0.93	36	平坦	傾斜	人為	土師器	SI 2 → 本跡
25	G3b0	N - 40° - E	長方形	2.76 × 0.38	18	平坦	直立 外傾 傾斜	人為	土師器、鉄製品	
27	G3e9	N - 38° - E	椭丸長方形	1.38 × 0.53	22	平坦	外傾 傾斜	自然	土師器、陶器	
28	G4b1	N - 50° - E	[椭円形]	1.94 × [1.46]	56	凹凸	外傾	人為		
29	G4b1	N - 51° - E	[椭円形]	2.16 × [1.30]	57	凹凸	外傾	人為		
30	G4b1	N - 53° - E	[椭円形]	2.14 × [1.38]	54	平坦	外傾	人為	土師器	SK 8 → 本跡
31	G4d1	N - 54° - E	[椭円形]	1.52 × [1.02]	95	平坦	外傾	人為		
33	G5c9	N - 53° - W	椭丸長方形	1.80 × 0.62	56	平坦	外傾	人為	土師器、埴忠器	SI 2 → SK93 → 本跡
34	G5d0	N - 51° - W	長方形	1.92 × 0.55	46	平坦	外傾	人為	土師器	SI 2 → SK94 → 本跡
36	G5i9	N - 31° - W	椭丸長方形	1.56 × 1.13	11	平坦	傾斜	人為	土師器	
37	G5j8	N - 51° - E	長方形	2.36 × 0.60	24	平坦	外傾	人為	土師器	
38	G5j8	N - 66° - E	椭円形	0.37 × 0.28	29	平坦	外傾	人為		
39	G5j8	N - 37° - W	長方形	1.78 × [0.50]	45	平坦	外傾	人為	土師器、鉄製品	
46	G4d0	N - 48° - E	椭丸長方形	[0.83] × 0.60	27	平坦	外傾 傾斜	人為	土師器、鉄製品	SI 6 → 本跡
47	G5d1	N - 53° - E	長方形	2.60 × 1.10	24	平坦	外傾	人為		
48	G5e2	N - 25° - W	不整格円形	1.07 × 0.94	28	皿状	外傾 傾斜	人為		
49	G5b2	N - 30° - W	椭円形	1.06 × 0.71	13	平坦	傾斜	人為		
52	G5a6	N - 48° - E	不整長方形	1.30 × 0.80	56	平坦	傾斜	人為		
53	G5b7	N - 45° - W	[長方形]	[1.27] × 0.60	69	平坦	外傾	人為	石器	
54	G5b7	N - 51° - E	長方形	1.42 × 0.73	43	平坦	外傾	人為		
55	G5b8	N - 51° - W	長方形	1.53 × 0.57	42	平坦	外傾	人為		
57	G5d8	-	円形	0.26 × 0.25	11	平坦	傾斜	人為		
59	G5d7	N - 42° - W	椭円形	1.02 × 0.45	38	皿状	外傾 傾斜	自然		
60	G5b6	N - 72° - W	不整格円形	0.65 × 0.44	28	平坦	外傾 傾斜	人為		
61	G5d6	N - 63° - W	椭円形	0.64 × 0.53	29	平坦	外傾	人為		
68	G5b5	N - 53° - E	椭丸長方形	2.42 × 0.73	27	平坦	外傾	人為		
75	F5b7	N - 56° - E	[椭円形]	2.03 × [1.58]	32	凹凸	外傾	自然	土師器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
76	F5e0	N - 56° - E	長方形	1.24 × 0.62	43	平坦	直立	人為	土師器	
77	F6f1	N - 48° - E	長方形	1.34 × 0.62	20	平坦	外傾	人為	土師器	
78	F6e2	N - 63° - E	長方形	1.22 × 0.56	26	平坦	外傾	人為	土師器	
79	F6g4	N - 76° - W	不整椎円形	2.34 × 1.05	59	平坦	傾斜	自然		
81	F6e5	N - 48° - E	楕丸長方形	3.02 × [0.65]	30	平坦	外傾	人為	土師器	
83	G3e9	N - 42° - E	長方形	1.38 × 0.54	24	平坦	外傾	人為	土師器	
84	F4i2	N - 39° - W	[楕丸長方形]	(2.40) × 0.87	58	平坦	外傾	人為		SE 1 → 本跡
85	F4i3	N - 50° - E	[楕円形]	1.24 × [0.80]	56	圓錐	傾斜	人為		SK23 新旧不明
86	F4b8	N - 42° - W	楕円形	1.00 × 0.70	28	平坦	直立	外傾	人為	SK 3 → 本跡
87	F4i9	N - 41° - W	[長方形]	[1.22] × 0.56	20	平坦	外傾	人為		本跡 → SK 5
88	F4b8	N - 3° - E	楕円形	2.22 × 0.74	94	平坦	外傾	人為		本跡 → SK 3
89	G4b6	N - 34° - E	[楕円形]	0.95 × [0.61]	46	平坦	外傾	人為		SK12 → 本跡
91	G5b2	N - 55° - W	楕円形	0.44 × 0.27	10	圓錐	外傾	人為		
93	G5e9	N - 45° - W	楕円形	1.37 × 0.70	72	平坦	外傾	人為	土師器、須恵器	SI 2 → 本跡 → SK23
94	G5d0	N - 50° - W	[長方形]	1.62 × (0.54)	52	平坦	外傾	人為	土師器	SI 2 → 本跡 → SK34
102	F5g4	N - 80° - W	楕円形	1.48 × 1.23	42	平坦	傾斜	自然		
103	F5b5	N - 45° - E	楕円形	1.47 × 0.69	49	平坦	外傾	人為	土師器	
104	F5e5	N - 9° - E	楕円形	1.44 × 0.90	58	平坦	外傾	傾斜	自然	
109	E5g3	N - 48° - E	長方形	1.58 × 0.50	13 - 29	平坦	外傾	人為		
110	E5g8	N - 52° - E	長方形	1.40 × 0.46	10 - 35	平坦	外傾	人為		
111	E5d3	N - 53° - E	[長方形]	1.53 × (0.32)	10	平坦	傾斜	人為		
112	E5f4	-	[円形、 楕円形]	0.64 × (0.42)	16	平坦	傾斜	人為		
113	E5d6	N - 34° - W	[長方形]	(1.77) × 0.75	52	平坦	外傾	人為		
114	E5g8	N - 35° - W	長方形	2.47 × 0.61	15	平坦	外傾	人為		
115	E5j6	N - 48° - W	長方形	2.42 × 0.66	43	平坦	外傾	人為	土師器	
116	E5j6	N - 41° - W	長方形	1.20 × 0.54	17	平坦	外傾	人為		
117	F5a7	N - 31° - W	長方形	1.33 × 0.48	55	平坦	外傾	人為	土師器	
118	F5a7	N - 37° - W	長方形	1.30 × 0.45	27	平坦	外傾	人為		
119	F5b7	N - 39° - W	長方形	1.17 × 0.50	10	平坦	傾斜	人為		
120	F5a8	N - 40° - W	長方形	1.01 × 0.61	17	平坦	傾斜	人為		
121	F5c8	N - 44° - E	長方形	1.17 × 0.48	33	平坦	外傾	人為		SK169 → 本跡
122	F5e8	-	円形	1.26 × 1.19	41	平坦	傾斜	人為		
123	F5e9	N - 58° - E	長方形	1.82 × 0.54	58	平坦	外傾	人為	土師器	
124	F5e9	N - 55° - E	長方形	1.38 × 0.60	44	平坦	外傾	人為	土師器、陶器	
125	F5d0	N - 51° - E	[長方形]	(1.36) × 0.63	29	平坦	外傾	人為	土師器	SK126 → 本跡
126	F5d0	N - 37° - W	[長方形]	(1.82) × 0.85	62	平坦	外傾	人為		本跡 → SK125
127	F5e0	N - 56° - E	長方形	1.64 × 0.73	47	平坦	外傾	人為		
128	F5e9	N - 50° - E	長方形	1.46 × 0.66	14	平坦	外傾	人為	土師器	本跡 → SK129
129	F5e9	N - 41° - W	長方形	1.36 × 0.68	29	平坦	外傾	人為		SK128 → 本跡
130	F5e9	N - 60° - E	長方形	1.24 × 0.60	30	平坦	外傾	人為		SK129 - 133 → 本跡 → SK131
131	F5e9	N - 56° - E	長方形	0.92 × 0.74	14	平坦	外傾	人為		SK130 - 133 → 本跡
132	F5e9	N - 55° - E	長方形	1.58 × 0.62	40	平坦	外傾	人為		本跡 → SK130 - 133 → 本跡
133	F5e9	N - 54° - E	長方形	(1.72) × 0.64	32	平坦	外傾	人為		SK132 → 本跡 → SK130 - 131
134	F5e9	N - 50° - E	長方形	1.05 × 0.68	25	平坦	外傾	人為	土師器	
135	F5e9	N - 42° - W	長方形	1.31 × 0.45	25	平坦	外傾	人為		
136	F6d1	N - 52° - E	長方形	0.74 × 0.48	27 - 40	平坦	外傾	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		裏面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
137	F6c1	N - 51° - E	長方形	1.13 × 0.49	36	平坦	直立	人為		
138	F6c2	N - 12° - W	椭円形	1.08 × 0.95	22	平坦	傾斜	自然		
139	E6j1	N - 48° - E	長方形	1.90 × 0.95	20	平坦	外傾	人為	土器	
140	E6j1	N - 42° - E	長方形	1.12 × 0.48	24	平坦	外傾	人為		本跡 → SK141
141	E6j1	N - 53° - E	長方形	2.05 × 0.63	30	平坦	外傾	人為		SK140・142 → 本跡
142	E6j1	N - 41° - W	長方形	(1.28) × 0.38	14	平坦	外傾	人為	土器	本跡 → SK141
143	E6j1	N - 38° - E	長方形	1.10 × 0.62	38	平坦	外傾	人為		
144	E6j2	N - 39° - E	長方形	1.82 × 0.72	30	平坦	傾斜	人為	土器	
145	E6j3	N - 41° - W	長方形	1.37 × 0.54	44	平坦	外傾	人為	土器	
146	E6j3	N - 46° - E	長方形	1.97 × 0.52	26	平坦	外傾	人為	土器	
148	E6j3	N - 31° - W	長方形	1.20 × 0.48	39	平坦	外傾	人為		
149	E6j3	N - 52° - E	長方形	1.20 × 0.42	35	平坦	外傾	人為		
150	E6g4	N - 43° - E	長方形	2.33 × 0.57	24	平坦	外傾	人為	土器	SI 11 新旧不明
154	E5g9	N - 38° - W	[方形・長方形]	0.45 × (0.43)	23	平坦	外傾	人為		
155	E5a0	N - 35° - W	[長方形]	(0.64) × 0.56	22	平坦	外傾	-		本跡 → SK156
156	E5a0	N - 50° - E	[長方形]	2.35 × (0.52)	50	平坦	外傾	人為		SK155・157 → 本跡
157	E5a0	N - 28° - W	[方形・長方形]	0.49 × (0.46)	42	平坦	外傾	人為		本跡 → SK156
159	E5c8	N - 30° - W	長方形	1.83 × 0.65	63	平坦	外傾	人為	土器	
160	D6j2	N - 38° - W	長方形	1.82 × 0.69	83	平坦	外傾	-		
161	D6j2	N - 57° - E	[方形・長方形]	0.87 × (0.27)	30	平坦	外傾	人為		
163	E6b1	N - 40° - W	長方形	1.11 × 0.53	38	平坦	外傾	人為		
164	E5k0	N - 31° - W	長方形	1.38 × 0.65	40	平坦	外傾	人為		
166	F5d3	N - 51° - W	圓丸長方形	1.10 × 0.89	20	平坦	傾斜	-	土器	SI 8 新旧不明
167	F5d2	N - 43° - E	椭円形	1.17 × 0.85	30	平坦	傾斜	-		SI 8 → 本跡
168	F5c8	N - 45° - E	[長方形]	(0.50) × 0.43	33	平坦	外傾	-		本跡 → SK169
169	F5c8	N - 45° - E	長方形	1.16 × 0.49	56	平坦	外傾	人為		SK168 → 本跡 → SK121
171	F5c8	N - 55° - E	長方形	1.25 × 0.54	56	平坦	外傾	人為		SK172 → 本跡
172	F5c7	N - 48° - E	圓丸長方形	1.35 × 0.46	25	平坦	外傾	人為		本跡 → SK171
174	G6d1	-	[円形・椭円形]	1.76 × (0.89)	53	平坦	傾斜	人為		
181	G4c8	N - 63° - W	椭円形	0.76 × 0.68	14	平坦	傾斜	自然		
182	G4c9	N - 67° - W	椭円形	0.62 × 0.52	22	平坦	外傾	人為		
183	F5a3	-	[円形・椭円形]	0.83 × (0.47)	65	墨状	傾斜	人為		
184	E6f8	-	円形	0.42 × 0.41	12	平坦	傾斜	人為		
187	E6f7	-	円形	0.40 × 0.38	20	平坦	傾斜	人為		
190	E6e8	N - 47° - W	長方形	1.28 × 0.45	45	平坦	直立	人為		
192	E6e7	-	円形	0.26 × 0.24	14	平坦	外傾	人為		
193	E6d8	N - 43° - W	[長方形]	1.48 × (0.50)	28	平坦	外傾	人為	土器	
194	E6d7	N - 47° - E	[長方形]	(0.82) × 0.56	32	平坦	外傾	人為		
195	E6b4	N - 58° - E	椭円形	0.30 × 0.27	15	墨状	傾斜	自然		

### (3) 溝跡

#### 第1号溝跡（第52図・付図）

位置 調査区西部のG 4a1～G 3c9区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 G 3c9の北部から北東方向（N - 40° - E）に直線状に延び、調査区域外に至っている。確認できた長さは14.50mである。規模は上幅0.50～0.86m、下幅0.20～0.52m、深さ20～25cmである。断面

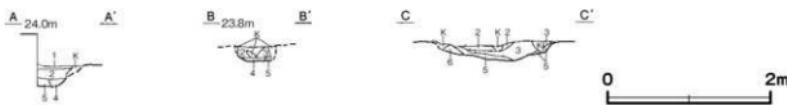
はU字状で、壁は緩やかに緩斜して立ち上がっている。底面の標高は、南西部が最も高く、北東部へ行くに従って低くなっている。南西端部との比高は12cmである。

**覆土** 6層に分層できる。不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック微量	4 暗褐色 ロームブロック極微量
2 暗褐色 ローム粒子少量	5 暗褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ローム粒子微量	6 暗褐色 ローム粒子多量

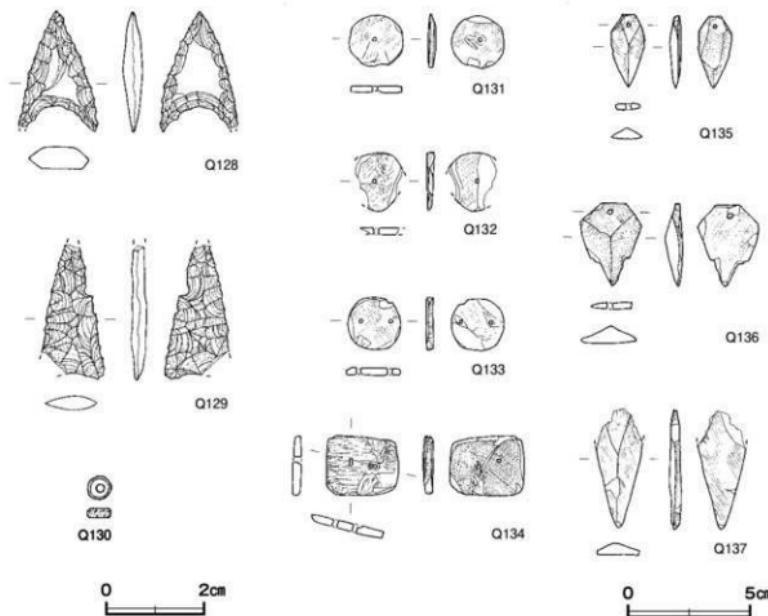
**所見** 時期は、遺物が出土していないため不明である。



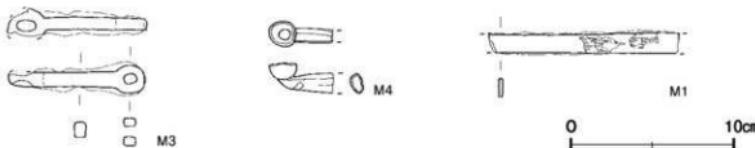
第52図 第1号溝跡実測図

(4) 遺構外出土遺物 (第53・54図)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第53図 遺構外出土遺物実測図（1）



第54図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第53・54図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 128	轍	2.43	1.58	0.39	(1.32)	頁岩	両面削磨調整 凹凸一部欠損	SI 6	PL12
Q 129	轍	(2.73)	(1.29)	0.32	(0.94)	頁岩	両面削磨調整 凹凸 基部欠損	表土	PL12
Q 131	有孔円板	2.15	2.23	0.25	2.39	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径 0.15cm	表土	PL12
Q 132	有孔円板	2.43	(1.95)	0.28	(1.89)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径 0.16cm 一部欠損	表土	PL12
Q 133	有孔円板	2.16	2.30	0.31	2.76	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔 2か所 孔径 0.14cm	表土	PL12
Q 134	有孔方板	2.51	3.06	0.38	5.60	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径 0.15cm	表土	PL12
Q 135	側形品	2.96	1.35	0.45	2.16	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径 0.13cm	表土	PL13
Q 136	側形品	3.35	2.47	0.71	5.28	滑石	両面平滑 全面研磨調整 孔径 0.15cm	表土	PL13
Q 137	側形品	(4.86)	1.91	0.54	(6.05)	滑石	両面平滑 全面研磨調整 一部欠損	表土	PL13

番号	器種	伴	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 130	臼玉	0.44	0.17	0.15	0.04	滑石	両面平滑 全面研磨調整 中央部穿孔	表土	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	刀子	(11.7)	1.2	0.3	(22.8)	鉄	刃部欠損 基部断面長方形 基部に本裏残存	SI 1	PL14
M 3	斧	8.5	(1.7)	0.9	(39.0)	鉄	喉部	SK18	PL14
M 4	鍔	(4.0)	1.5	1.8	(4.32)	銅	難覗	表土	PL14

## 第4節 ま　と　め

### 1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の陥し穴や古墳時代中期の住居跡、時期不明の井戸跡・土坑・溝跡などを確認できた。住居跡の時期は、出土土器から5世紀前葉から中葉に比定され、短期間に営まれた集落であることが明らかになった。遺物は、各遺構に関わる土師器類とともに、石製模造品（勾玉・白玉・有孔円板・有孔方板・劍形品）、鉄製品（鐵）、ガラス製品（白玉）、自然遺物（米・麦・豆）等が出土している。ここでは、赤太郎遺跡の時期や特徴を概観するとともに、古墳時代の周辺遺跡の様子、石製模造品を中心とする祭祀遺物と当地域との関わりについて若干の考察を加え、まとめたい。

### 2 遺跡の概要

縄文時代の陥し穴は、標高25mの台地平坦部を中心に3基確認できた。これらの陥し穴に規則的な配置は認められず、伴う遺物がないため、詳細な時期については不明である。陥し穴は、縄文時代にこの地が狩猟場であったことを物語っている。

古墳時代中期の住居跡は、標高25mの台地平坦部を中心に14軒確認できた。これらの住居跡は、調査区の中央部を中心とした広場を開むようにして楕円形状に配置されている。当遺跡と同じ霞ヶ浦南西部のつくば市に所在する根崎遺跡<sup>1)</sup>や島名ツバタ遺跡<sup>2)</sup>、下河原崎谷中台遺跡<sup>3)</sup>では、大形の住居跡と小形の住居跡が組になったり、単位集團のまとまりで集落を形成したりしている。当遺跡の住居跡間で、組になる住居跡や単位集團のまとまりは認められない。住居跡の時期は、出土土器から、5世紀前葉の住居跡は第11号住居跡の1軒のみで、そのほか13軒の第1～10・12・17・18号住居跡は5世紀中葉と考えられる。住居の重複はみられず、出土土器もおおむね同一時期であることから、当遺跡の古墳時代中期の集落は、一世代程度の短期間に廃絶されたと考えられる。

### 3 古墳時代における周辺遺跡の集落変遷

前述したように、当遺跡の集落は、5世紀中葉が中心である。しかし、赤太郎の地に集落を営んだ人々は、どこからこの地に移って来て、どこへ移っていったかは定かではない。当遺跡周辺で確認された古墳時代の集落の変遷を概観してみると（第55図）。薬師入遺跡<sup>4)</sup>では、古墳時代の住居跡が61軒確認されている。このうち3世紀中葉から4世紀前葉にかけての住居跡が35軒確認されており、集落は隆盛を迎えている。4世紀中葉から5世紀前葉の住居跡は10軒で、集落としての衰退はあるが、5世紀前葉から中葉にかけての住居跡が19軒確認されており、再び集落が栄える。篠崎遺跡<sup>5)</sup>では、古墳時代の住居跡が20軒確認されている。このうち、3世紀後半の住居跡が14軒、5世紀前葉が4軒、後期と6世紀後半が1軒ずつ確認されていることから、篠崎遺跡の集落の盛期は3世紀後半と考えられている。「茨城県教育財團文化財調査報告」第347集<sup>6)</sup>によれば、篠崎遺跡と薬師入遺跡における古墳時代前期の土器様相には、共通の特徴が見られることが紹介されている。また、両遺跡の集落変遷をみた場合、3世紀後半には薬師入遺跡から篠崎遺跡への流入があり、その後、5世紀中葉には篠崎遺跡から薬師入遺跡へ再び集約されたと考えられている。このことから、薬師入遺跡が当地域における古墳時代の拠点的集落ととらえている。花房遺跡<sup>7)</sup>は当遺跡からみて桂川を挟んだ対岸の台地縁辺部に位置する遺跡で、当遺跡と同時期にあたる5世紀中葉の住居跡が



第55図 古墳時代周辺遺跡集落分布図

2軒確認されている。ナギ山遺跡<sup>8)</sup>では5世紀後半から6世紀中葉にかけての住居跡が43軒確認されている。「茨城県教育財團文化財調査報告」第296集<sup>9)</sup>によれば、同時期の住居跡形態に大きな差異が認められず、集落は薬師入遺跡からナギ山遺跡へという動態を示すことも確認されることから、ナギ山遺跡と薬師入遺跡を一つの遺跡としてとらえている。手接遺跡<sup>10)</sup>では6世紀中葉と後葉の住居跡が2軒ずつ確認されている。これらの集落は、桂川に沿って点在していた集落である。

当遺跡周辺で確認された古墳時代の集落跡の中で、連綿と続く集落は、薬師入遺跡とナギ山遺跡である。薬師入遺跡やナギ山遺跡の周辺遺跡は、当遺跡をはじめ縹崎遺跡、桜立遺跡、花房遺跡や手接遺跡などの短期間または断続的な集落がほとんどである。このようなことから、薬師入遺跡やナギ山遺跡は、桂川流域に広がる古墳時代の拠点集落で、当遺跡を含む桂川流域の各集落は相互に関連していたことが想定される。

#### 4 赤太郎遺跡で確認された住居跡の特徴および祭祀具の移り変わり

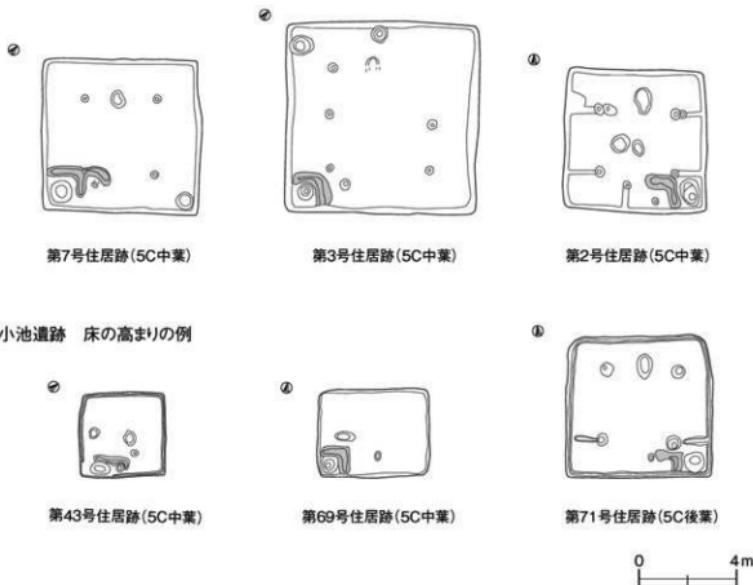
ここでは、当遺跡における住居跡の特徴である床の高まりと、当遺跡で出土した祭祀具の種類や数および遺構との関係、周辺遺跡における祭祀具の出土状況から石製模造品と土製模造品の消長についてみていくきた

い。

##### (1) 赤太郎遺跡で確認された住居跡の床の高まり

今回の調査においてまず注目できることは、住居の出入り口の周囲や貯蔵穴の周囲の床が、L字状や

### 赤太郎遺跡 床の高まりの例



第56図 赤太郎遺跡・下小池遺跡床の高まり比較図

N字状・T字状に硬化して高まっている住居跡が多いことである。床の高まりは、14軒のうち8軒（第2～5・7・8・10・11号住居跡）で確認されている。このような高まりは、周辺遺跡にも類例をみることができ、当遺跡から3km西側に位置している下小池遺跡<sup>11)</sup>でも確認されている。下小池遺跡は、乙戸川左岸の台地縁辺部に所在し、古墳時代の集落は4世紀初めに出現し、5世紀中葉から6世紀初頭にかけて盛栄している。当遺跡と下小池遺跡の高まりとを比較し、次のAタイプからCタイプの大きく3タイプに分類した。Aタイプは、貯蔵穴と出入り口の両方を意識したと考えられる高まり、Bタイプは、貯蔵穴のみを意識したと考えられる高まり、Cタイプは、出入り口のみを意識したと考えられる高まりの3種類である（第56図）。高まりの機能は不明であるが、当遺跡の第7号住居跡と下小池遺跡の第43号住居跡はAタイプに該当し、貯蔵穴と出入り口の両方を開むような高まりになっている。どちらも5世紀中葉の住居跡である。また、当遺跡の第3号住居跡と下小池遺跡の第69号住居跡はBタイプに該当し、住居コーナー部の貯蔵穴を開むようなL字状の高まりになっている。どちらも5世紀中葉の住居跡である。当遺跡の第2号住居跡と下小池遺跡の第71号住居跡はCタイプに該当し、住居出入り口部を開むようなL字状の高まりになっている。どちらの住居跡も、規模が約6mの方形であり、間仕切り溝が確認できること、高まりの東側に貯蔵穴が存在することも共通している。住居跡の時期は、第2号住居跡が5世紀中葉で、第71号住居跡が5世紀後葉であり、少々時期差がある。

(2) 赤太郎遺跡から出土した祭祀具の種類や数および遺構との関係

次に、当遺跡の住居跡内から出土した祭祀具と住居跡の時期、その堆積状況や焼失家屋であるか否かを住居ごとに分類し、表に示す（表5）。今回確認された古墳時代の住居跡は、5世紀前葉が1軒、5世紀中葉が13軒で、これらの住居跡からは多くの石製模造品が出土している。種別は、有孔円板が7軒の住居跡から合計11点、剣形品が6軒の住居跡から合計19点、白玉や勾玉などの玉類が7軒の住居跡から合計97点である。また、今回確認された14軒の住居跡のうち、11軒（第1～8・10・11・18号住居跡）が廃絶時に埋め戻された住居跡で、その中の7軒（第1～5・8・10号住居跡）が焼失家屋である。このほかに、第3～5号住居跡からは米や麦、豆などの炭化種子が出土している。これらの事実から、当集落では、住居廃絶の「節目」に石製模造品や土器とともに住居を埋め戻したり焼却したりする祭祀が行われていたと考えられる。

(3) 石製模造品と土製模造品の様相

最後に、当遺跡周辺で確認された5・6世紀代の古墳時代の集落を中心に、石製模造品と土製模造品の消長について見ていきたい。周辺遺跡の模造品の出土状況を記載する（表6）。

ア 5世紀前葉

篠崎遺跡、薬師入遺跡では、白玉、有孔円板、勾玉、剣形品、ガラス製の小玉が出土している。有孔円板は孔が1か所のものが多く見られる。剣形品はほとんどが両面にしのぎをもつ形式のものである。

イ 5世紀中葉

薬師入遺跡、下小池遺跡、花房遺跡では、白玉、有孔円板、勾玉、剣形品が出土している。白玉は算盤玉状のものが若干残る。剣形品のしのぎは片面である。このころから土玉の出土が目立つようになってくる。

ウ 5世紀後葉

薬師入遺跡、ナギ山遺跡、下小池遺跡では、白玉、有孔円板、勾玉、剣形品が出土している。下小池遺跡では石製の白玉が173点出土している。有孔円板は孔が2か所のものがほとんどである。

エ 6世紀前葉

薬師入遺跡、ナギ山遺跡、下小池遺跡では、白玉、有孔円板、勾玉、剣形品が出土している。ナギ山遺跡の第22号住居跡からは土製勾玉2点が出土している。

オ 6世紀中葉～後葉

石製模造品は確認されていない。ナギ山遺跡の第16号住居跡から、土製勾玉が出土している。

表5 赤太郎遺跡出土祭祀具一覧表

住居 番号	白玉		勾玉		剣形		算盤 玉		小玉		土玉		時期	堆 積 状況	焼 失
	石	土	石	土	石	土	石	土	石	土	白玉	土玉			
1 2			1	1		2							5中	人自	焼失
2 1				2									5中	人	焼失
3 20			1			4							5中	人自	焼失
4 19						1							5中	人	焼失
5			3			6					4		5中	人自	焼失
6													5中	人	
7 1			2								1		5中	人	
8 1													5中	人自	焼失
9													5中	自	
10			1			1					5		5中	人自	焼失
11 1			1	1		5					2		5前	人自	
12													5中		
17													5中		
18													5中	人	
合計	95		11	2		19					13				

表6 周辺遺跡出土祭祀具一覧表

5世紀前葉									
遺跡名	白玉 石	菅玉 土	円板 G	勾玉 石	劍形 土	鈴錘車 石	小玉 土	土玉 玉	垂玉
猿崎	1	1	3	1	1			1	
薬師入	43				4		G 3	2	
計	44	1	3	1	5		G 3	3	

5世紀中葉									
遺跡名	白玉 石	菅玉 土	円板 G	勾玉 石	劍形 土	鈴錘車 石	小玉 土	土玉 玉	垂玉
薬師入	10		1	1	2				
下小池	12		10		1			27	
花房				1					
計	22		11	2	3			27	

5世紀後葉									
遺跡名	白玉 石	菅玉 土	円板 G	勾玉 石	劍形 土	鈴錘車 石	小玉 土	土玉 玉	垂玉
薬師入			1						
ナギ山	8		12		2			24	
下小池	173		14	2	2			27	
計	181		27	2	4			51	

6世紀前葉									
遺跡名	白玉 石	菅玉 土	円板 G	勾玉 石	劍形 土	鈴錘車 石	小玉 土	土玉 玉	垂玉
薬師入	3			2					2
ナギ山	3			2	2				42
下小池	18			3	1		1		11
計	24			7	1	2	1		55

6世紀中葉									
遺跡名	白玉 石	菅玉 土	円板 G	勾玉 石	劍形 土	鈴錘車 石	小玉 土	土玉 玉	垂玉
ナギ山					1				5
手接									3
計						1			8

6世紀後葉									
遺跡名	白玉 石	菅玉 土	円板 G	勾玉 石	劍形 土	鈴錘車 石	小玉 土	土玉 玉	垂玉
手接									6
計									6

表5・6をもとに当遺跡やその周辺遺跡の模造品の出土傾向をみると、5世紀前葉から中葉にかけて出土する祭祀具は、石製模造品がほとんどである。下小池遺跡で土玉が27点確認されているが、当遺跡では、土製模造品の出土はほとんどみられない。5世紀後葉は、石製模造品が最も多く確認できる時期といえる。特に、ナギ山遺跡と下小池遺跡の白玉や有孔円板など、石製模造品の出土が目立つ。6世紀前葉になると、確認される石製模造品の数が減り、石製模造品と代わるよう、ナギ山遺跡で土製の勾玉が確認されるようになる点にも注目したい。6世紀中葉から後葉にかけては石製模造品は確認されず、6世紀前葉に続きナギ山遺跡で土製の勾玉が1点ではあるが確認されている。

東国における石製模造品の展開について、篠原祐一氏は、「石製模造品の工房が忽然と出現する5世紀中葉に畿内政権による東国經營が本格的に開始され、5世紀後葉から末葉に首長層を頂点とする社会構造の整備や地方での畿内の支配体制が確立した。」としている。そして、「5世紀後葉から6世紀前半にかけて、畿内政権は模造品生産者を帯同させ北上したことによって、彼らの模造品が雛型となり新規拠点地域での祖形となる特徴をもつ。」<sup>12)</sup>と指摘している。また、土製模造品の定義を、「石製模造品を用いた祭祀権を畿内から許諾されていない首長が主に用いたもので、石製模造品と内容的に類似性があるのは、それらの首長が畿内や地域首長の祭儀に参列し、その経験をもとに祭祀を執り行ったことによるものと考えられる。」<sup>13)</sup>としている。

当遺跡やその周辺における石製模造品の出土は、5世紀後葉に盛期を迎え、6世紀前葉の薬師入遺跡やナギ山遺跡・下小池遺跡で出土しているものを最後に、6世紀中葉以降は確認されなくなる。この傾向は当遺跡やその周辺ばかりではなく、同じ霞ヶ浦周辺の県南地区にも共通することが『茨城県教育財團文化財調査報告』第349集<sup>14)</sup>でも提示されている。これは、石製模造品の消長と一致しており、祭祀具は石製模造品から土製模造品へ転換していくと考えられる。この背景には、5世紀後葉以降、石製模造品を使用できる首長の存在が無かったことや、滑石流通の低迷、祭祀形態の変化、畿内政権の東国經營などの要因が関わっていた可能性が考えられる。

## 5 結び

今回の調査の成果は当遺跡南部の様相で、縄文時代の陥し穴や古墳時代中期の住居跡が確認できた。当遺跡で確認した古墳時代中期の住居跡の多くは、床に高まりをもっている。この特徴は、下小池遺跡と共にしていることがわかった。また、当集落は一世代程度の短期間で廃絶されていることや、この集落に住んだ人々は去り際に住居を焼却し、石製模造品を用いた祭祀的行為を行っている様子を垣間見ることができた。今後は、資料の増加をまってこの地域の当時の人の移動や住居形態、祭祀の様子や祭祀具の変遷について解明できることを期待したい。

### 註

- 1) 寺内久永「西栗山遺跡2 根崎遺跡2 莢丸一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第349集 2011年3月
  - 2) 皆川修「鳥名ワタ遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第203集 2003年3月
  - 3) a 高野裕里「元宮本前山遺跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月  
b 斎藤真弥「下河原崎谷中台遺跡 下河原崎高山古群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
  - 4) a 朝澤悦郎「薬師入道路 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第239集 2005年3月  
b 緒引英樹・小林悟「薬師入道路2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』『茨城県教育財団文化財調査報告』第296集 2008年3月
  - 5) 関島美「蘇崎遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第347集 2011年3月
  - 6) 註5) と同じ
  - 7) 緒引英樹・後藤孝行「谷ノ沢遺跡 手接遺跡、花房遺跡、大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書VI」『茨城県教育財団文化財調査報告』第212集 2004年3月
  - 8) a 石川義信・後藤孝行「ナギ山遺跡1・柏峰B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第233集 2005年3月  
b 栗田功「ナギ山遺跡2 (仮称) 阿見東I-CランプB区间整備事業地内埋蔵文化財調査報告」『茨城県教育財団文化財調査報告』第277集 2007年3月
  - 9) 註4) b) と同じ
  - 10) 註7) と同じ
  - 11) 小竹茂美・楢田祐一・浦和敏郎「下小池遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書IV」『茨城県教育財団文化財調査報告』第210集 2004年3月
  - 12) 篠原祐一「滑石の生産と使用をつなぐ視点」『古墳時代の滑石製品 -その生産と消費-』 第54回埋蔵文化財研究集会事務局 2005年9月
  - 13) 篠原祐一「マツリで使われる石製模造品と土製模造品」「土製模造品から見た古墳時代の神マツリ」山梨県考古学協会 2008年11月
  - 14) 註1) と同じ
- 参考文献
- ・阿見町史編さん委員会『阿見町史』阿見町 1983年3月
  - ・櫻村宣行「和泉式土器編年考 -茨城県を中心として-」『研究ノート5号』茨城県教育財団 1996年6月
  - ・酒井雄一・渡邊浩実・斎藤貴史・清水哲「鳥名熊の山道跡 鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XIII』『茨城県教育財团文化財調査報告』第280集 2007年3月
  - ・舟橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第336集 2011年3月
  - ・櫻村宣行「茨城の概要」「古墳時代の祭祀 -祭祀関係の遺跡と遺物-」東日本埋蔵文化財研究会 1993年3月

写 真 図 版

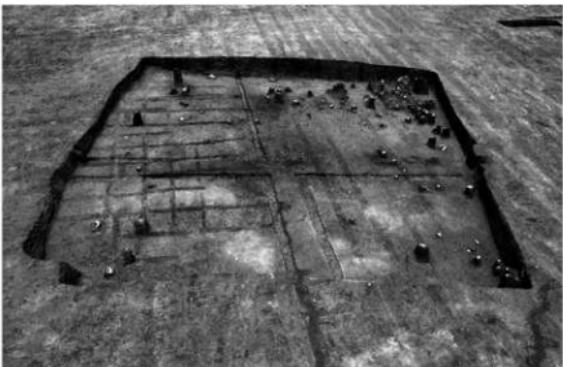


調査区全景





第2号陥し穴  
完掘状況



第1号住居跡  
遺物出土状況



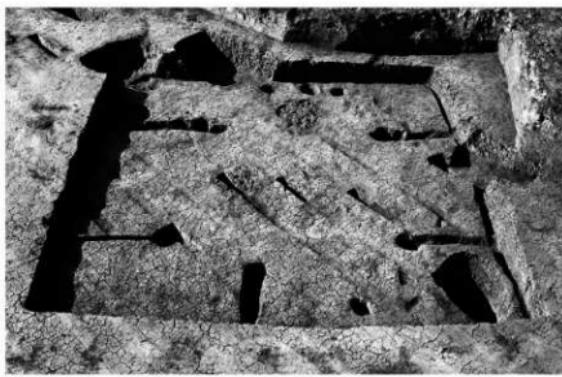
第2号住居跡  
遺物出土状況



第2号住居跡  
遺物出土状況

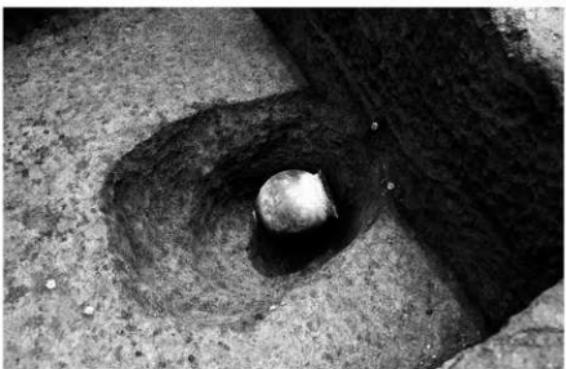


第2号住居跡  
貯藏穴  
遺物出土状況



第2号住居跡  
完掘状況

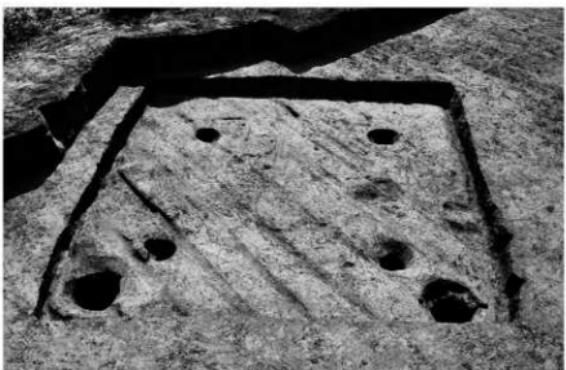
第3号住居跡  
貯藏穴2  
遺物出土状況



第3号住居跡  
貯藏穴3  
遺物出土状況



第4号住居跡  
完掘状況



PL4



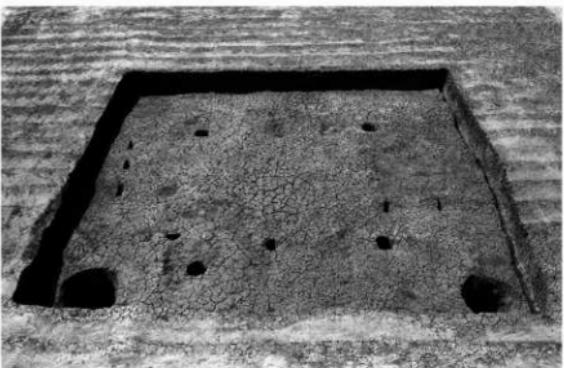
第5号住居跡  
遺物出土状況



第7号住居跡  
遺物出土状況



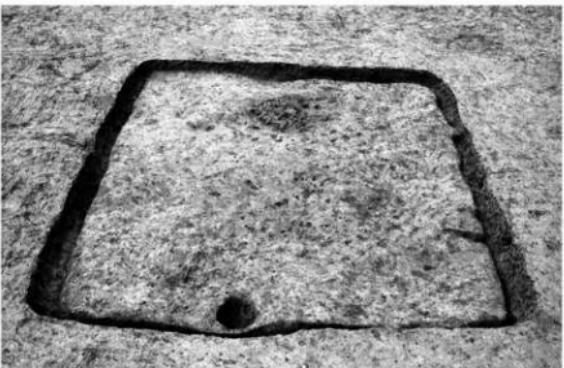
第7号住居跡  
貯藏穴2  
遺物出土状況



第 7 号 住 居 蹤  
完 挖 状 況

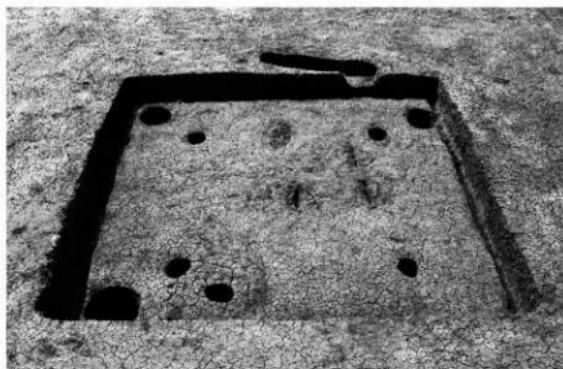


第 9 号 住 居 蹤  
遺 物 出 土 状 況



第 9 号 住 居 蹤  
完 挖 状 況

PL6



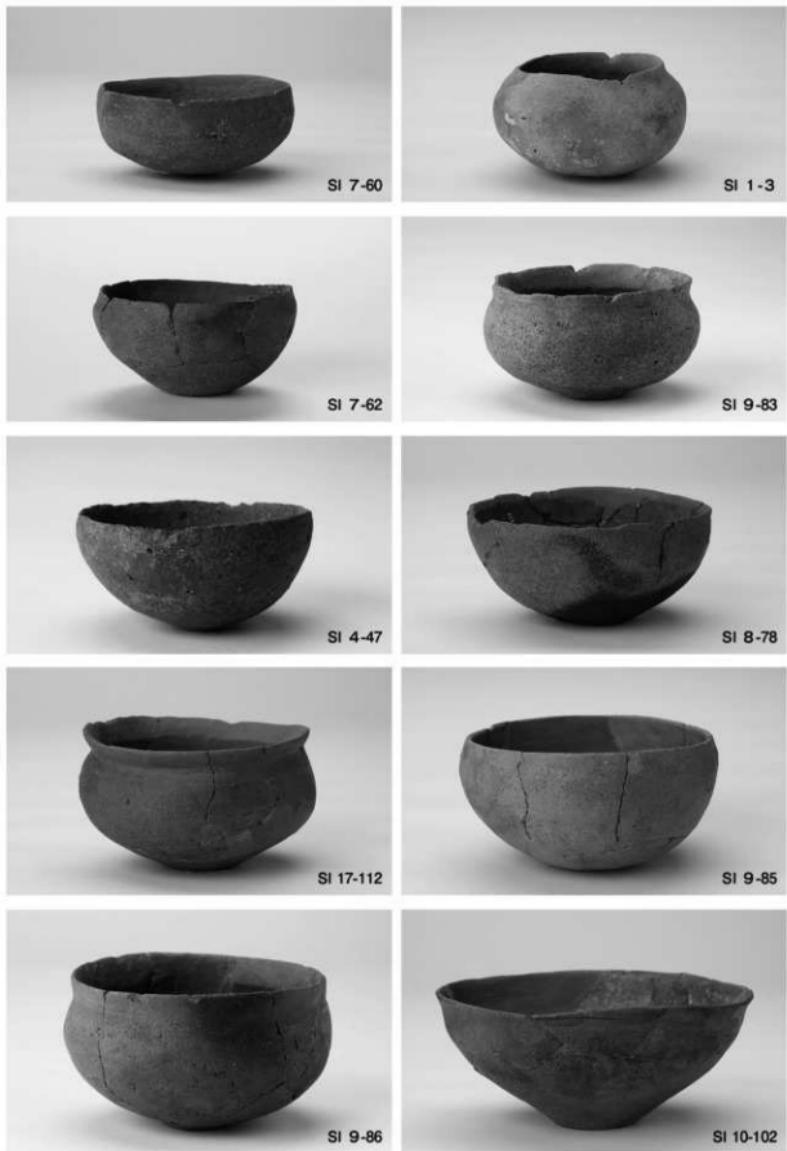
第11号住居跡  
完掘状況



第1号井戸跡  
完掘状況



第1号溝跡  
完掘状況



第1・4・7~10・17号住居跡出土土器



SI 11-105



SI 8-79



SI 11-106



SI 7-64



SI 3-36



SI 7-65



SI 7-66



SI 3-38



SI 4-50



SI 3-44



SI 2-21



SI 3-43



SI 5-53



SI 7-71

第2~5・7号住居跡出土土器

PL10



SI 2-22



SI 2-23



SI 2-25



SI 3-46



SI 2-28



SI 2-27

第2・3号住居跡出土土器

PL11



SI 3-45



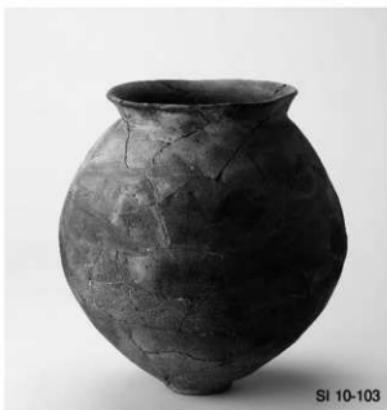
SI 7-73



SI 7-75



SI 7-76



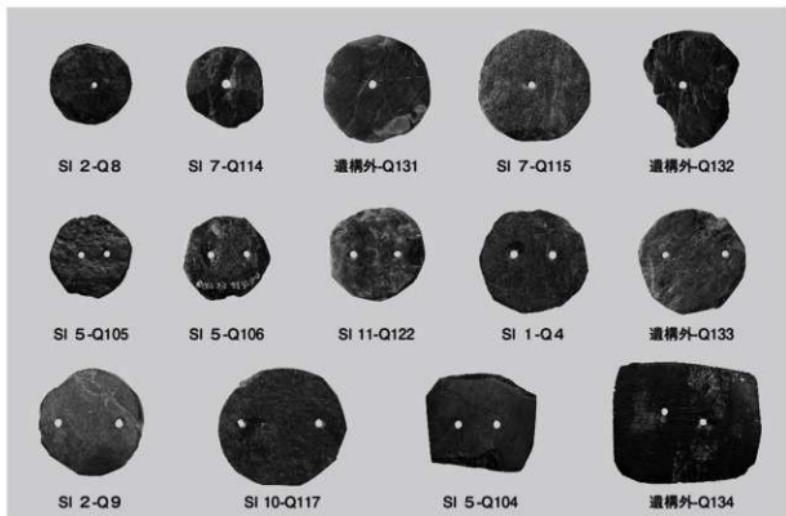
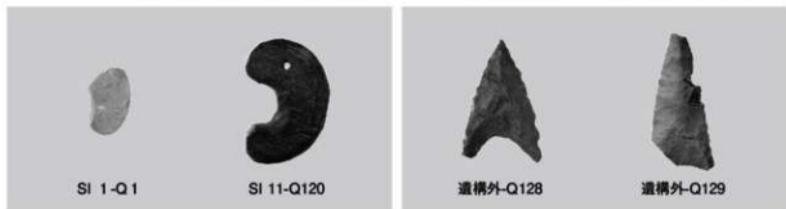
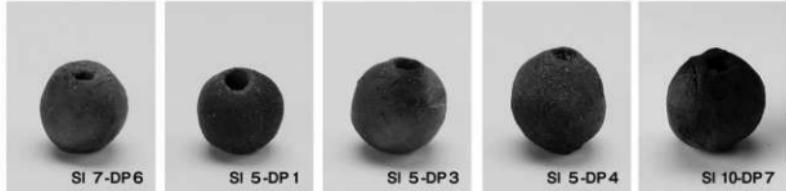
SI 10-103



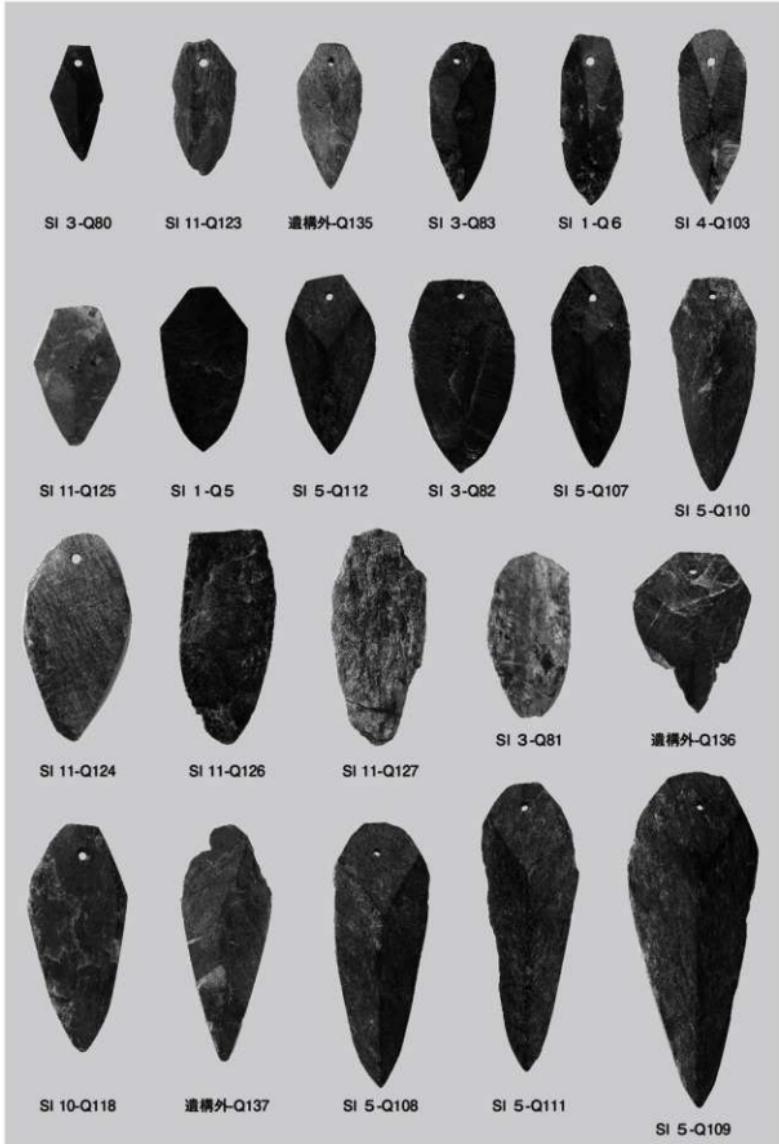
SI 9-91

第3·7·9·10号住居跡出土土器

PL12



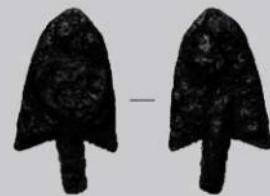
出土土製品、石器、石製品



出土石製品



遺構外-M 1



SI 3 -M 2



遺構外-M 3



遺構外-M 4



白玉集合



SI 11-Q119

出土石器，石製品，鐵製品，銅製品

## 抄 錄

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7  
Home Premium Service Pack 1  
レイアウト Adobe InDesign CS4  
図版作成 Adobe Illustrator CS4  
写真調整 Adobe Photoshop CS4  
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED  
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本  
Adobe InDesign CS4  
印 刷 オフセット印刷  
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線  
・印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトしたものに入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第377集

赤太郎遺跡

阿見吉原東土地区面整理事業  
地内埋蔵文化財調査報告書

平成25(2013)年 3月12日 印刷

平成25(2013)年 3月15日 発行

発行 公益財團法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社

〒311-4152 水戸市河和田1丁目1704番12号

TEL 0120-23-1473